

平成30年度 学生意識総合調査

調 査 結 果 報 告 書

昭 和 大 学

目次

平成 30 年度（第 4 回）学生意識総合調査について	1
平成 30 年度「学生意識総合調査」アンケート実施日程および学部別回答率 . .	3
学部・学年・男女別回答率一覧	4
集計結果	5
A. 基本的構成（No. 1～No. 4）	6
B. 大学について（No. 5～No. 8）	7
C. 全寮制教育（No. 9～No. 18）	11
D. 学生生活（No. 19～No. 36）	21
E. 日常生活全般（No. 37～No. 52）	39
F. 課外活動（No. 53～No. 59）	55
G. 経済状況及び奨学金（No. 60～No. 66）	62
I. キャリア支援（No. 67～No. 70）	69
J. 教育施設に関する事項（No. 71～No. 80）	73

【平成30年度（第4回）学生意識総合調査について】

1. 目 的

昭和大学は、昭和3年の創立以来、建学の精神である「至誠一貫」に基づき、“まごころ”を尽くす質の高い医療人の育成を理念とする教育を行ってきた。平成30年度に創立90周年を迎え、医系総合大学として社会の要請に応える人材を輩出し、大学の活性化とさらなる飛躍を期するためには、教育と学生支援の質の向上が必要不可欠である。

平成30年度（第4回）学生意識総合調査は、大学評価向上の一環として、本学学生の意識・生活実態を定点観測し、これ把握し分析することを通じて、学生の満足度を高める教育・学生生活・環境を創出していく基礎とすることを目的に全学的規模で実施した。

今後も、この調査は定期的（3年毎）に実施し、学生を取り巻く社会環境や意見の変化を的確に把握し、学生サービスの向上政策に生かしていくものである。

2. 方 法

本学に在籍する学部学生1～6年次を対象として全数調査とし集合調査法で実施した。また、アンケート回答方法として、マークシートによる5者選択（択一と複数選択の併用）、無記名回答形式とした。（アンケート未回答者を追跡するため、回答後、名前の入った封筒にマークシートを入れて提出させた。データ抽出時、封筒からマークシート取り出し封筒は処分した。）

実施時期は、回収率100%を目指すため、主に平成30年7月～12月の各学部学年の学生が集合する日とした。調査項目は、①基本的構成、②大学について、③全寮制教育、④学生生活、⑤日常生活全般、⑥課外活動、⑦経済状況および奨学金、⑧キャリア支援、⑨教育施設に関する事項の計9項目に分類され、設問数は80問である。

アンケートの集計結果は、分析・検証を行い、学生の意見を基にした現状における本学の教育および学生支援等の問題点を明らかにし、今後の改善と方策について考察した。

3. データ集計について

以下の基準を定めて集計を行った。

- (1) 設問 1 学部、設問 2 学科、設問 3 学年、設問 4 性別に関する誤記について、学生の属性が明確なものは正しい選択に変更した。
- (2) 回答率（％）の数値は小数点 2 桁で四捨五入した。
- (3) 回答率（％）の分母は、アンケート回収枚数（無効回答・無回答を含めた数）とした。
- (4) ろ過的設問（回答項目を限定しさらに別の設問を行う設問）では、親設問への回答が不適切な場合は付随する子設問を無効とした。
- (5) 単一回答方式にもかかわらず誤って複数回答された場合もその実数を採用し、アンケート回収枚数を分母とした数を超えた場合は、各設問の選択者数比率を維持したまま超過数を切り捨てた。
- (6) 複数回答方式の設問項目では、検算が困難であるため、無効回答・無回答を計算していない。
一部、実数で表記している。

※ 無効回答：選択肢以外の記入欄をマークした回答
無回答：回答無し

平成30年度「学生意識総合調査」アンケート実施日程および学部別回答率

【全 体】

調査対象学生数(1年～6年):3,186人 回答者数:3,120人 回答率(全体平均):97.9%

【学部別内訳】

● 医 学 部

学年	実施日	対象者数			回答者数			回答率
		男	女	合計	男	女	合計	
1年	12月14日(金)	84	36	120	85	34	119	99.2%
2年	8月29日(水)	90	42	132	88	44	132	100.0%
3年	9月3日(月)	86	34	120	86	34	120	100.0%
4年	9月21日(金)	86	36	122	77	29	106	86.9%
5年	10月26日(金)	87	28	115	88	27	115	100.0%
6年	10月3日(水)	86	32	118	84	32	116	98.3%
合 計		519	208	727	508	200	708	97.4%

● 歯 学 部

学年	実施日	対象者数			回答者数			回答率
		男	女	合計	男	女	合計	
1年	12月14日(金)	41	56	97	40	56	96	99.0%
2年	11月9日(金)	51	53	104	51	52	103	99.0%
3年	10月23日(火)	50	54	104	48	53	101	97.1%
4年	12月3日(月)	52	55	107	48	55	103	96.3%
5年	10月29日(月)	56	43	99	50	43	93	93.9%
6年	10月2日(火)	52	49	101	51	50	101	100.0%
合 計		302	310	612	288	309	597	97.5%

● 薬 学 部

学年	実施日	対象者数			回答者数			回答率
		男	女	合計	男	女	合計	
1年	12月14日(金)	58	164	222	58	161	219	98.6%
2年	11月2日(金)	38	166	204	37	158	195	95.6%
3年	9月4日(火)	44	154	198	38	153	191	96.5%
4年	9月7日(金)	45	135	180	45	135	180	100.0%
5年	11月12日(月)	35	142	177	31	140	171	96.6%
6年	10月30日(火)	50	172	222	50	171	221	99.5%
合 計		270	933	1203	259	918	1177	97.8%

● 保健医療学部

看護学科

学年	実施日	対象者数			回答者数			回答率
		男	女	合計	男	女	合計	
1年	12月14日(金)	10	87	97	10	86	96	99.0%
2年	7月27日(金)	5	99	104	5	99	104	100.0%
3年	7月30日(月)	10	97	107	10	97	107	100.0%
4年	8月30日(木)	7	94	101	7	91	98	97.0%
合 計		32	377	409	32	373	405	99.0%

理学療法学科

学年	実施日	対象者数			回答者数			回答率
		男	女	合計	男	女	合計	
1年	12月14日(金)	10	26	36	10	26	36	100.0%
2年	7月27日(金)	16	21	37	15	21	36	97.3%
3年	7月27日(金)	17	20	37	17	20	37	100.0%
4年	9月19日(水)	19	18	37	19	18	37	100.0%
合 計		62	85	147	61	85	146	99.3%

作業療法学科

学年	実施日	対象者数			回答者数			回答率
		男	女	合計	男	女	合計	
1年	12月14日(金)	7	21	28	7	21	28	100.0%
2年	7月27日(金)	6	16	22	5	16	21	95.5%
3年	7月27日(金)	3	10	13	3	10	13	100.0%
4年	10月15日(月)	4	21	25	4	21	25	100.0%
合 計		20	68	88	19	68	87	98.9%

学部・学年・男女別 回答率一覧

1. 学部別

学部	対象者数			回答者数			回答率
	男	女	合計	男	女	合計	
医学部	519	208	727	508	200	708	97.4%
歯学部	302	310	612	288	309	597	97.5%
薬学部	270	933	1,203	259	918	1,177	97.8%
保健医療学部	114	530	644	112	526	638	99.1%
全体	1,205	1,981	3,186	1,167	1,953	3,120	97.9%

2. 学年別

学部	対象者数			回答者数			回答率
	男	女	合計	男	女	合計	
1年	210	390	600	210	384	594	99.0%
2年	206	397	603	201	390	591	98.0%
3年	210	369	579	202	367	569	98.3%
4年	213	359	572	200	349	549	96.0%
5年	178	213	391	169	210	379	96.9%
6年	188	253	441	185	253	438	99.3%
全体	1,205	1,981	3,186	1,167	1,953	3,120	97.9%

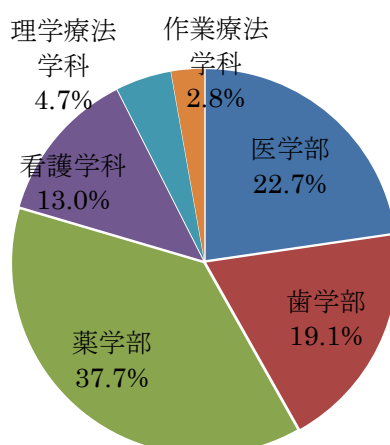
3. 男女別

性別	対象者数	回答者数	回答率
男	1,205	1,167	96.8%
女	1,981	1,953	98.6%
全体	3,186	3,120	97.9%

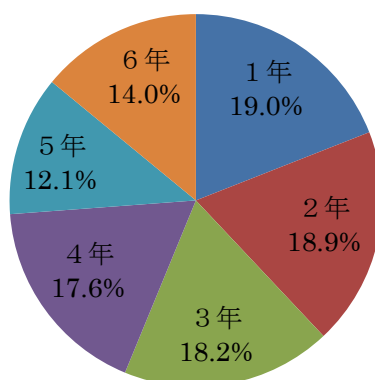
A. 基本的構成（No. 1～4）

1. 学部

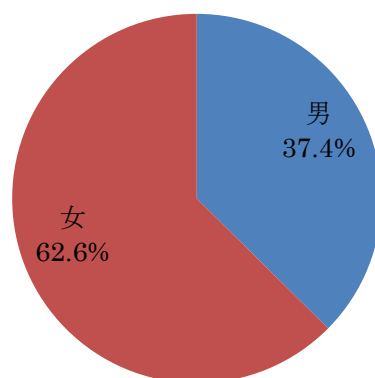
2. 学科



3. 学年



4. 性別



調査対象となる学生数は、1学年～6学年の学部学生3,186人で回答者数は3,120人、回答率97.9%であった。

（各学部・学年・性別ごとの在籍学生数、回答者数・回答率は3ページ参照）

集計結果

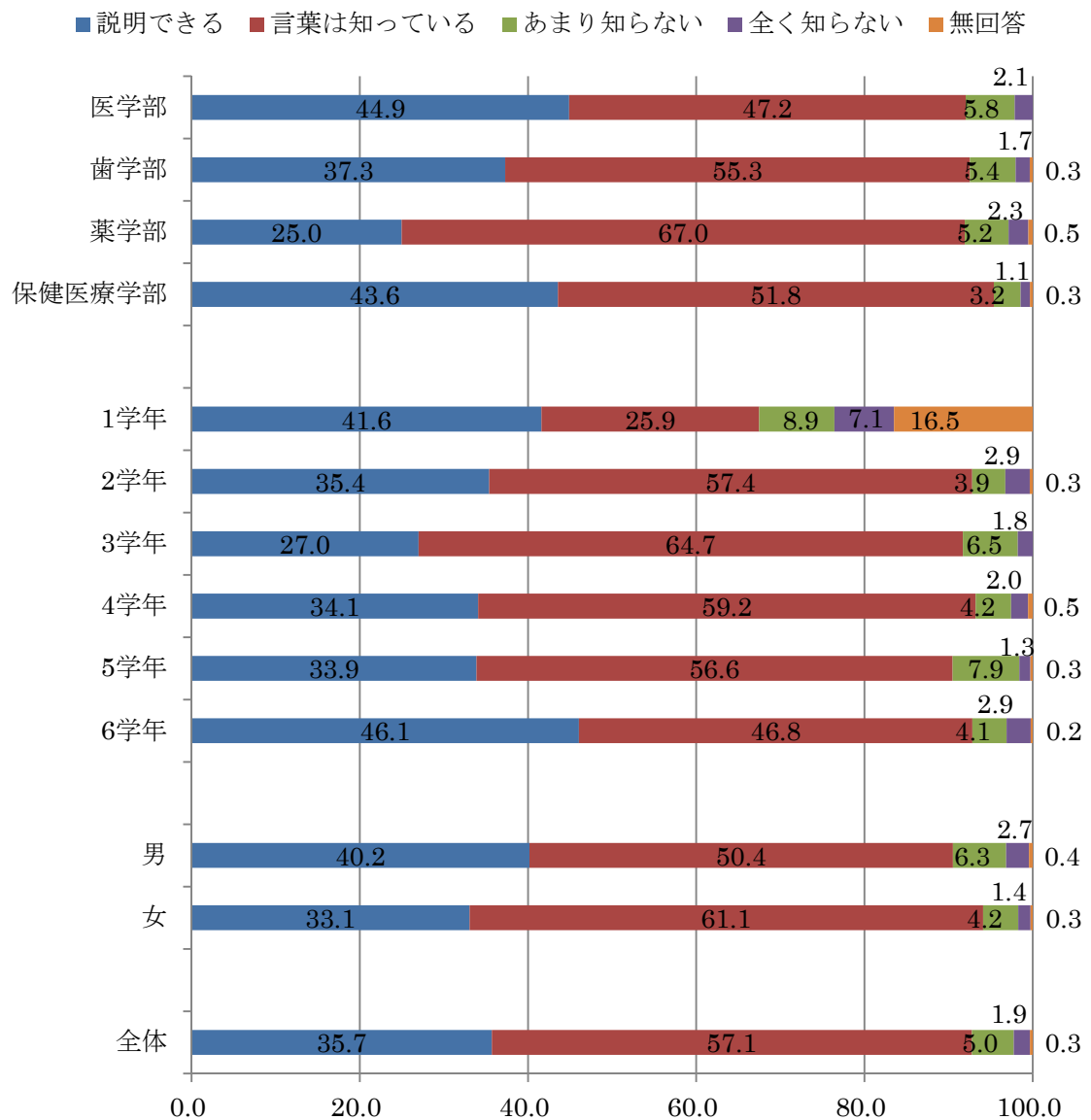
A. 基本的構成 (No. 1~4)

1. 学部

2. 学年

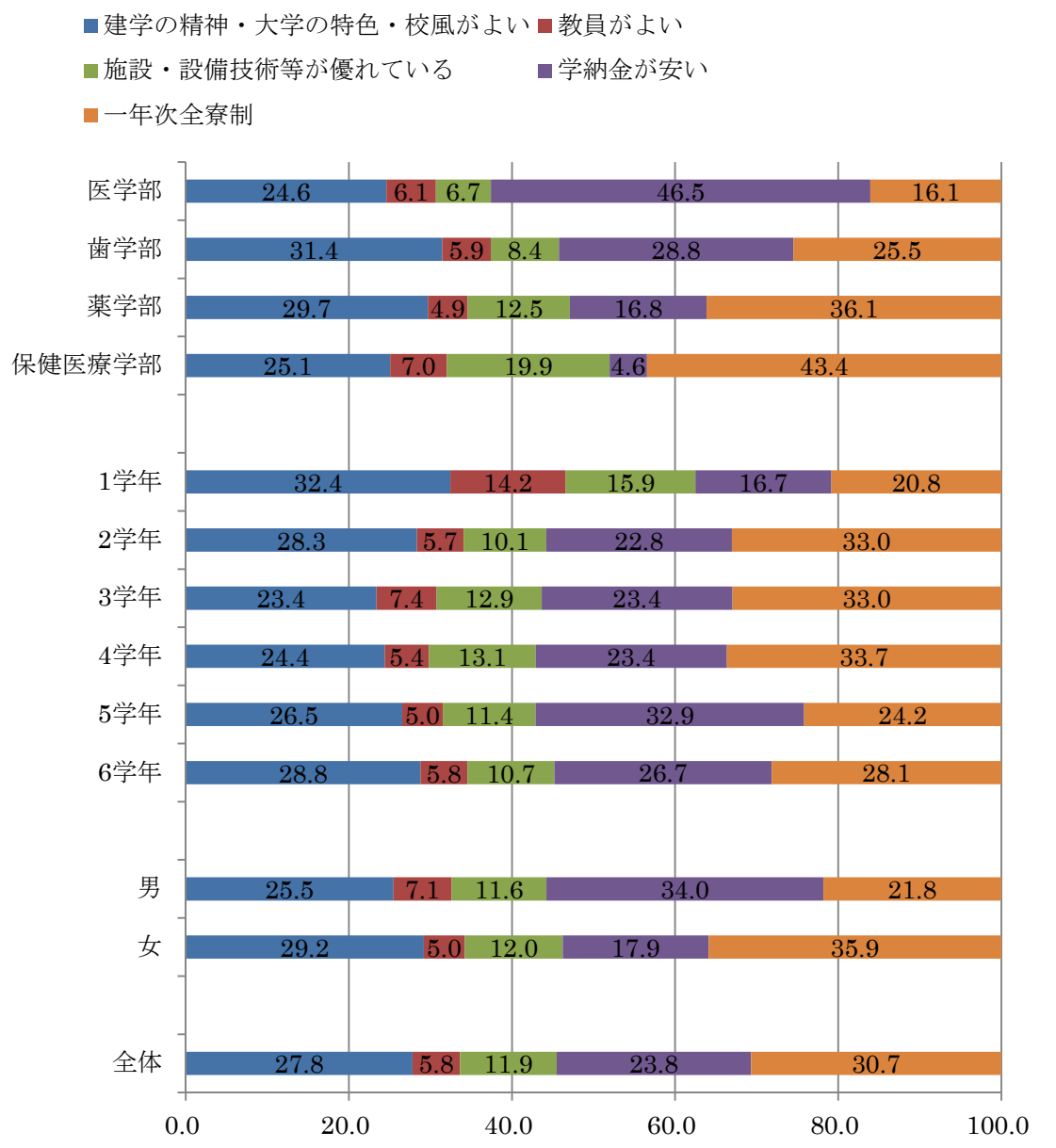
3. 性別

5. 昭和大学の理念「至誠一貫」について

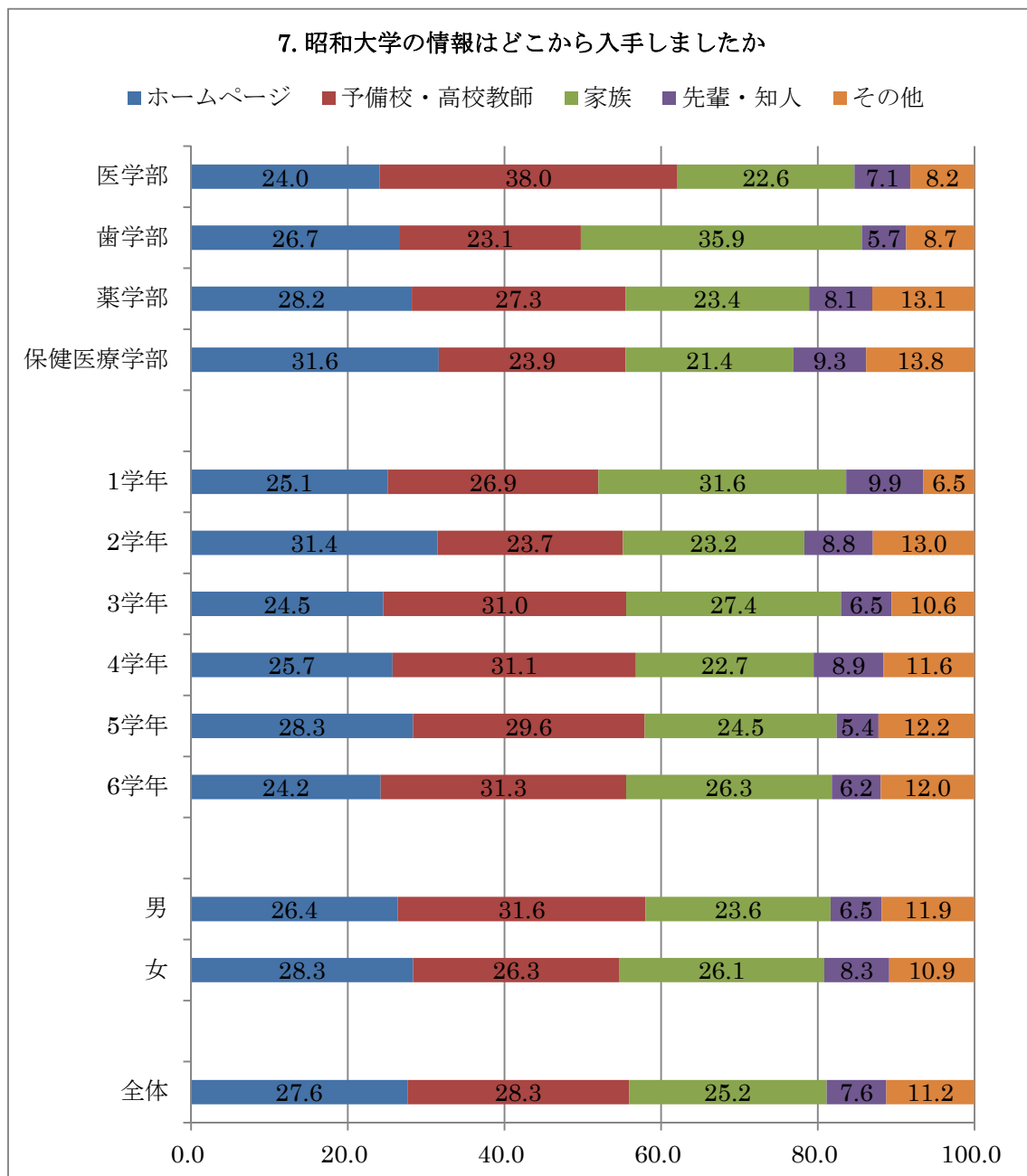


学部別に「至誠一貫を説明できる」の割合をみると、医学部が 44.9%と最も高く、平成 27 年に実施した調査の時最も低かった保健医療学部が 43.6%と、大きく割合が伸びた。学年別にみると、学年があがるにつれ増加する傾向にある。

6. 昭和大学を志望した理由 *複数回答可

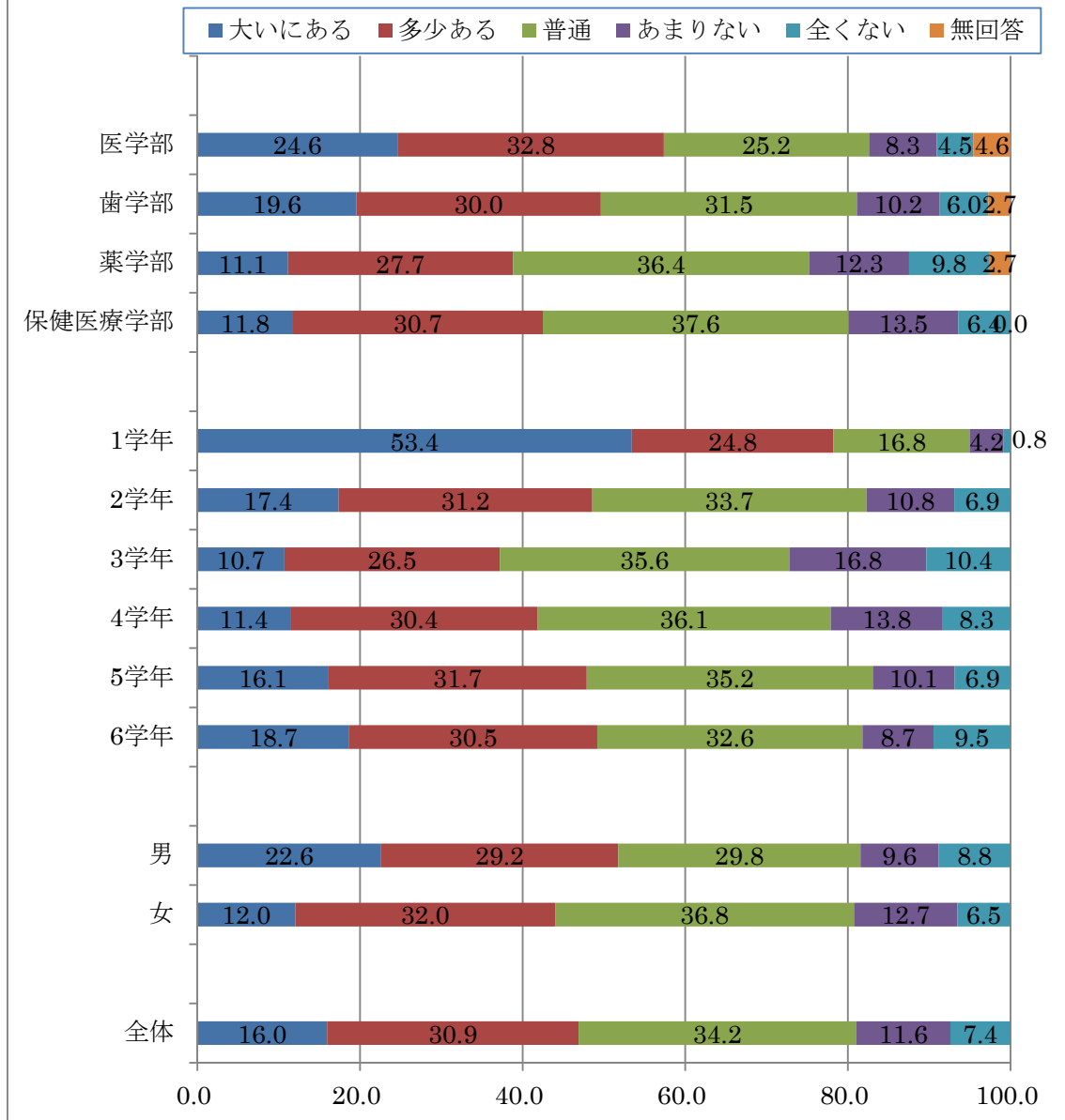


昭和大学を志望した理由としては、医学部では学納金の安さ、歯学部では建学の精神・校風、薬学部と保健医療学部では全寮制が一位を占める。薬学部が全寮制を一位とした以外は、前回の調査と同様である。

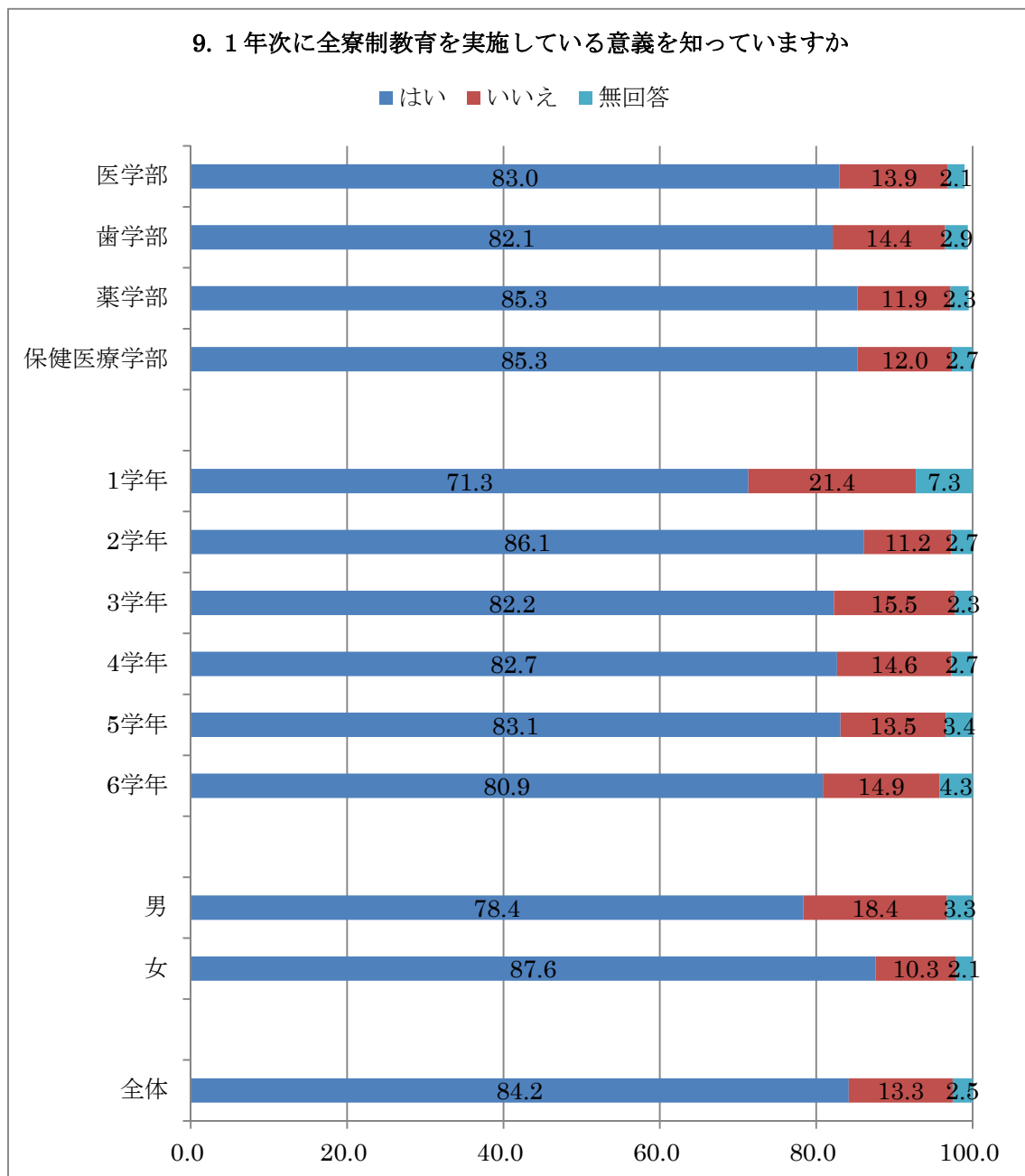


学部別に昭和大学の情報入手先をみると、医学部では予備校・高校教師が最も多く、歯学部では家族、薬学部と保健医療学部ではホームページが一位を占める。これらの結果は、前回の調査結果と同様である。

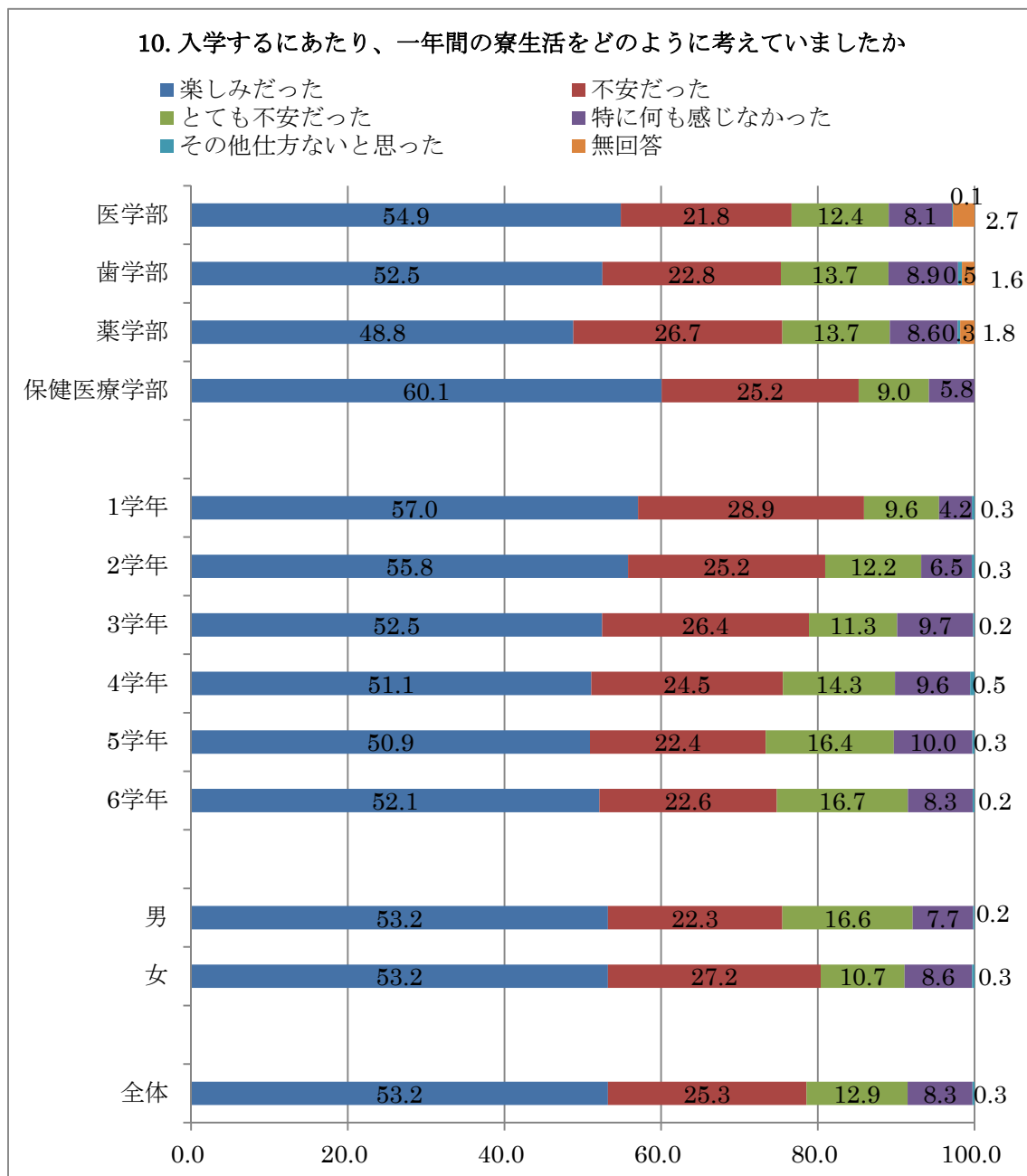
8. 昭和大学に対する愛着度について



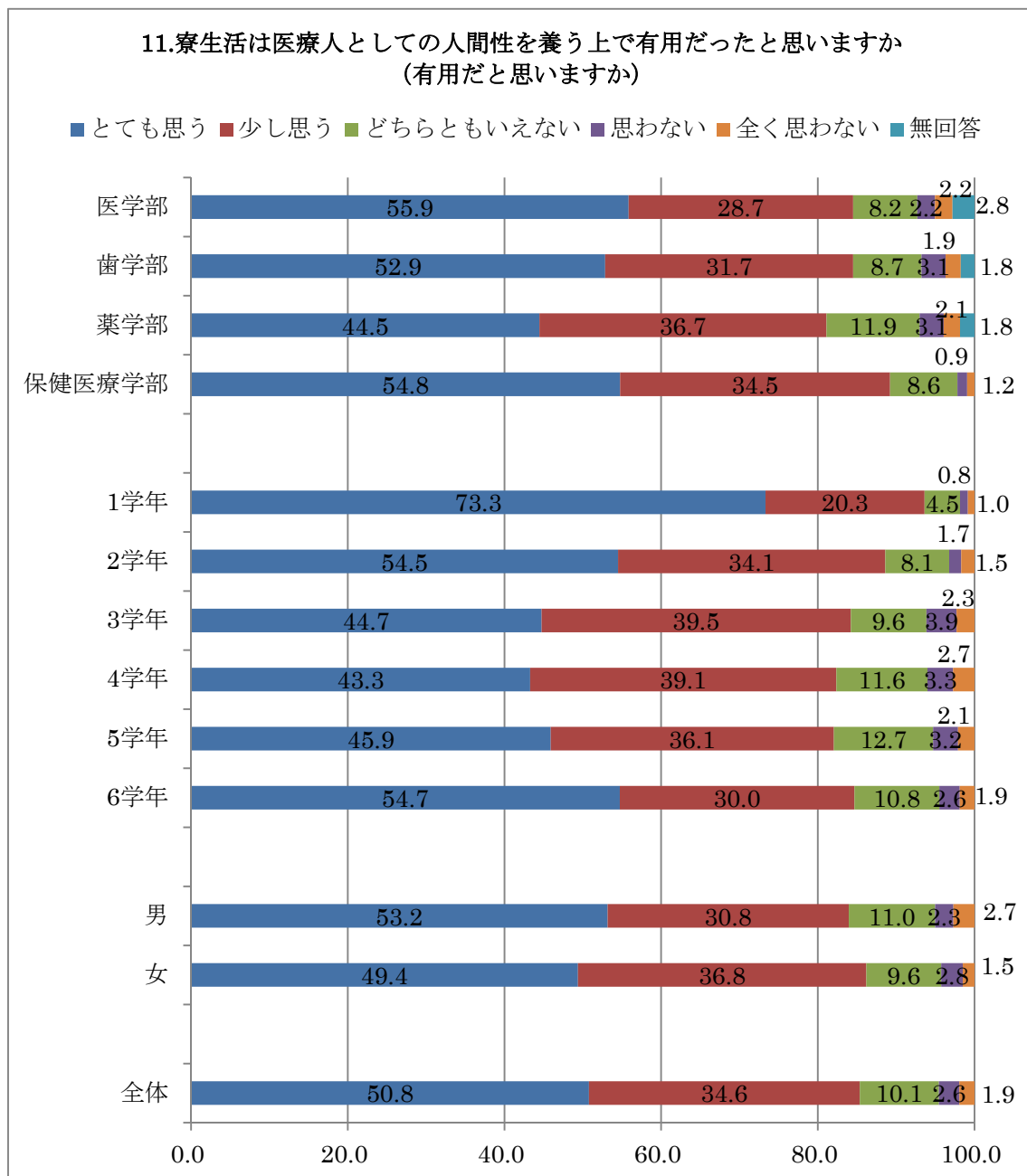
大学に対する愛着度は、医学部と歯学部が高く、薬学部と保健医療学部がやや低い。今回の調査で、一年次で「大いにある」を選んだ学生が 53.4%と非常に高い結果となったことは、大変興味深い。3年、4年次で低下し、その後高学年になると上昇するのは前回の調査結果と同様である。



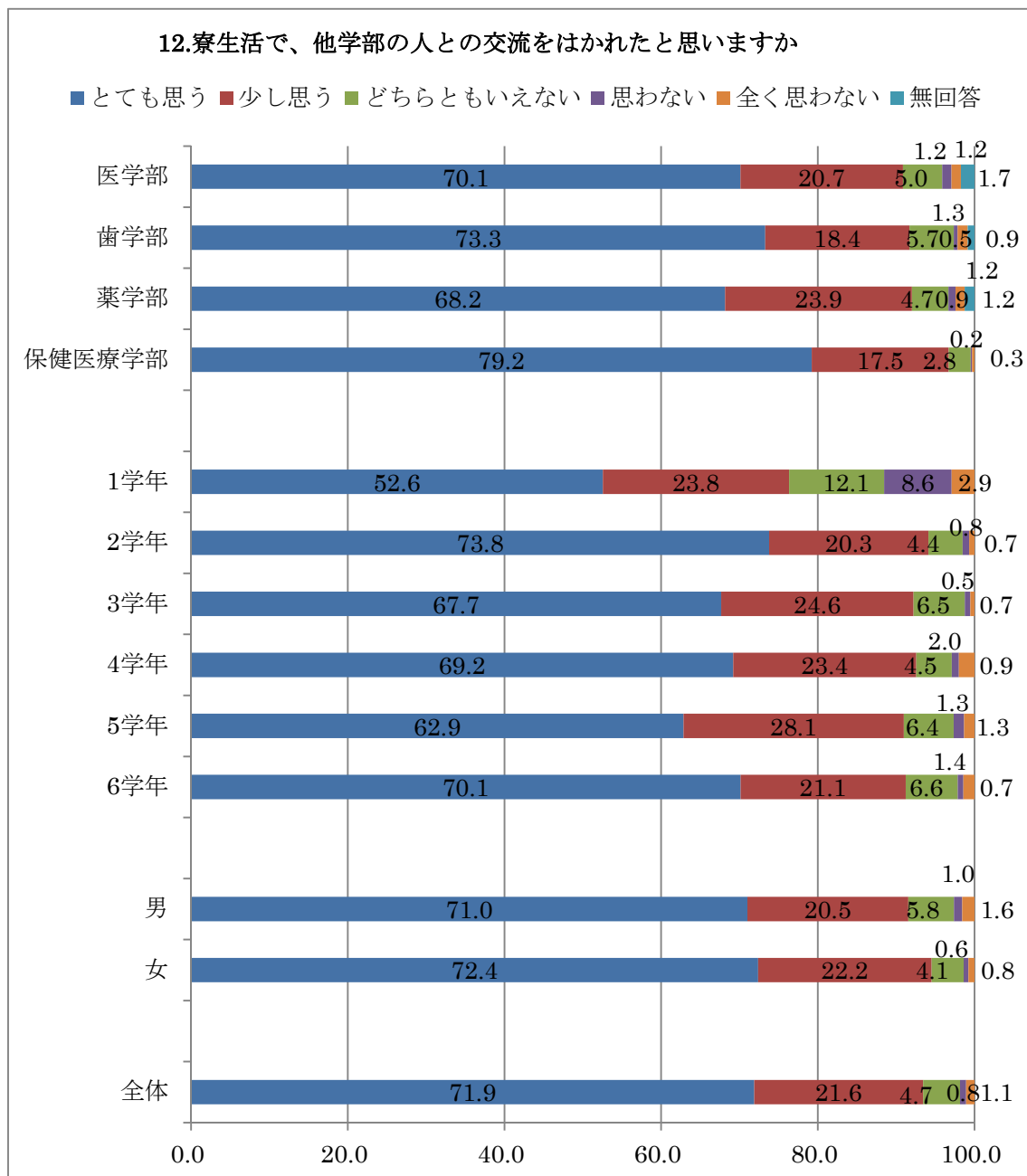
全体で見ると前回調査(平成24年度)とほぼ同様の84.2%の学生が全寮制教育の意義を知っていると答えている。しかし1年生では71.3%と他学年と比較して10%程度低い値を示している。問5の「至誠一貫」について説明できるかどうかについてもあまり知らない、まったく知らないの回答が増加している傾向とリンクしている。



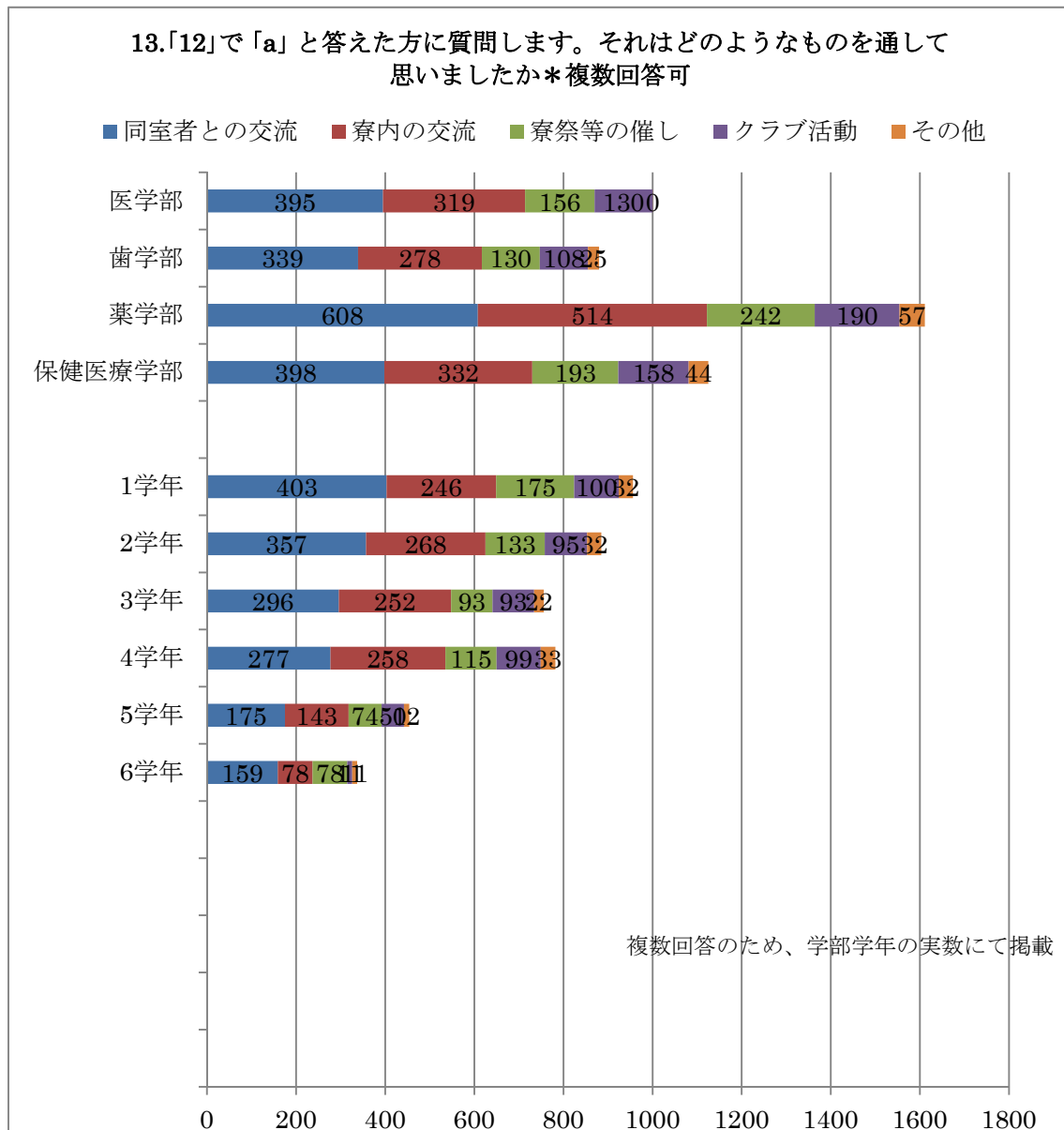
学年があがるほど「とても不安だった」の回答率が高くなっていること、前回調査と比較して1学年の「楽しみだった」が42.9%から57%と高くなっていることから、近年入学の学生は寮生活を肯定的にとらえて入学していると思われる。



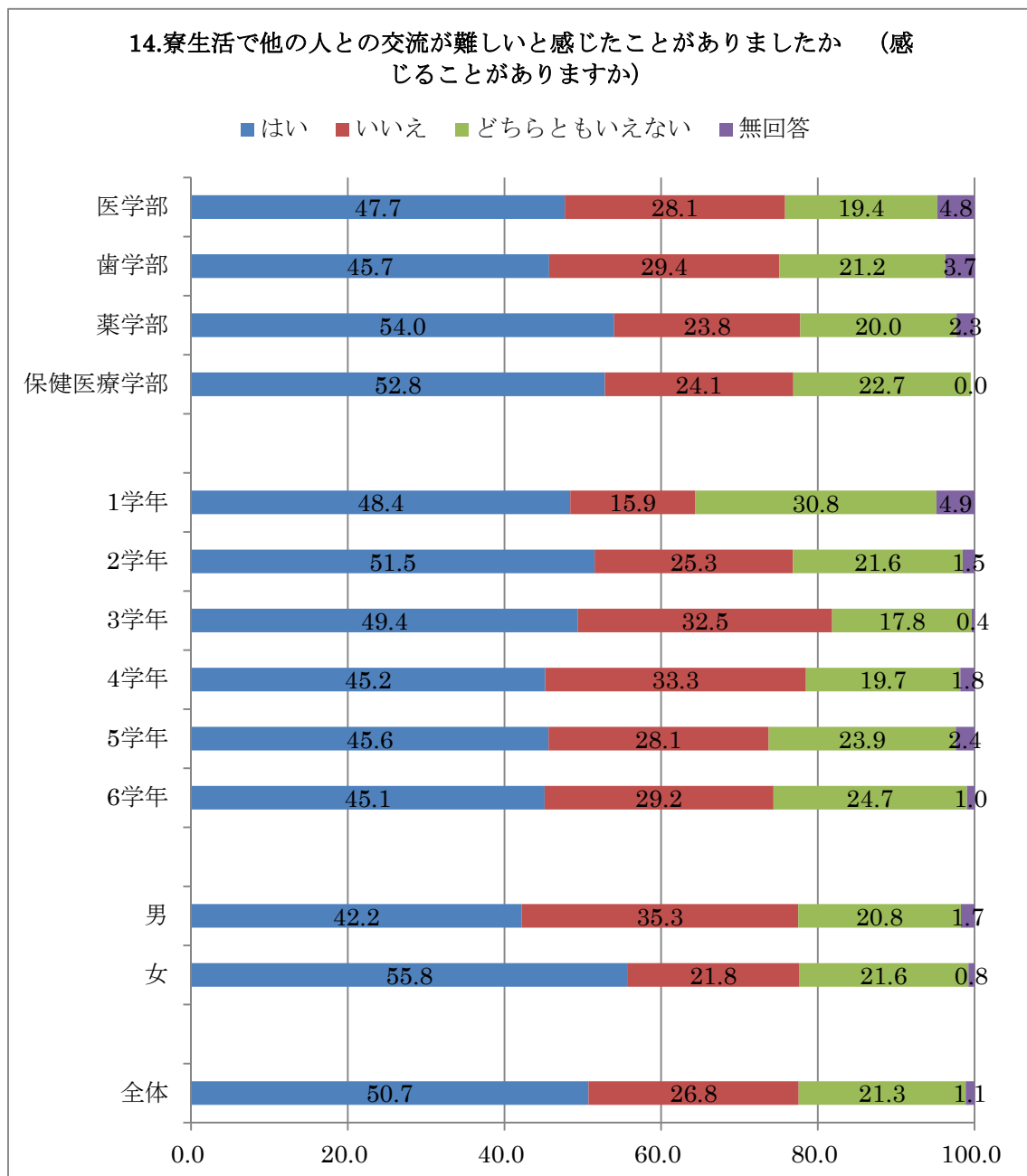
「とても思う、少し思う」で 86.2% となり、前回調査の83.4%より2.8%の増加を示した。特に1学年では「とても思う」が 73.3%をしめ、寮で8ヶ月過ごした実感としての評価と思われる。



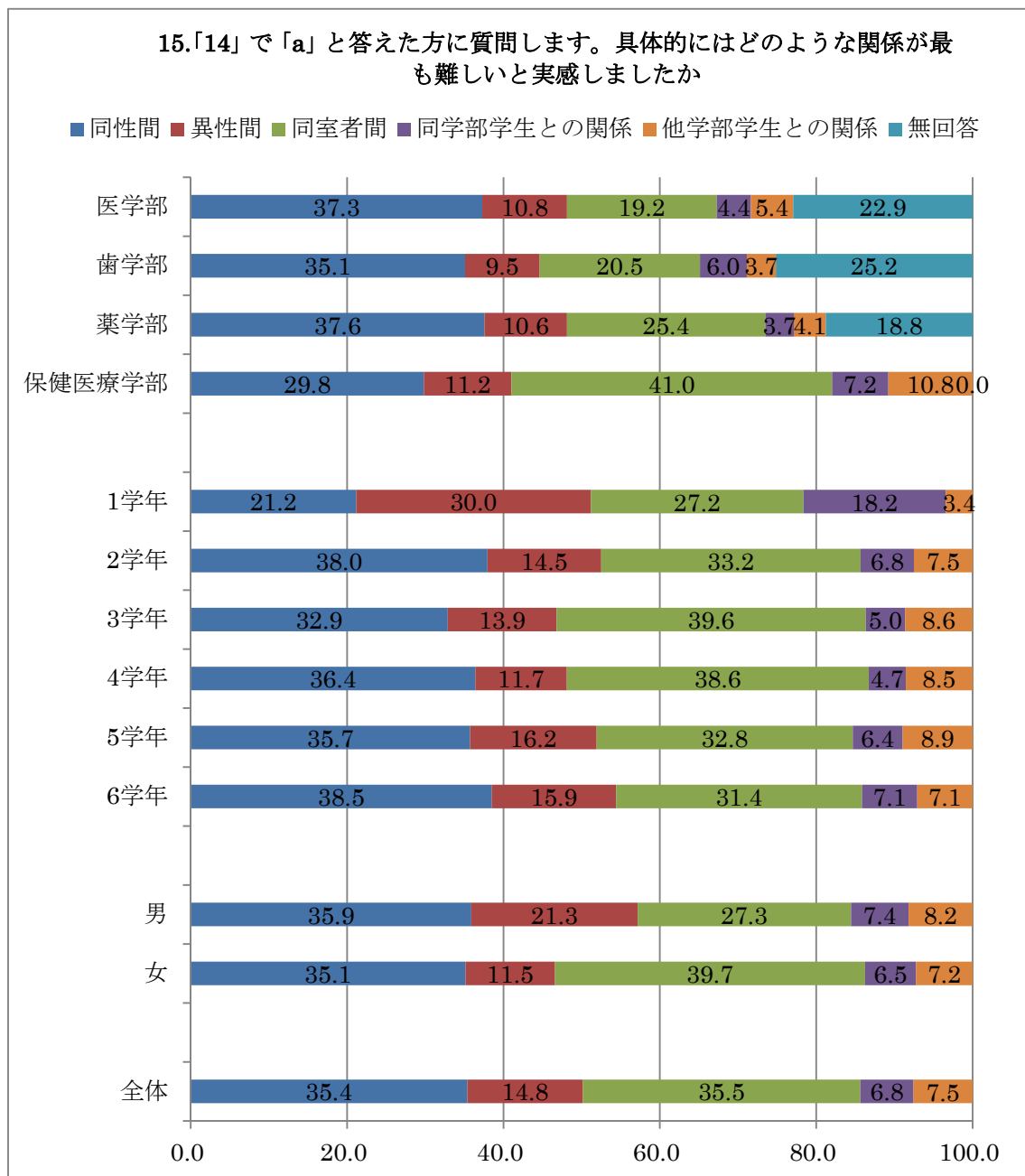
2～6 学年まで「とても思う、少し思う」が 90%以上占めており前回調査と同様の値を示しているのに対し、1 学年が 76.4%と低い値であった。



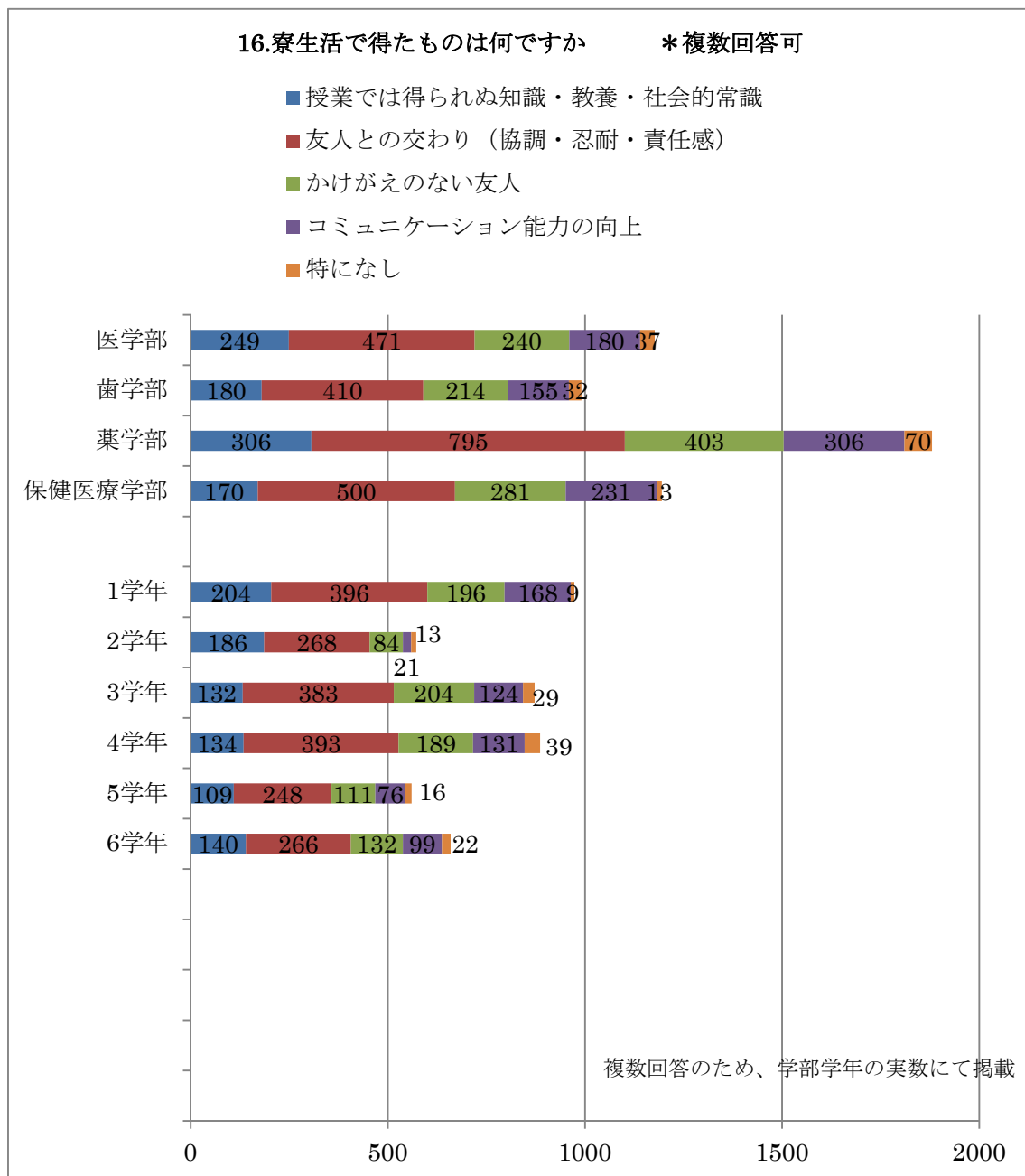
学部や学年を問わず「クラブ活動」と答えたものが減少している。特に学部を問わず合同で活動している種目が多い1学年でその値が減少している。近年部員数の減少しているクラブも見られ、クラブ活動に消極的になってきているのかもしれない。



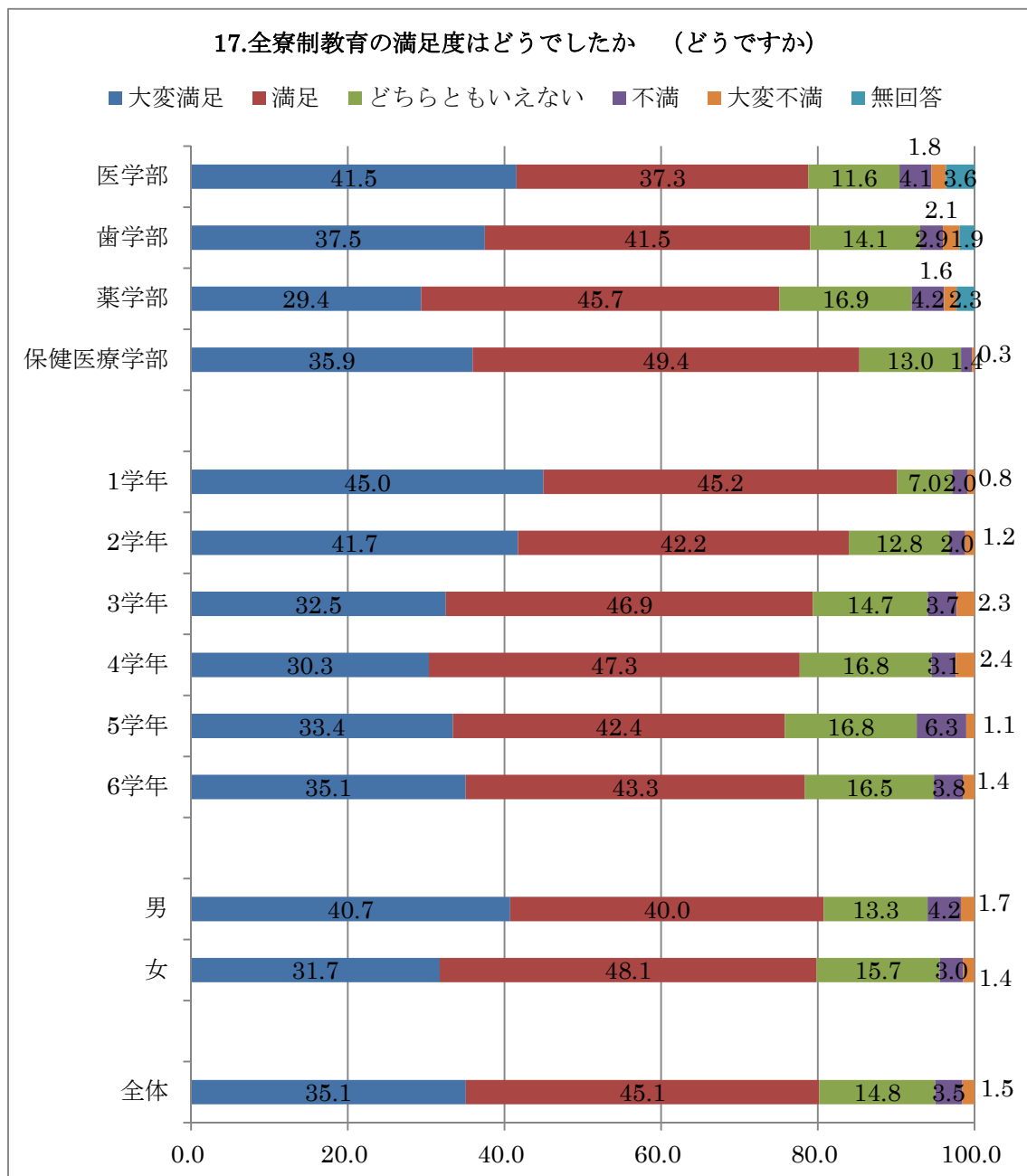
他の人と交流に難しさを感じた学生は男子で 42.2%、女子が 55.8%、女子学生の方が人間関係の難しさを感じるが多かったようである。前回調査での男女差は 9%であったものが今回 13.6%とその差が拡大している。



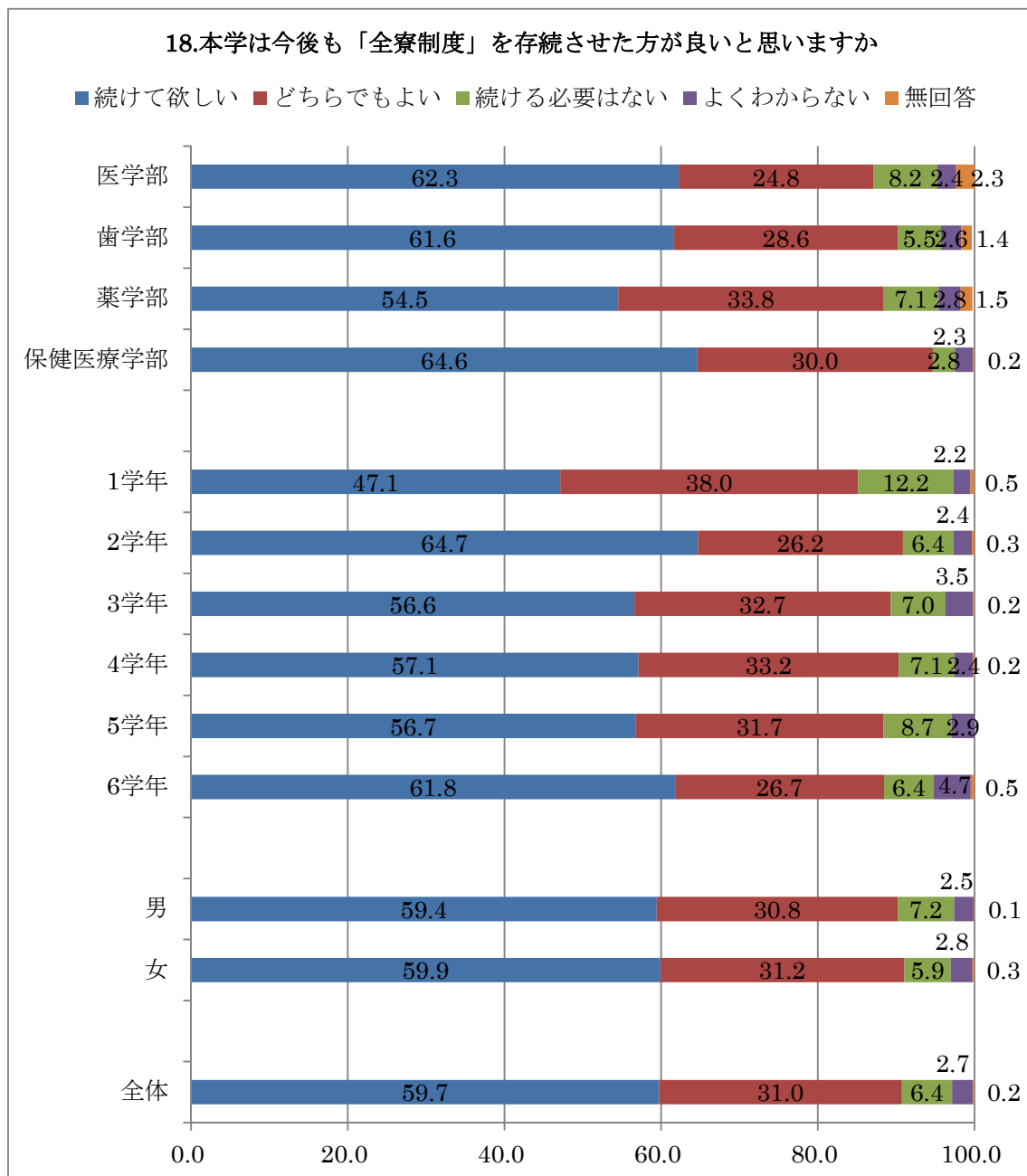
女子では「同室者間」が最も比率が高く、次に「同性間」でポイントが高く同性同士、一緒にいる時間が長い者同士で気を遣う場面があったと思われる。



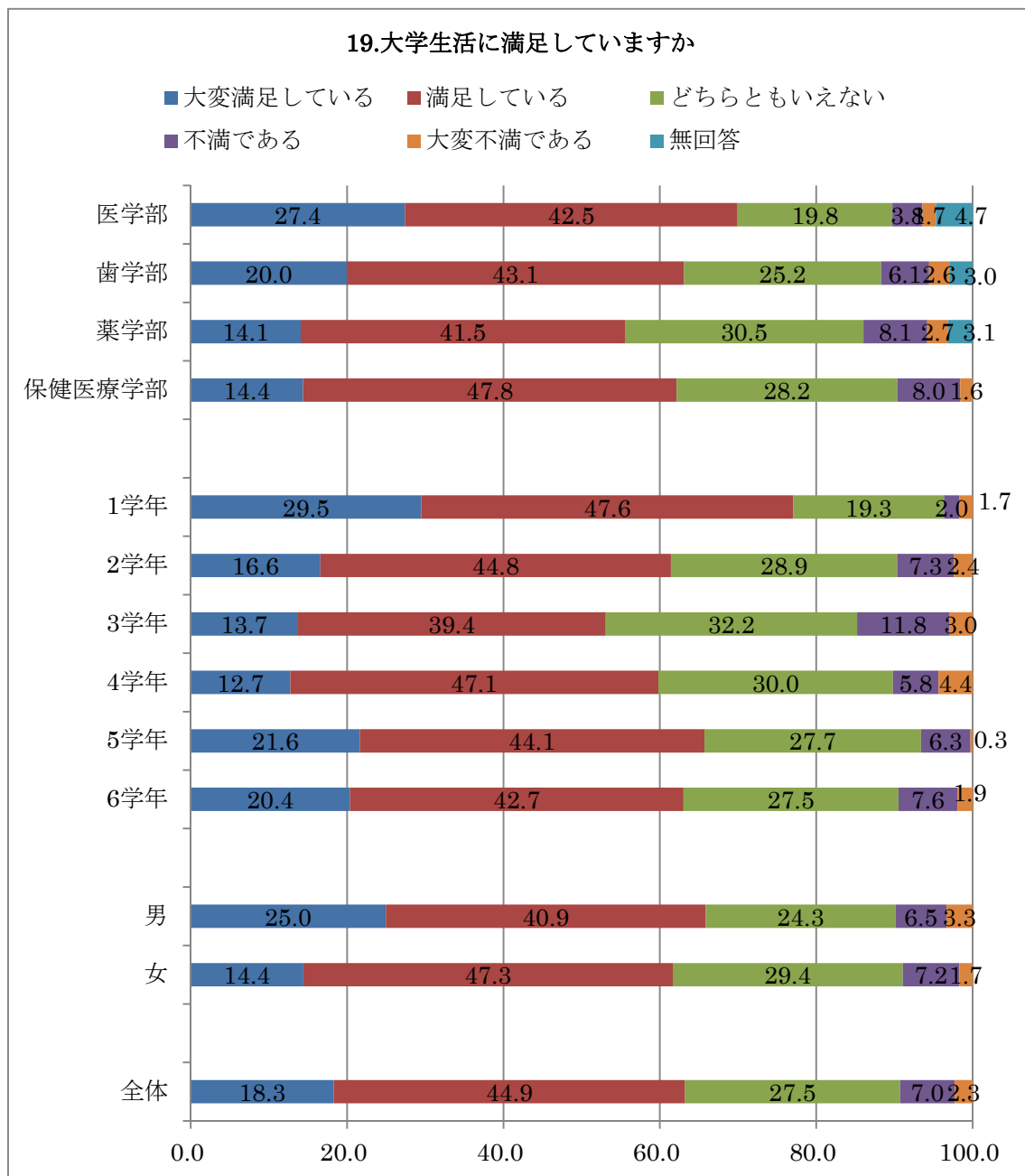
男女を問わず「友人との交わり」が最も高いポイントを示し、人間関係で苦勞する中で協調性や我慢が身についたと実感できたのでは無いと思われる。



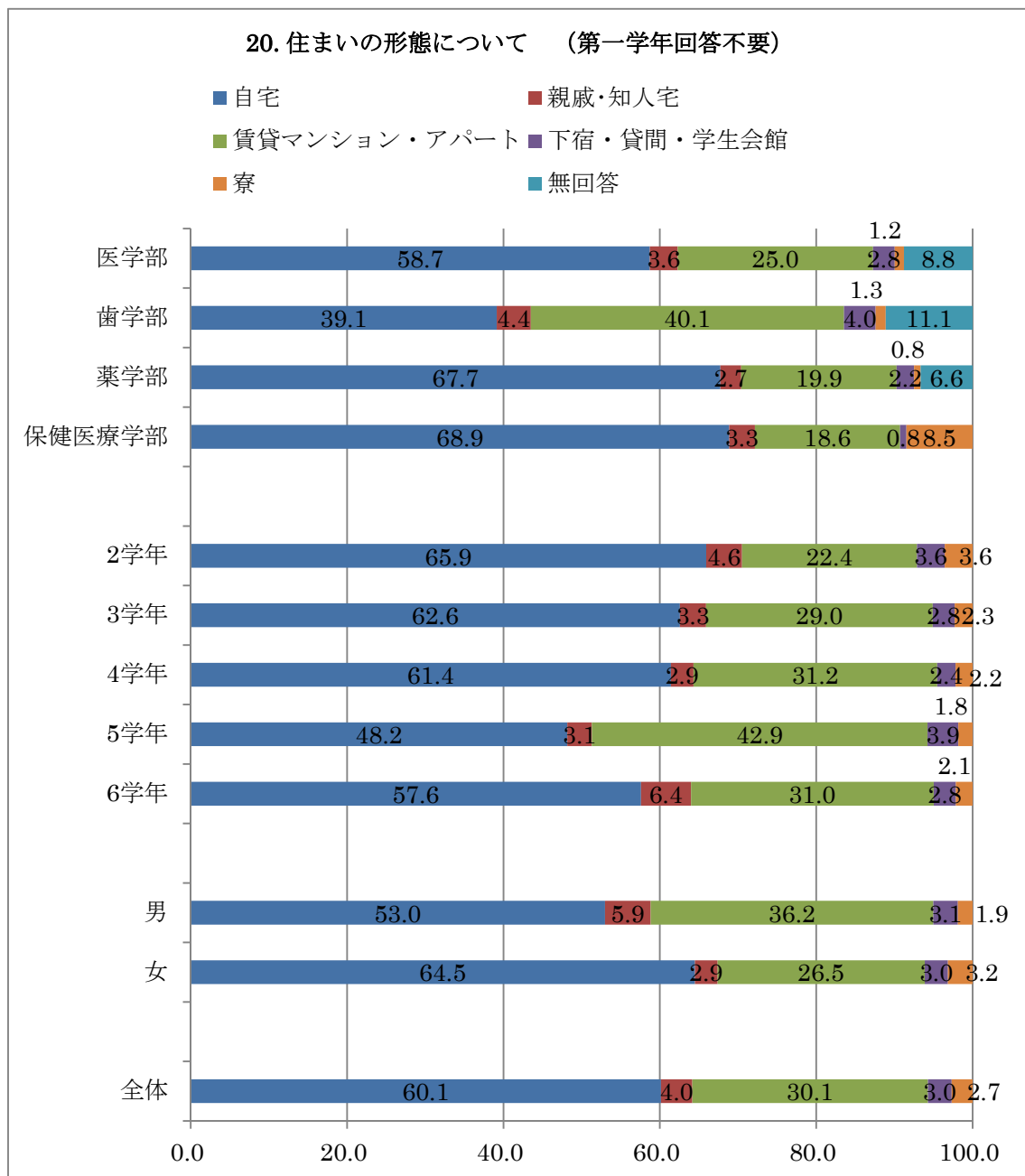
今回も前回同様に全体で「大変満足、満足」の回答が80.2%をしめた。学年別に見ると1学年が「大変満足、満足」が90.2%と高い値を示し、充実した寮生活を送ったことがうかがえる。



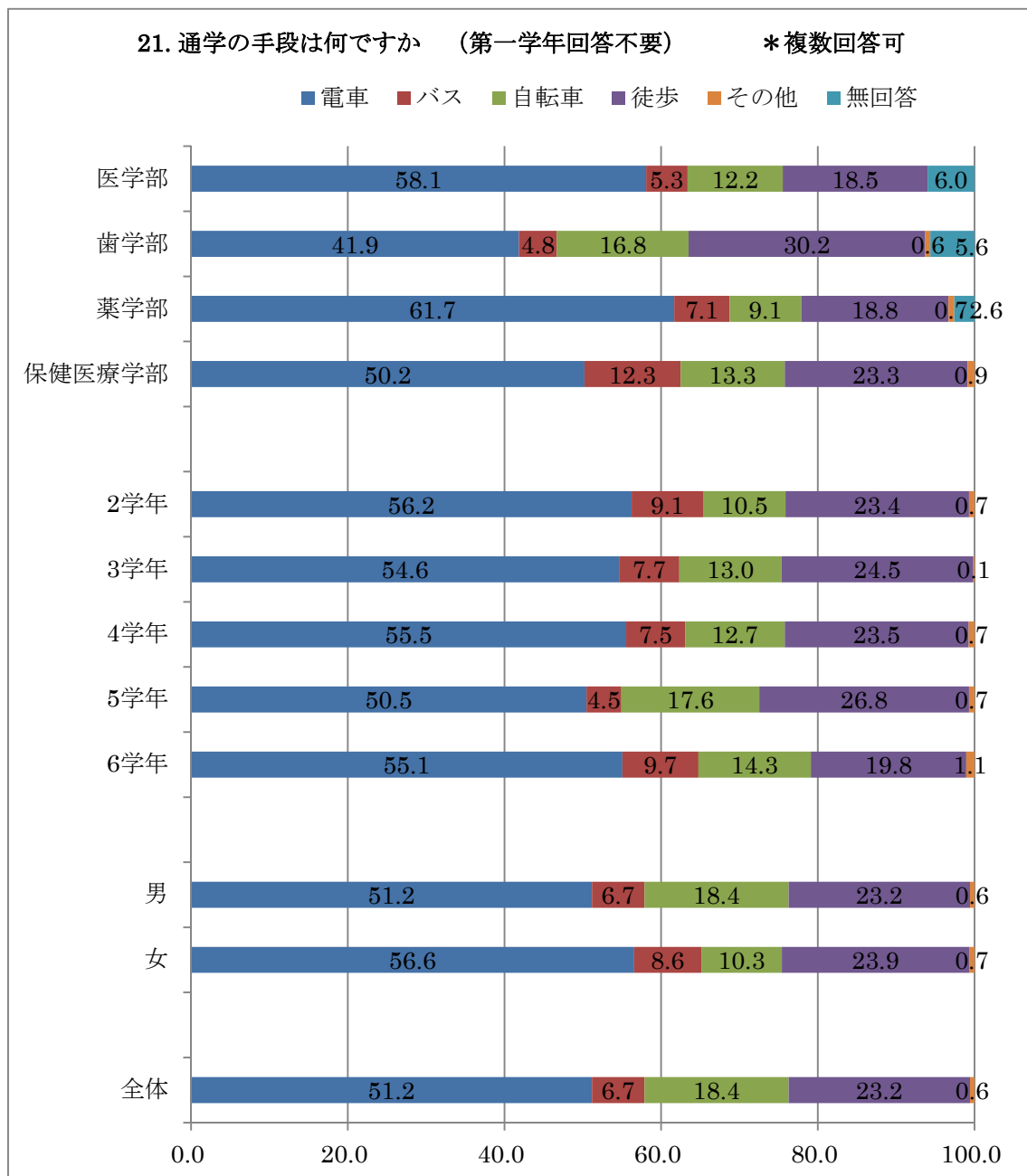
1 学年で「続ける必要はない」が 12.2%と他学年と比較して高い数値を示した。全体では前回調査同様「続けて欲しい」がほぼ 6 割をしめた。



大学の満足度については、医学部が 27.4%と最も高く、薬学部と保健医療学部が低い。前回の調査結果と同様に、一年次が 29.5%と最も高く三、四年次が低い。

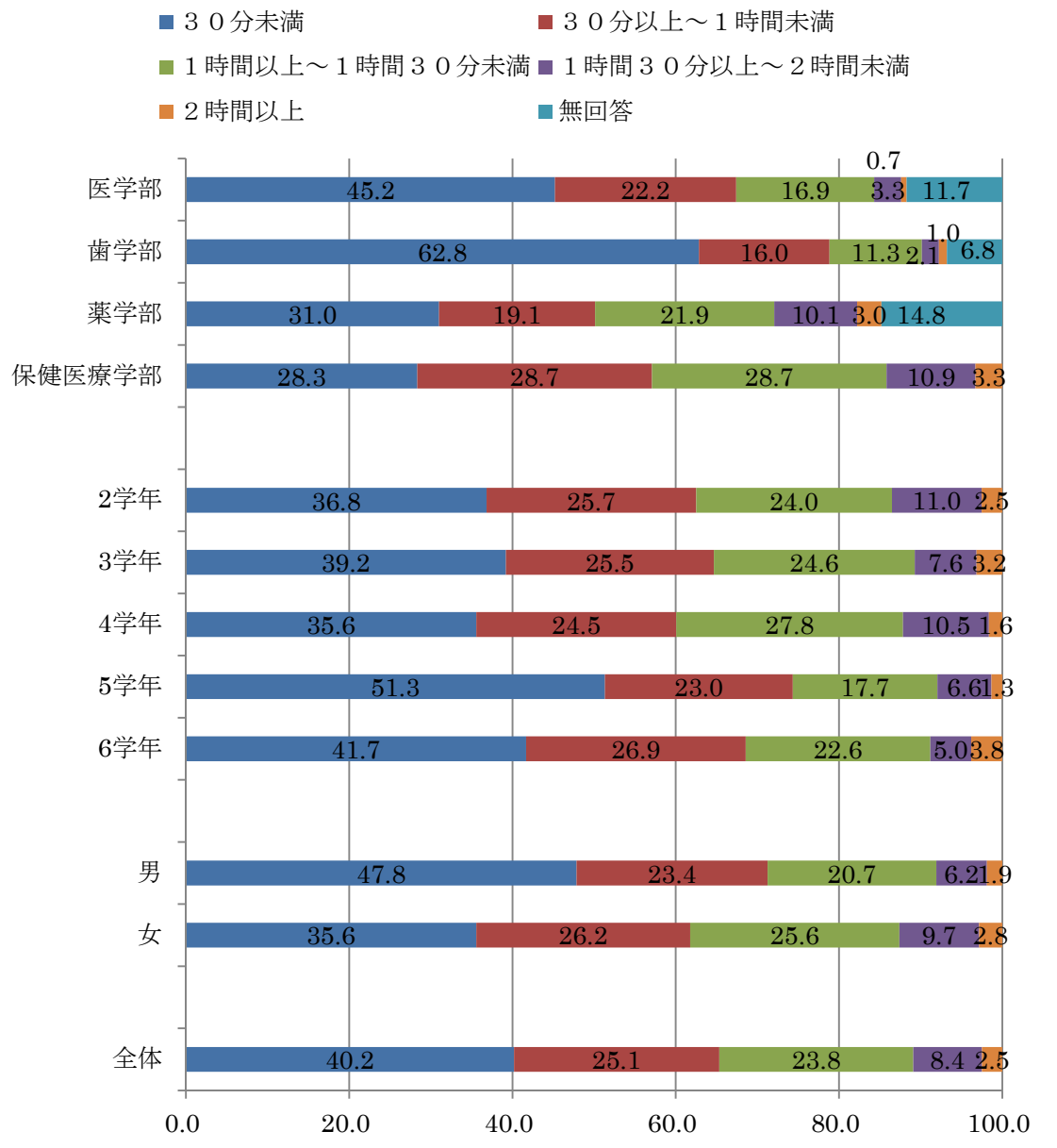


住まいの形態については、医学部、薬学部と保健医療学部の学生の半数以上が自宅通学に対して歯学部では 39.4%と低く、アパートや学生会館などを利用している学生の方が多い結果となった。

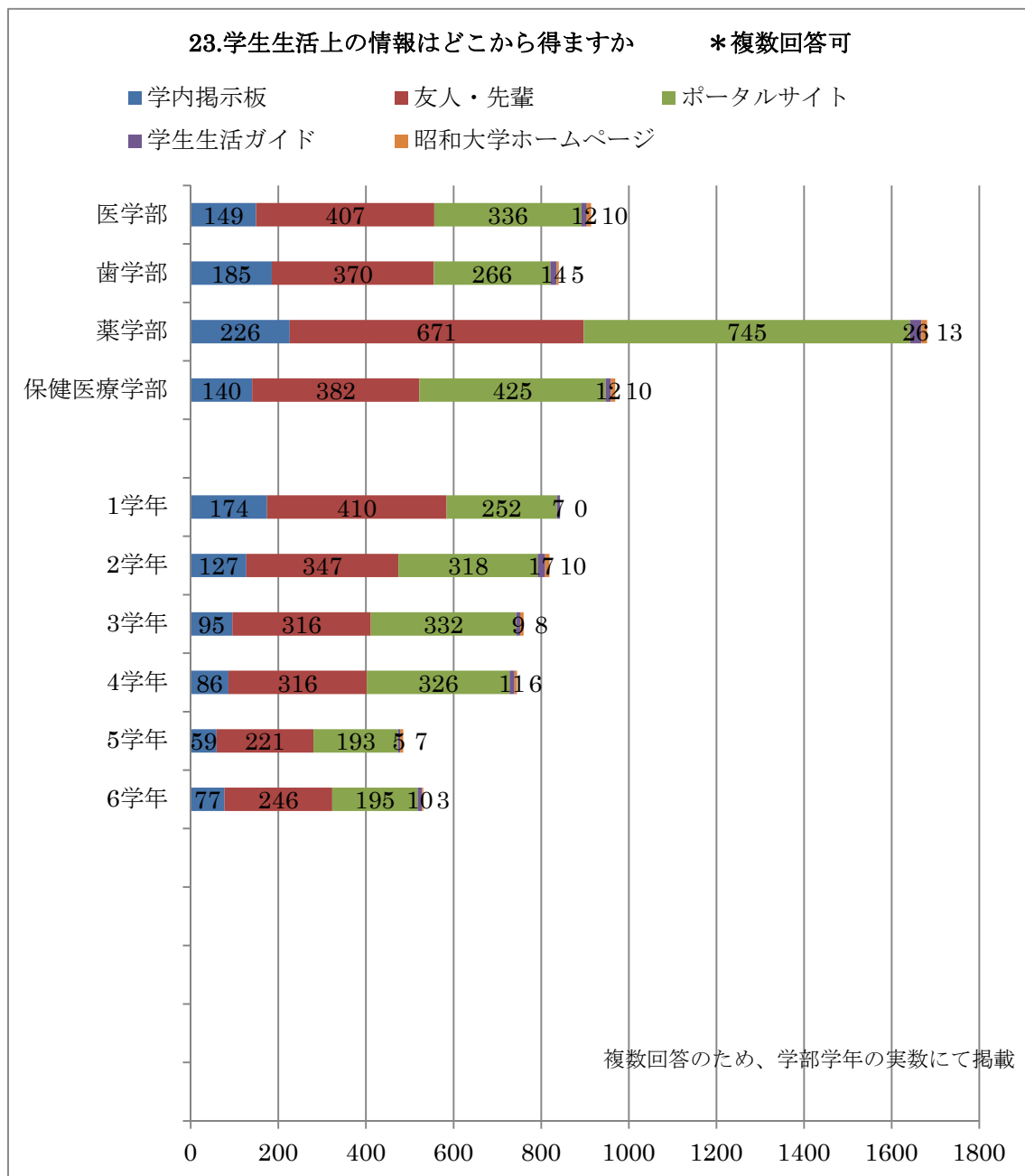


通学的手段に関して、全学部とも電車の割合が一位であるが、アパートなどを利用している学生の割合が高い歯学部は、自転車や徒歩が多くなっている。

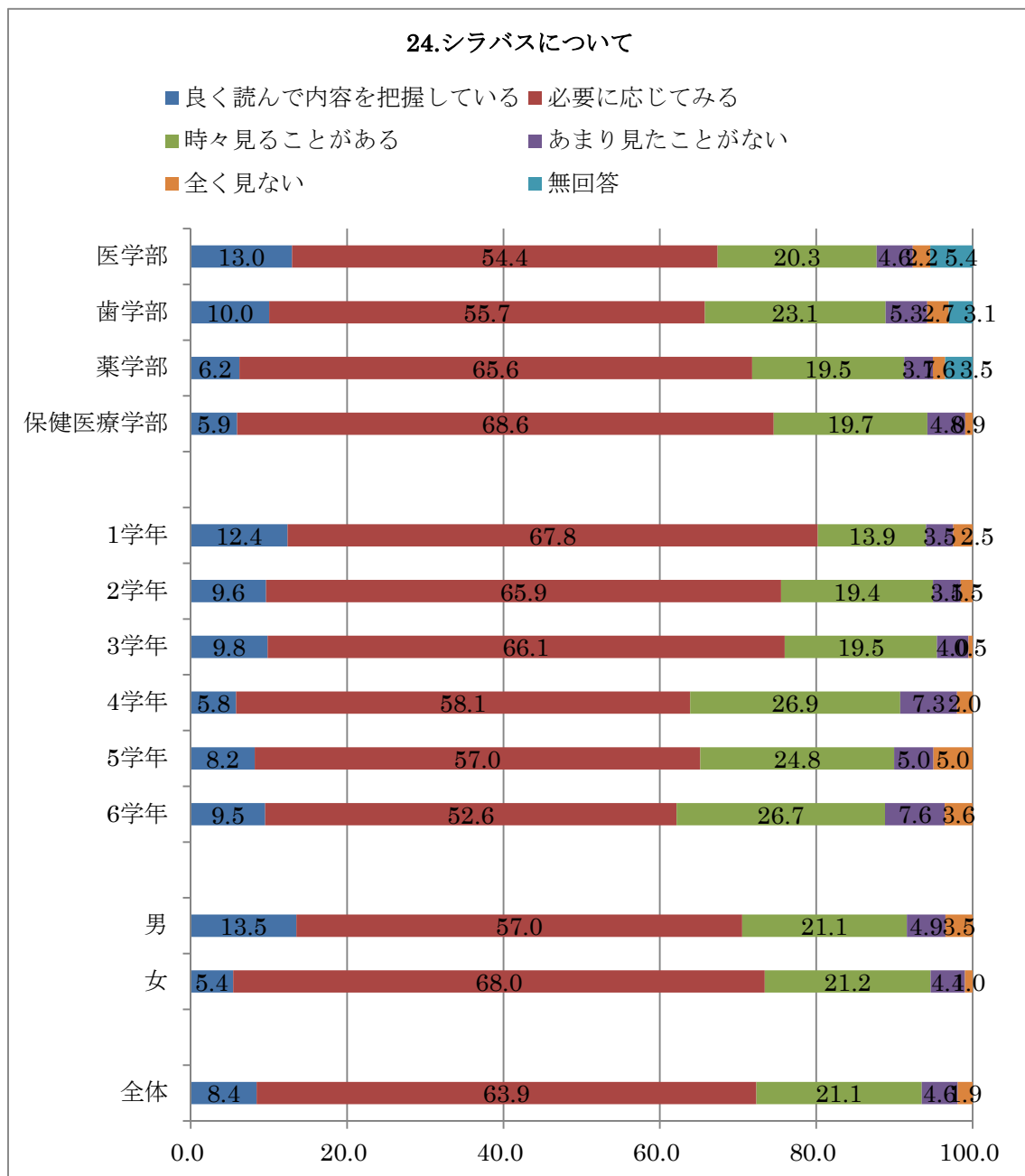
22.通学の片道の所要時間はどの位ですか （第一学年回答不要）



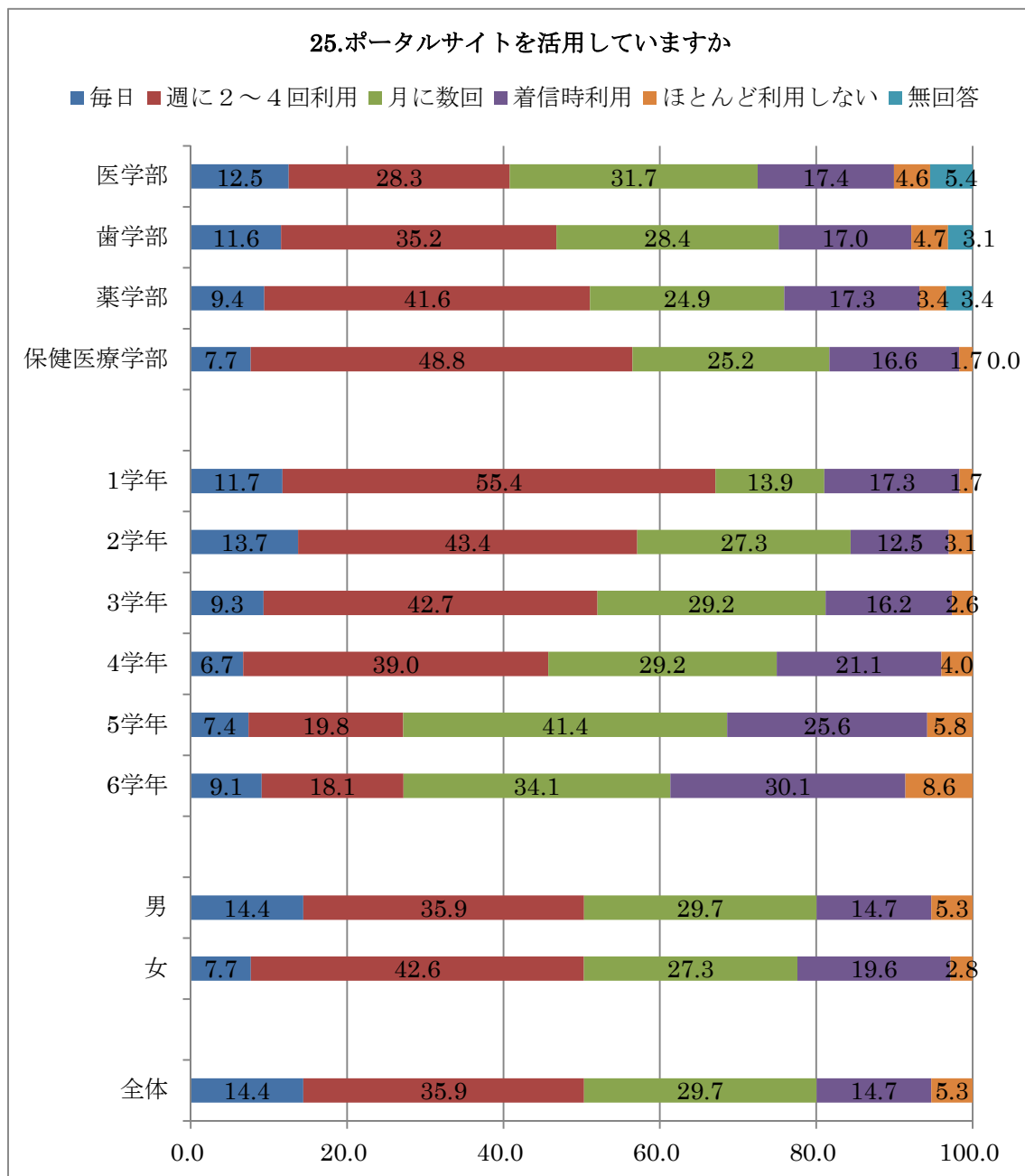
通学時間は、自宅からの通学が多い薬学部と保健医療学部で長い傾向にある。



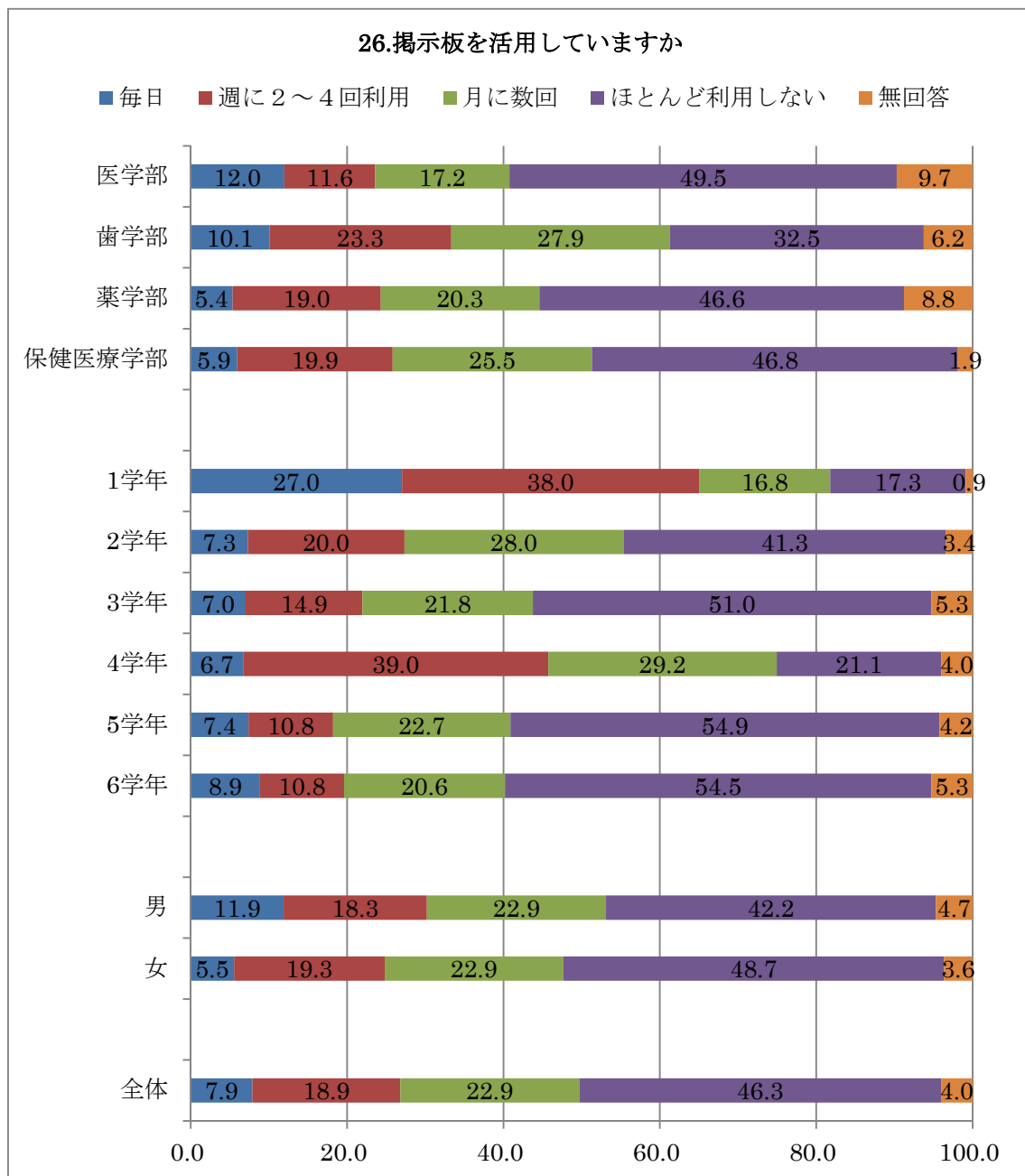
学生生活上の情報入手先は、医学部と歯学部が友人・先輩からの割合が、薬学部と保健医療学部がポータルサイトからの割合が高い。一年次は他の学年に比較して学内掲示板からの割合が高い。



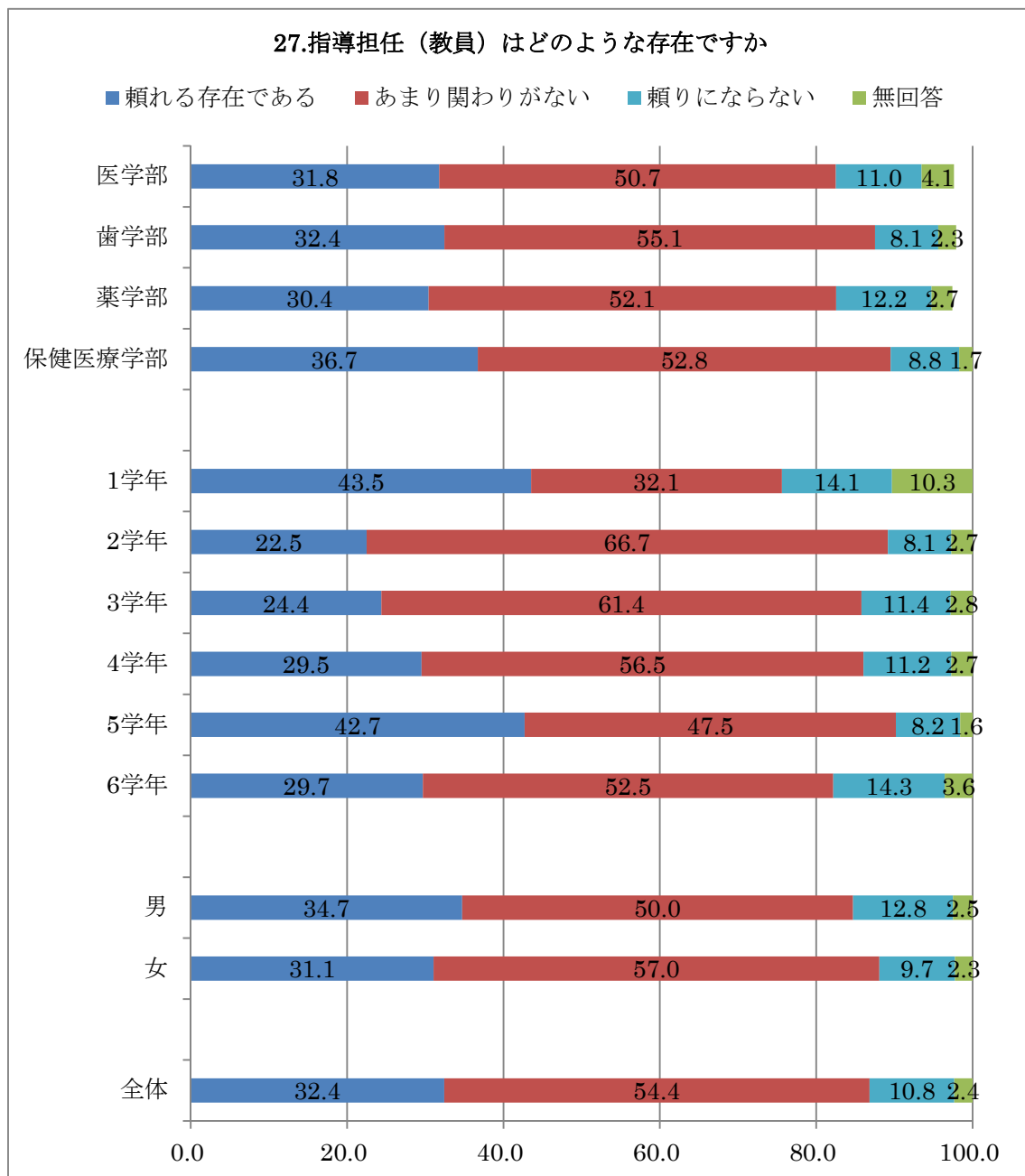
シラバスに関しては、全学部ともに半数以上の学生が必要に応じて読んでいることから、学生にとって重要な情報源である。



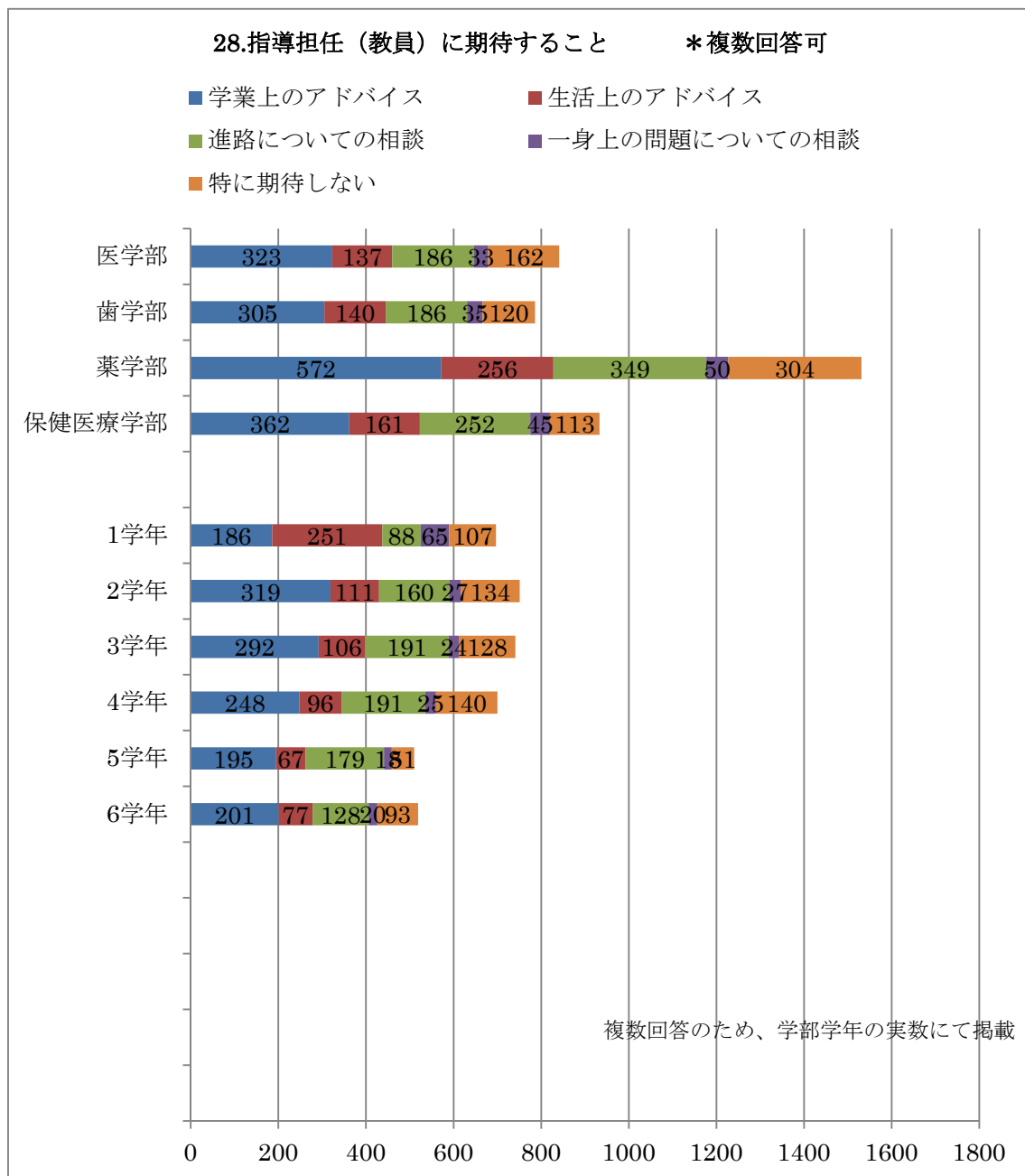
ポータルサイトは全学部、学年ともに、ほとんどの学生が利用しており、非常に重要な情報源である。学年別では、一年次の利用が多く、学年が上がるにつれ低下するのは、前回の調査結果と同様である。



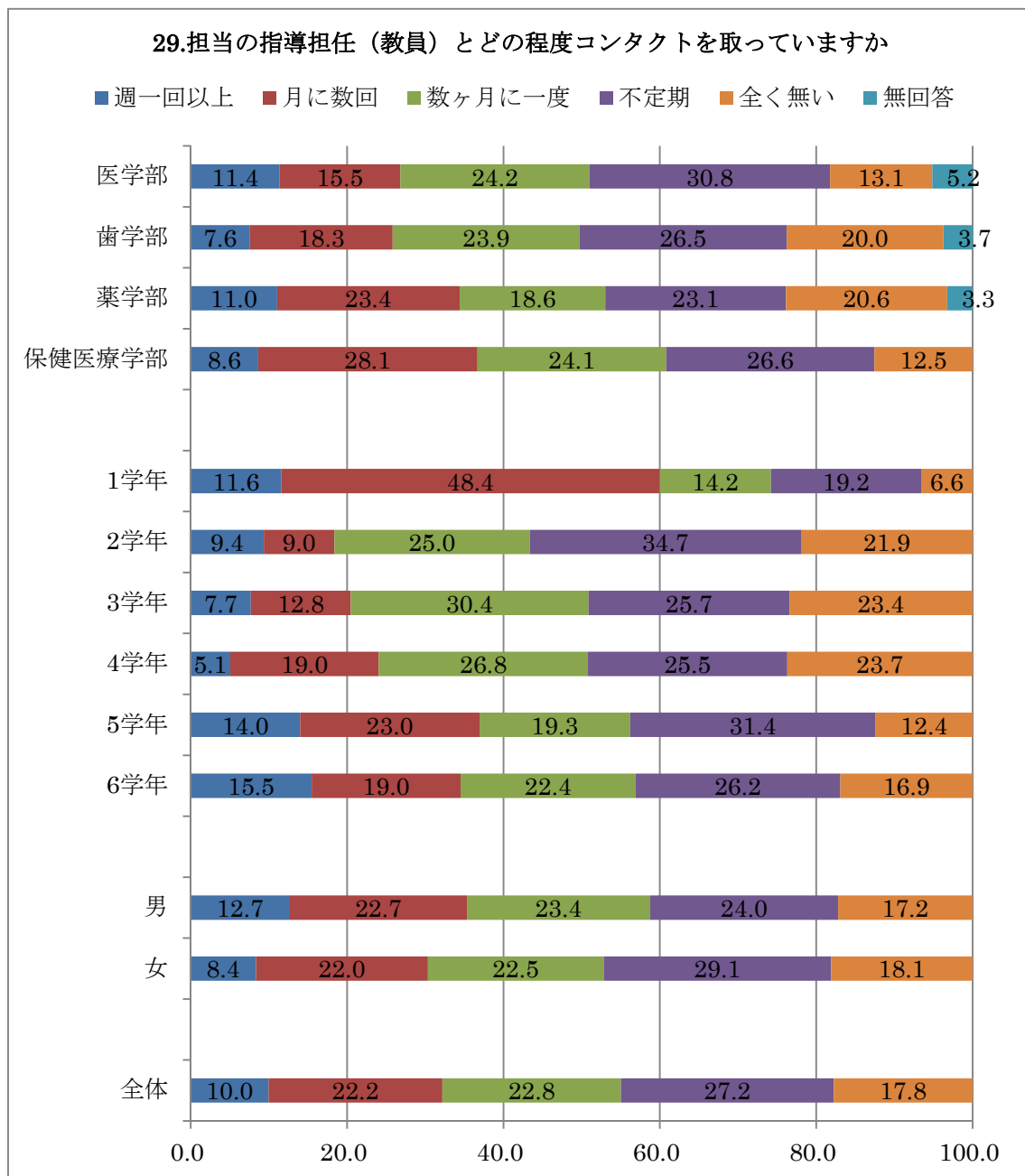
掲示板の利用率は、全学部ともに、月に数回とほとんど利用しないを合わせると過半数を占める。ポータルサイトの活用が学生の主要な情報源になっている結果と考える。



指導担任が頼れるとする学生は一年次に多く、二年次で最小値に達して、その後回復する。全学部ともに、あまり関わらないが過半数を占める。

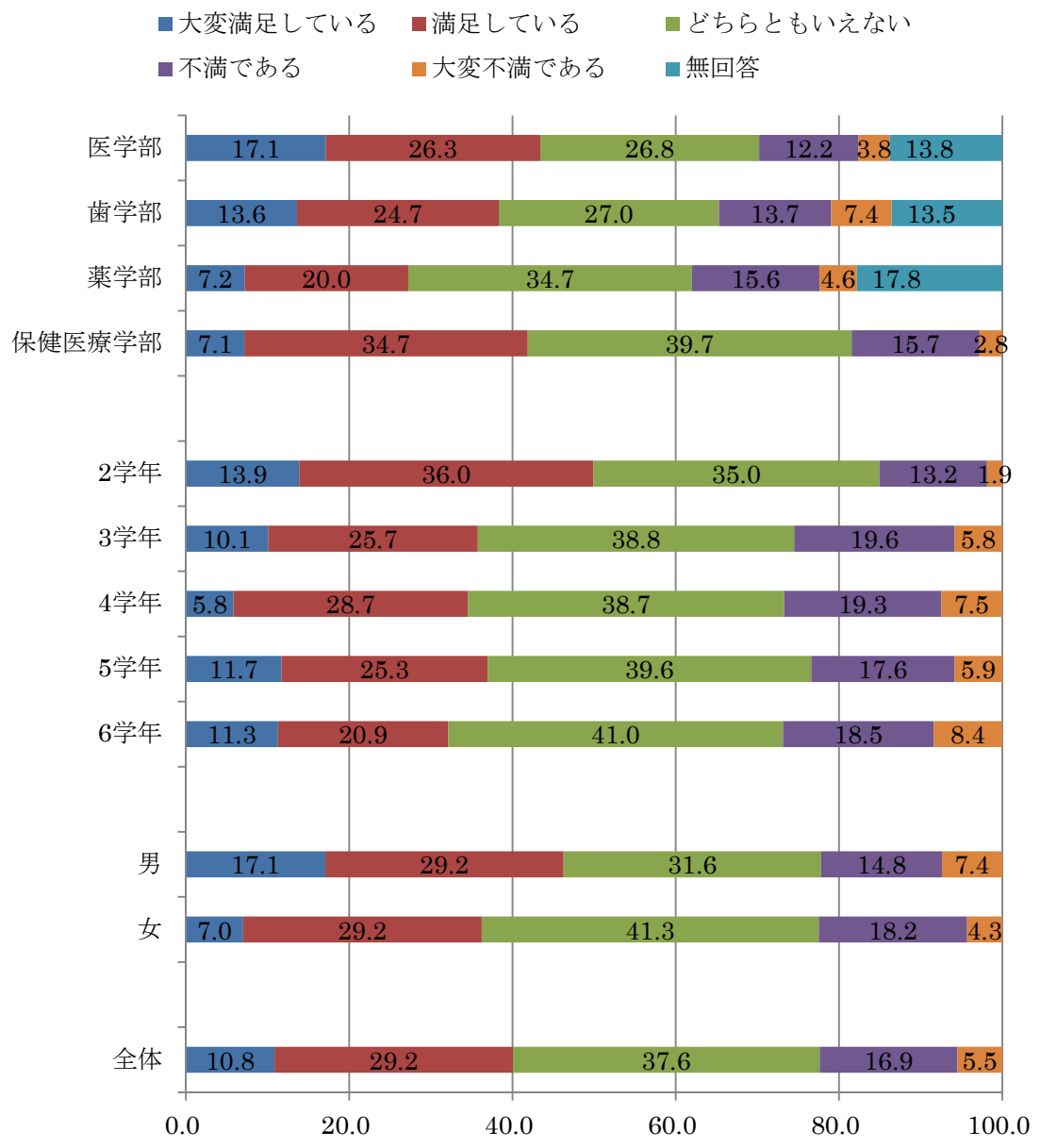


指導担任に期待することの一位は、全学部と一年次を除く全学年を通じて学業上のアドバイスである。一年次は生活上のアドバイスが最も高かった。

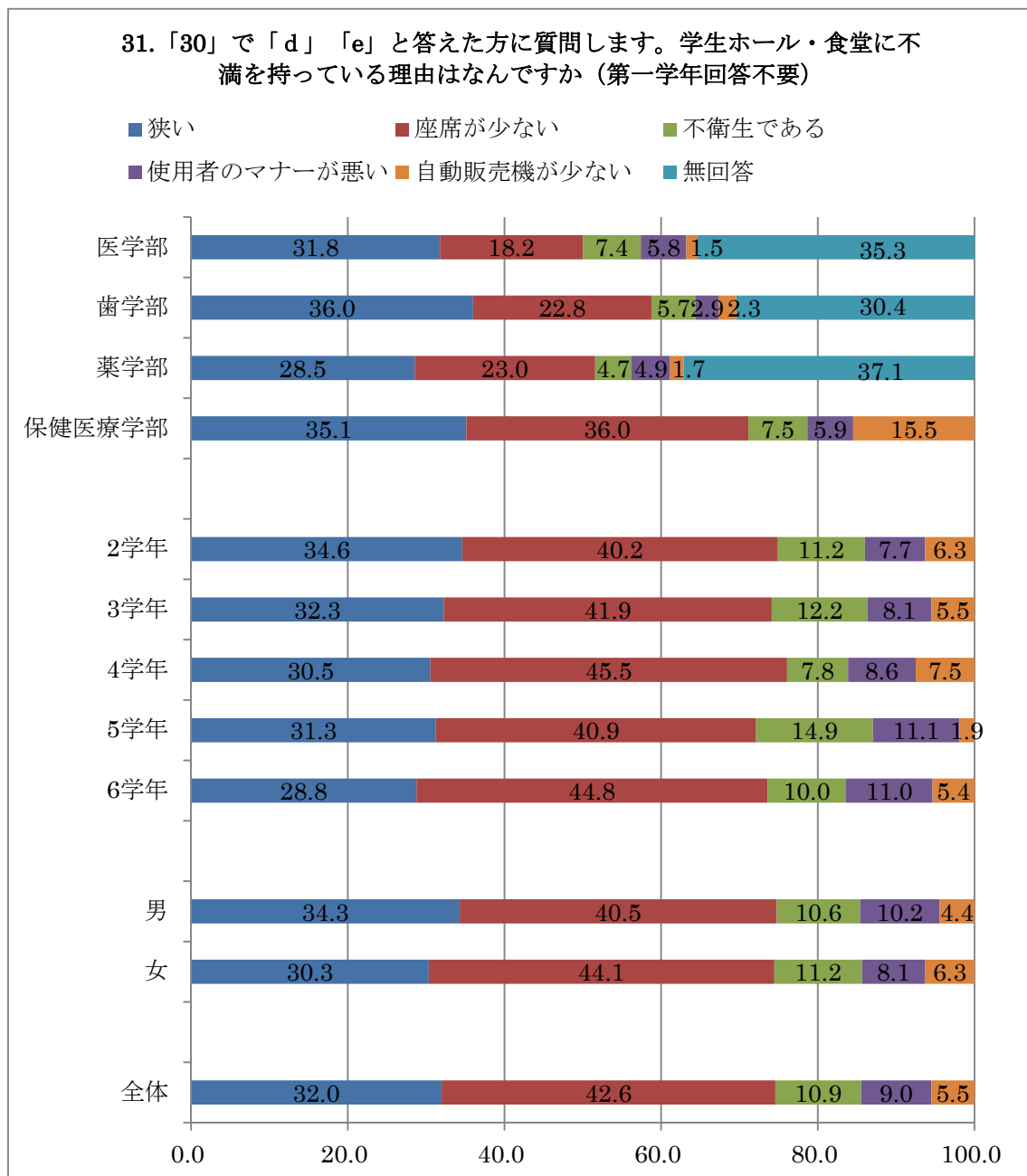


指導担任とのコンタクトの頻度は、保健医療学部、薬学部が高く、医学部。歯学部が低く、前回と同様の調査結果となった。学年別では、一年次が最も高く、6割以上の学生が月に数回以上コンタクトを取っている。

30.学生ホール・食堂の環境に満足していますか（第一学年回答不要）

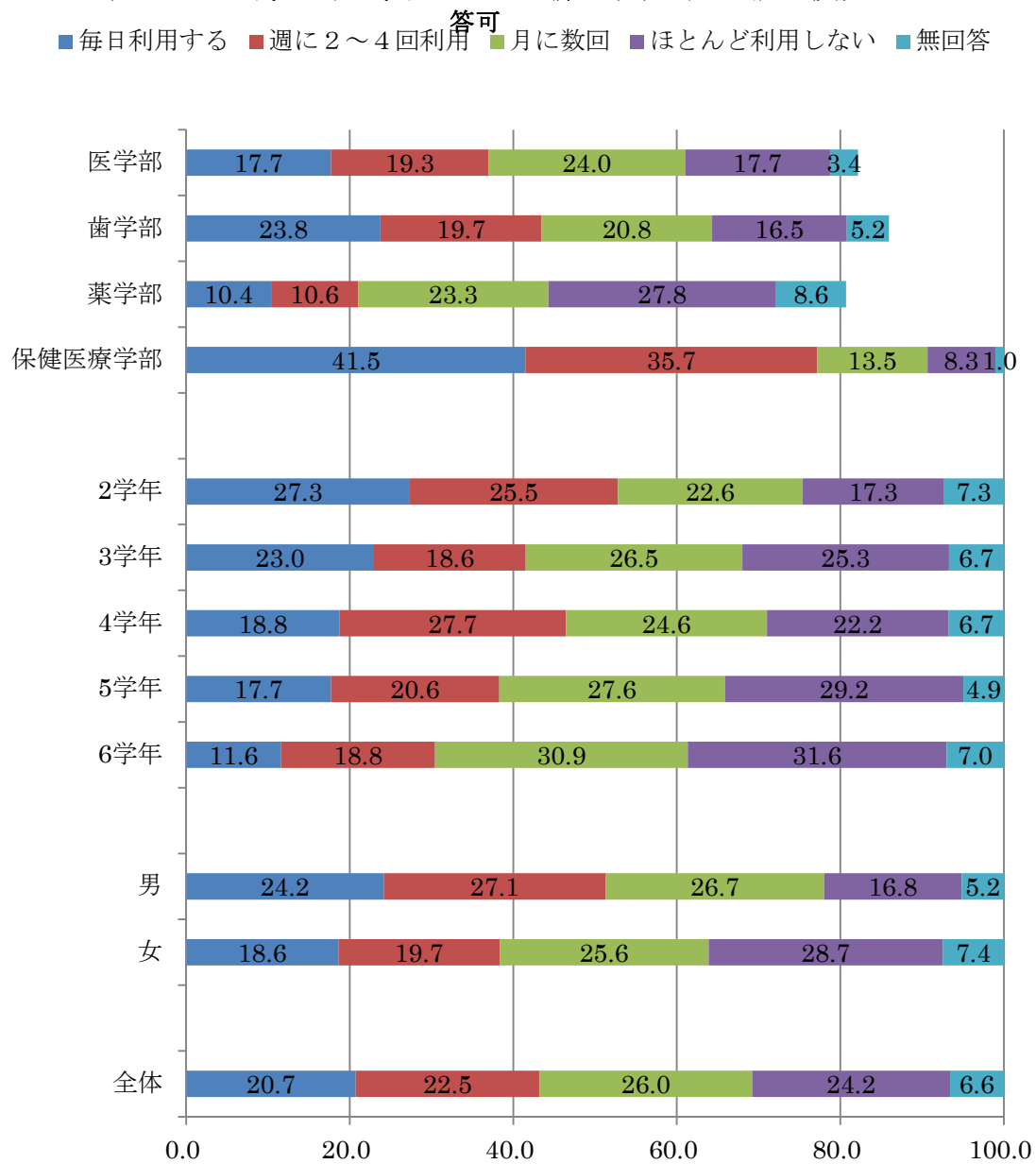


学生ホール・食堂の満足度は、医学部と保健医療学部が高く、薬学部で低い結果となった。



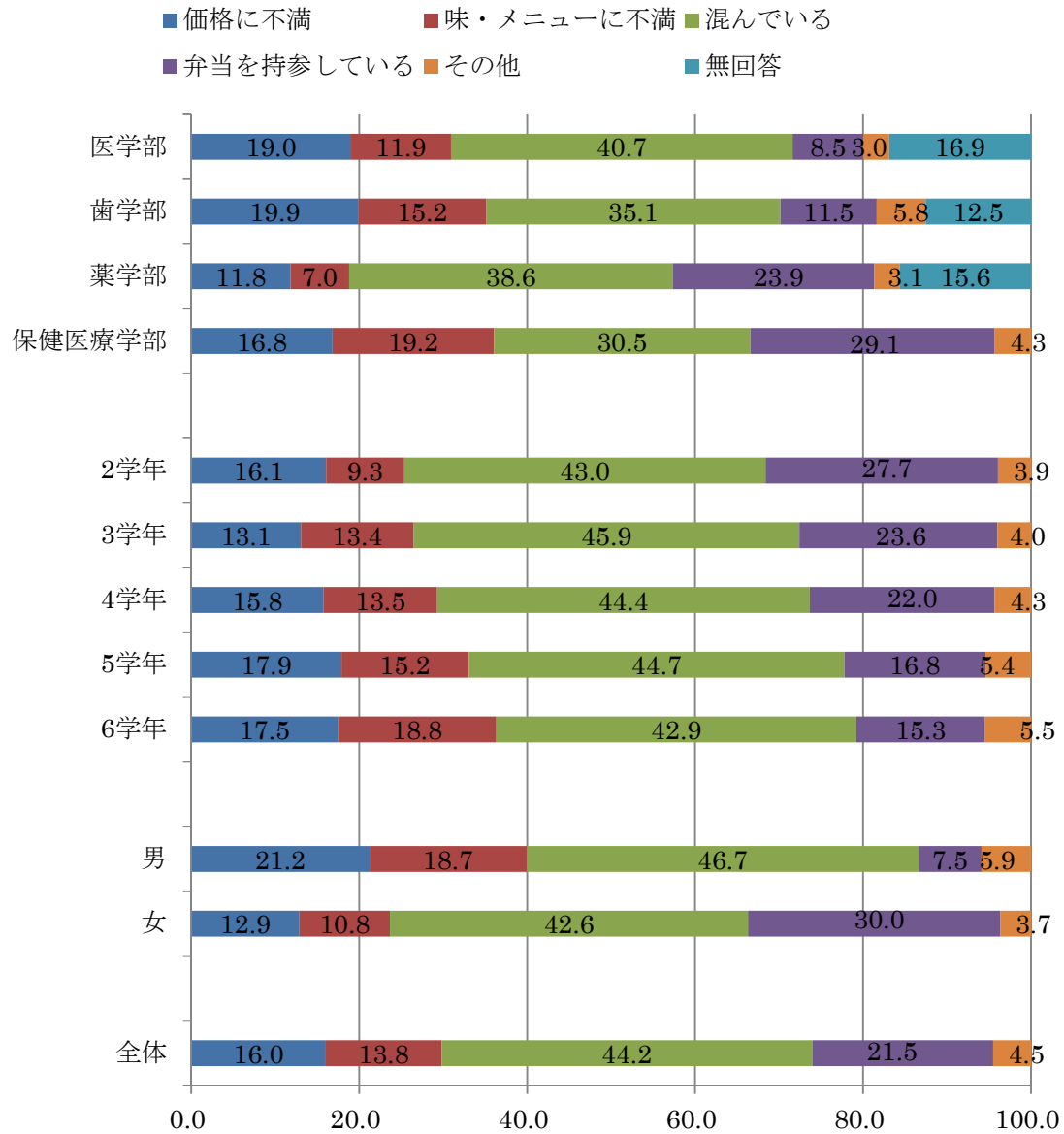
学生ホール・食堂の不満の理由としては、全学部ともに、狭いと座席が少ないを合わせると過半数を占める。

32.学生ホール・食堂の利用状況について（第一学年回答不要）＊複数回答可

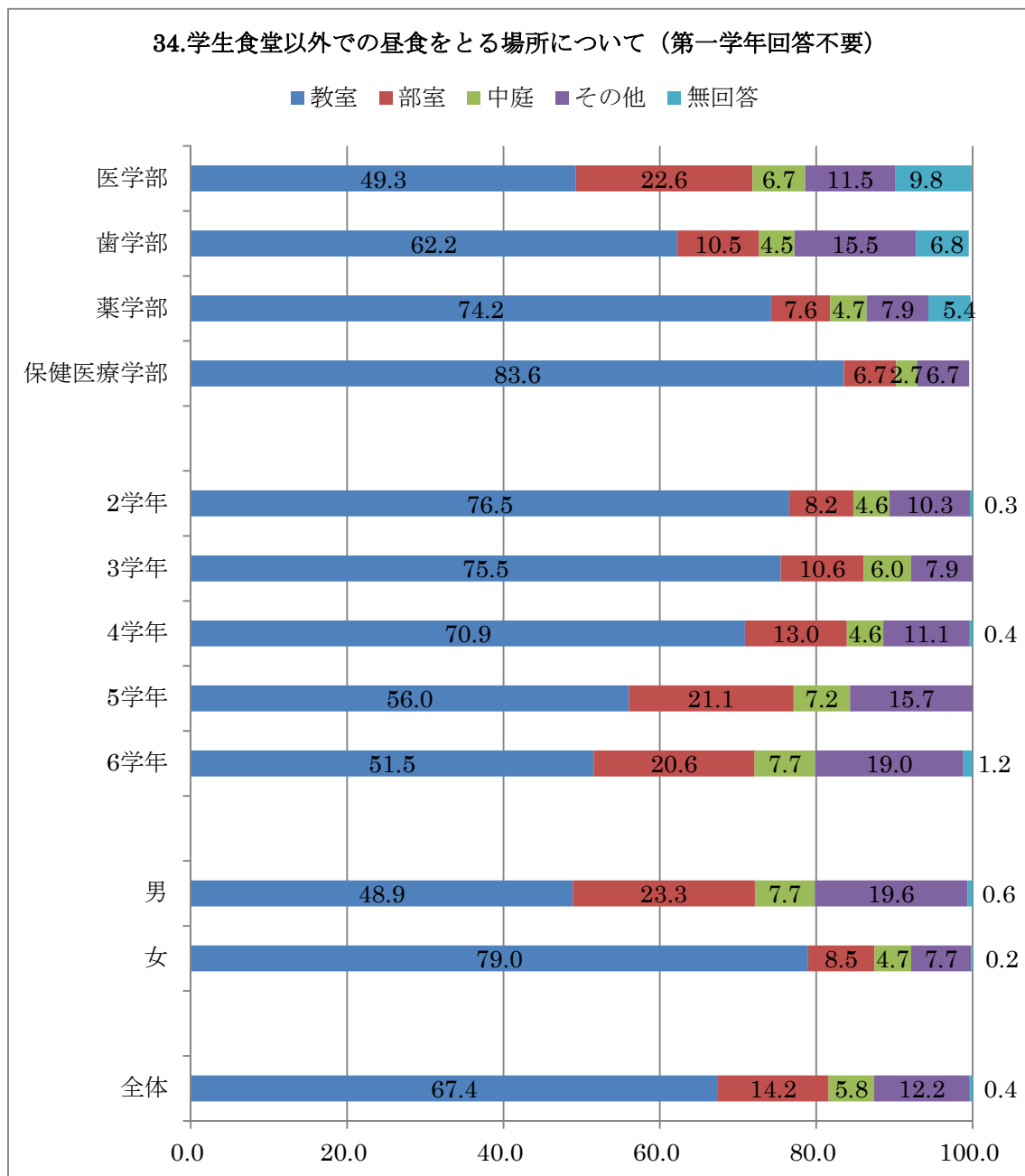


学生ホール・食堂の利用状況について、保健医療学部が高い利用率であるのに対して、薬学部が極めて低い。

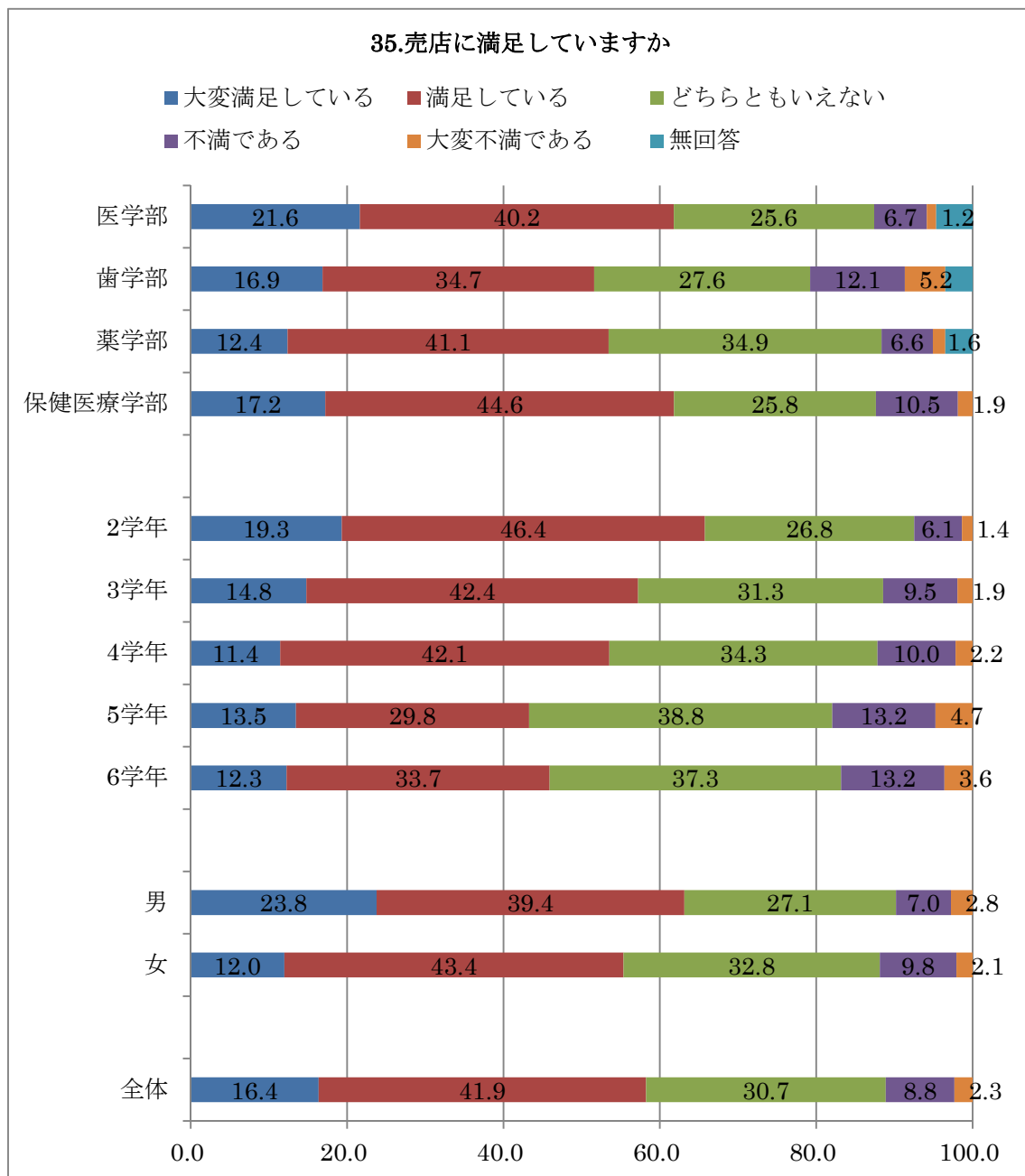
33.学生食堂の利用しない理由について（第一学年回答不要）＊複数回答可



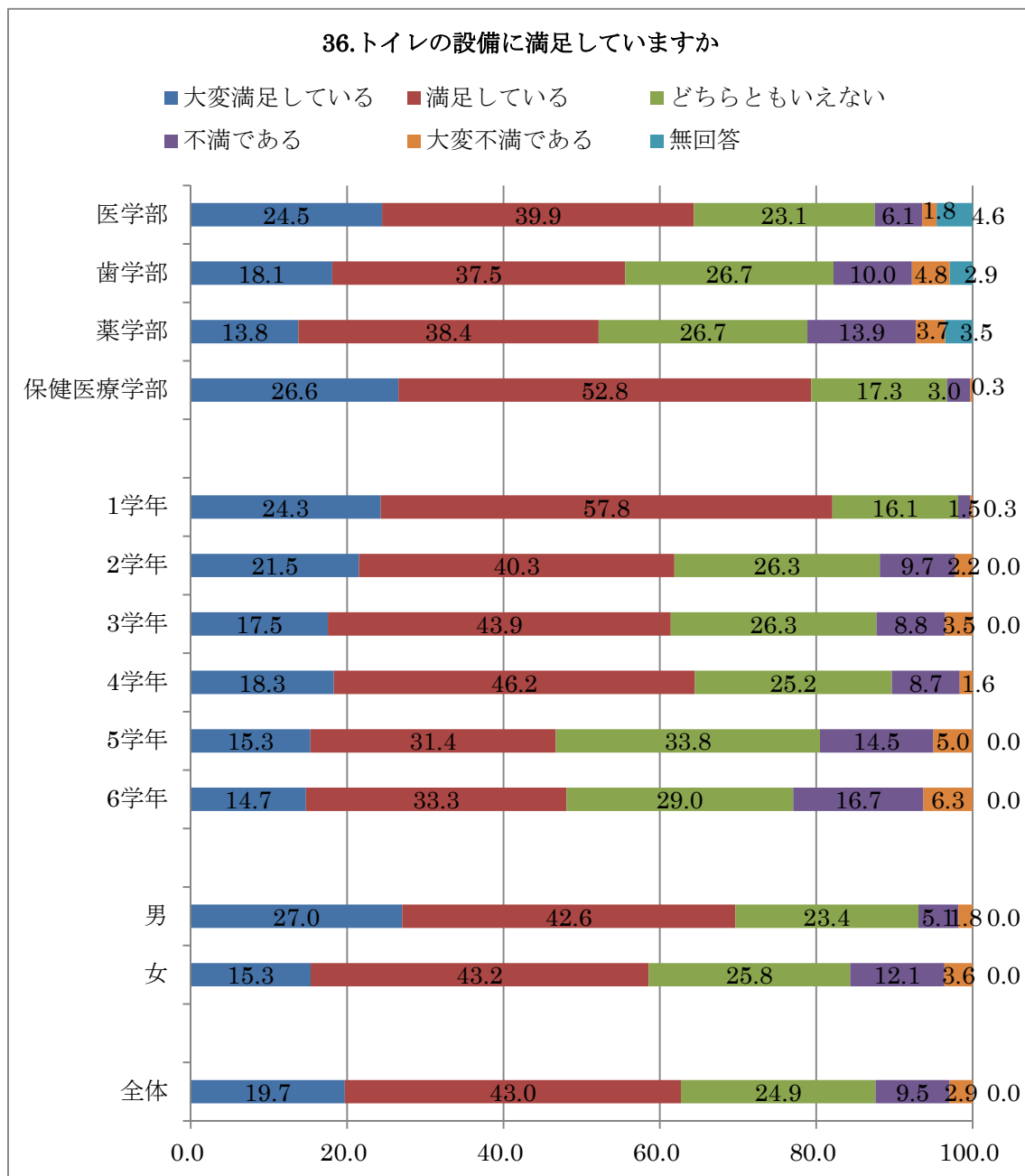
学生食堂を利用しない理由としては、前回の調査と同様に、混んでいるが学部、学年を問わず一位になった。



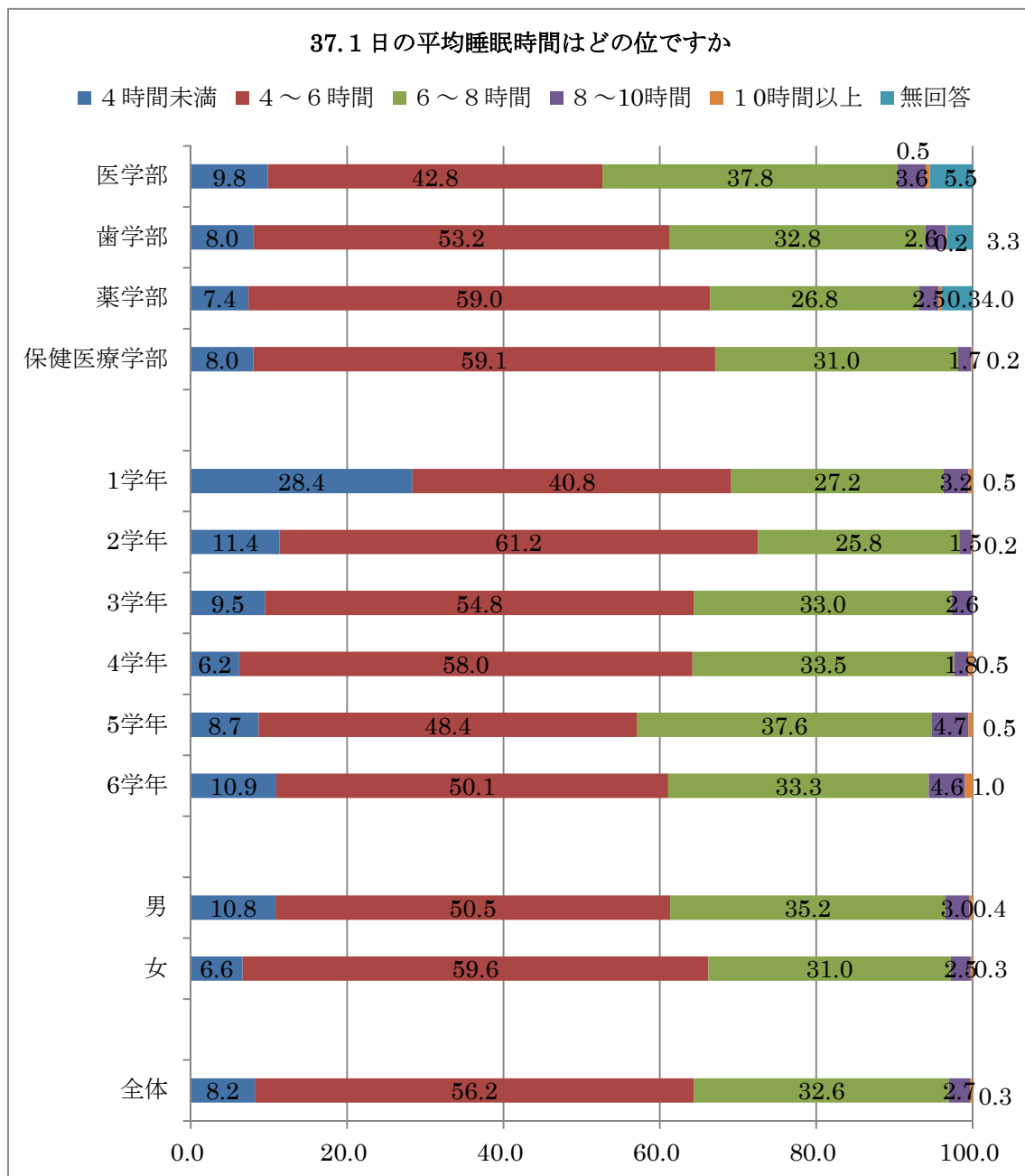
学生食堂以外での昼食をとる場所として、ほとんどの学生は教室を利用している。学年別にみると、学年があがるにつれ部室の割合が高くなる。



売店の満足度は全般的に高く、サービスや品揃えに関して概ね受け入れられていると思われる。

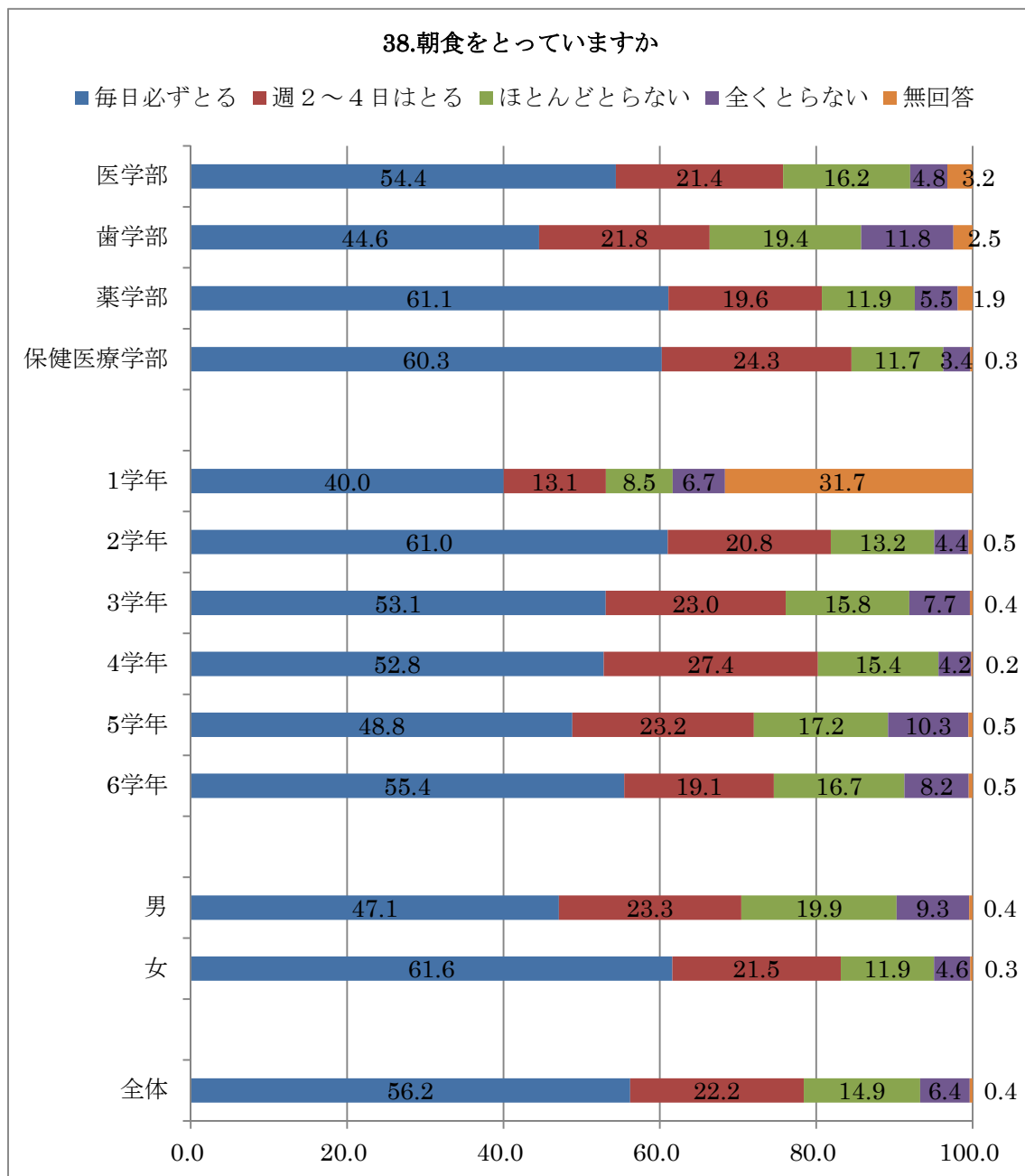


トイレの満足度は全般的に高く、設備・設置に関して概ね受け入れられていると思われる。

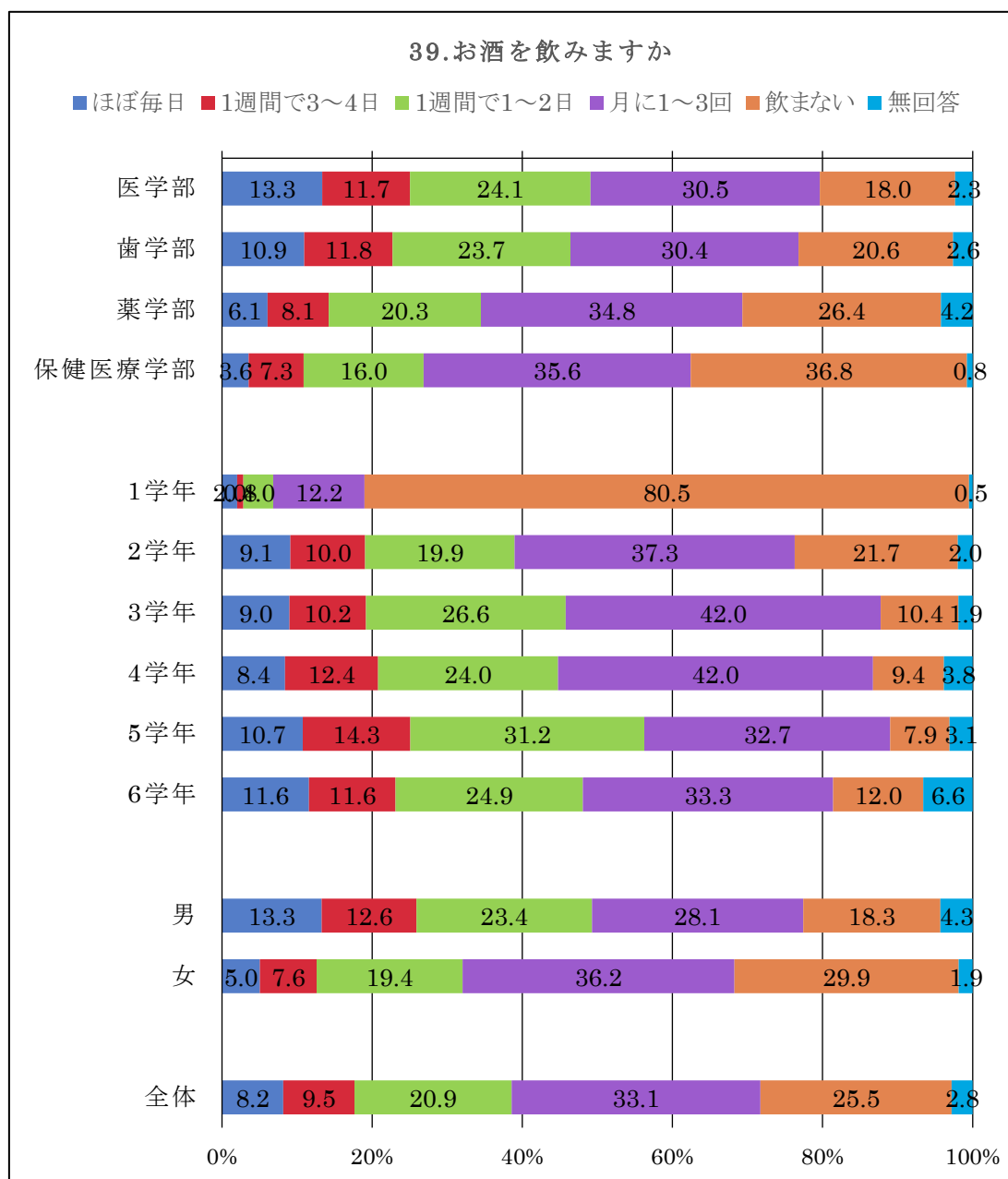


1年生の睡眠時間が4時間未満が多い。寮生活で遅くまで起きているものと思われる。

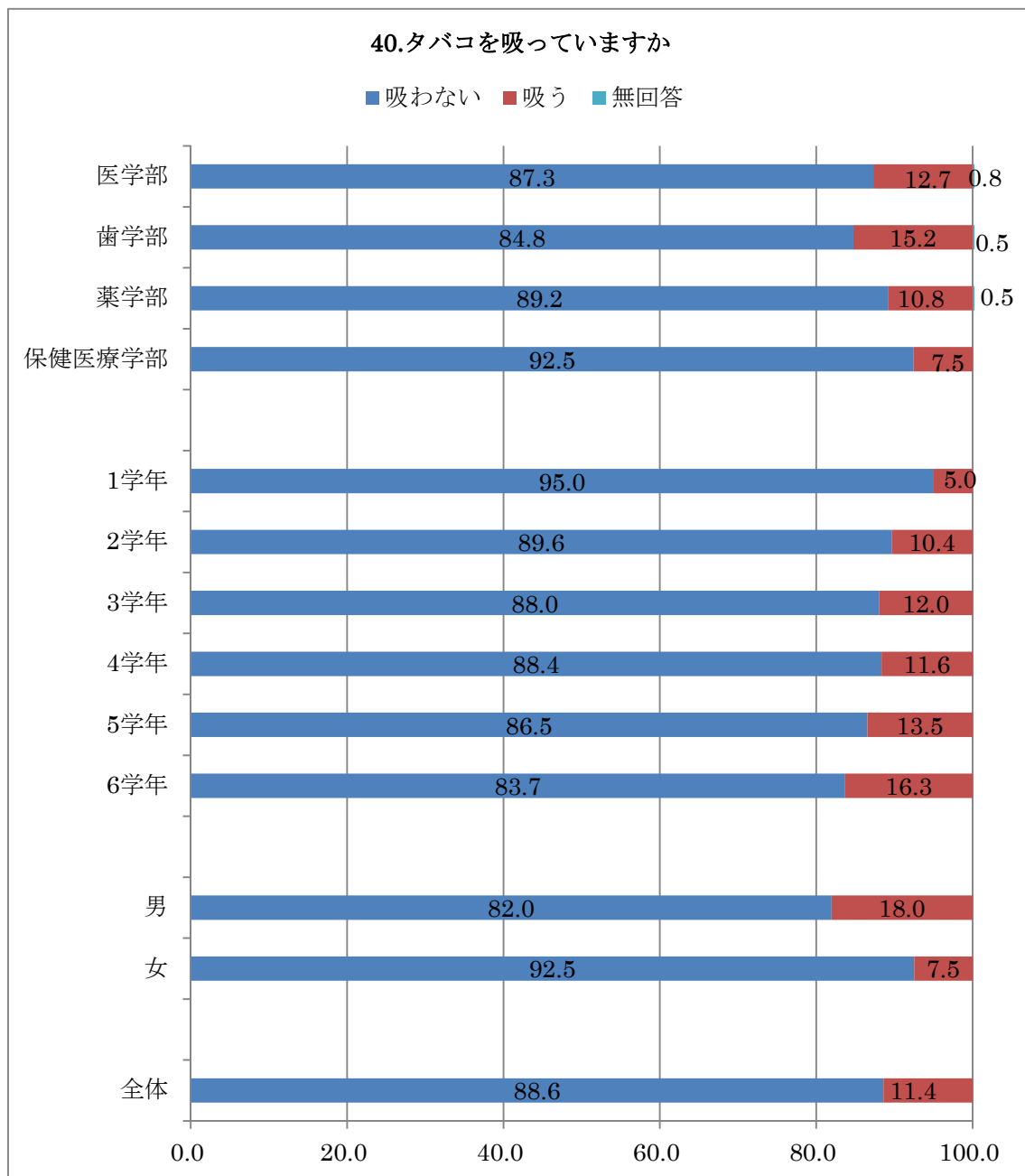
2学年以降は4時間から8時間の十分な睡眠時間を取っている。



1年生の朝食を毎日必ず取ると週2～3回はとるが極端に少ないのは、夜遅くまで起きていて夜食を食べているものと思われる。2学年以降は良好にとっているが、男性が朝食を抜いていることが多い。

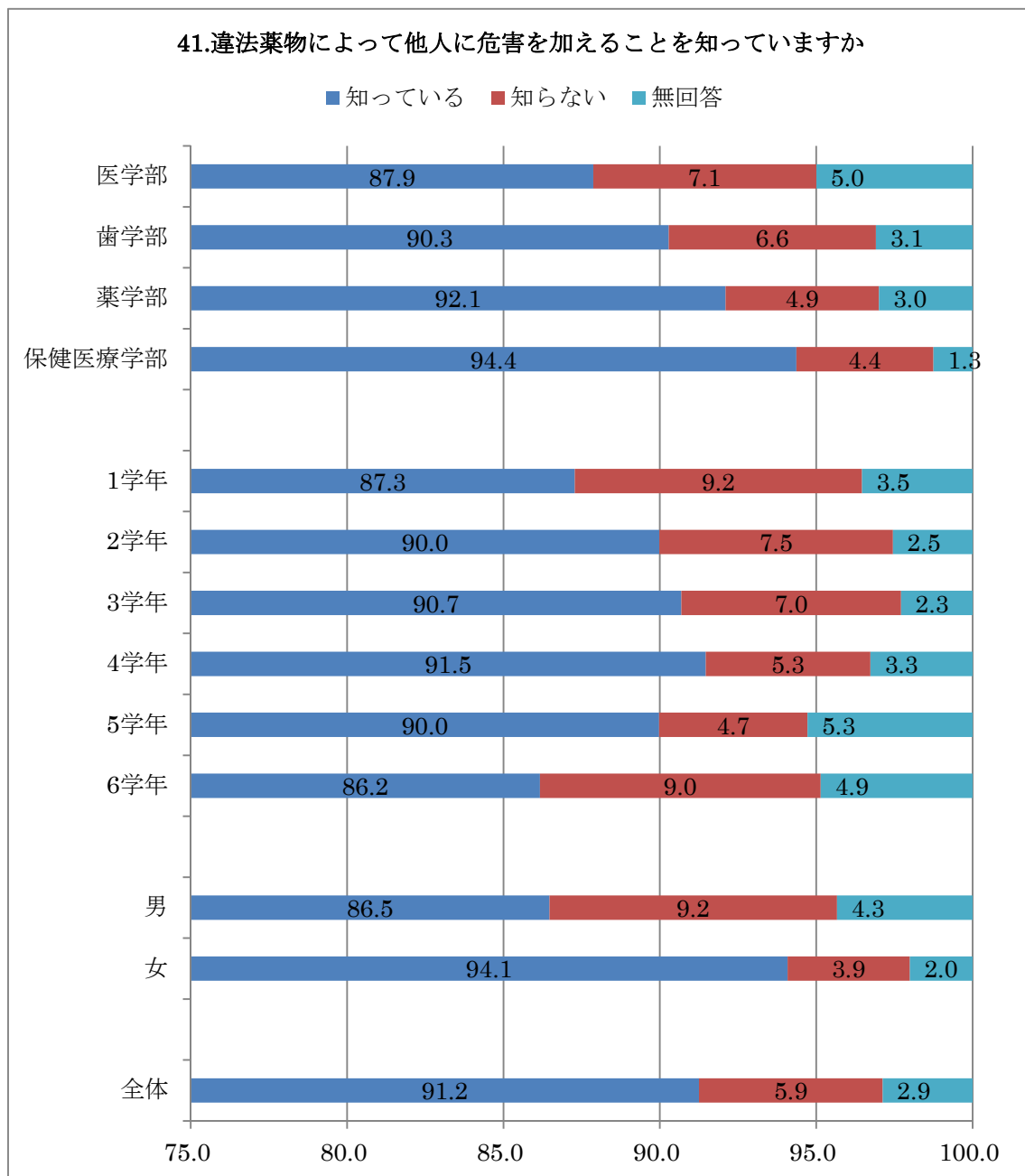


1年生は全寮制のため寮内での飲酒は禁止されており、成人している者がキャンパス外の飲食店や週末に帰省した際、飲酒していると思われる。



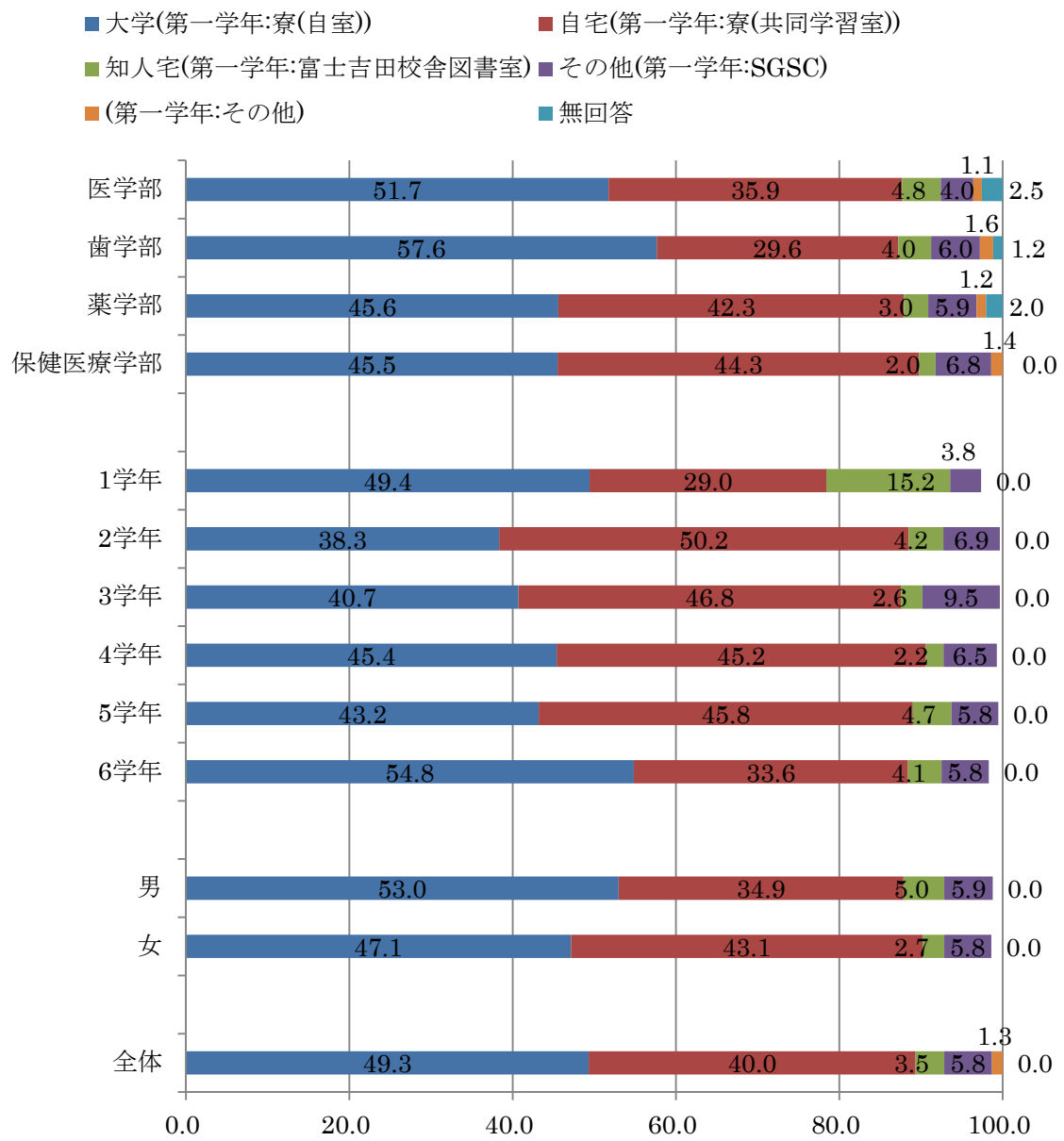
喫煙するのは全体で 11%と低いですが、学年が上がるにつれて喫煙率が増加している。

平成27年度の調査では喫煙 7.7%より増えている。

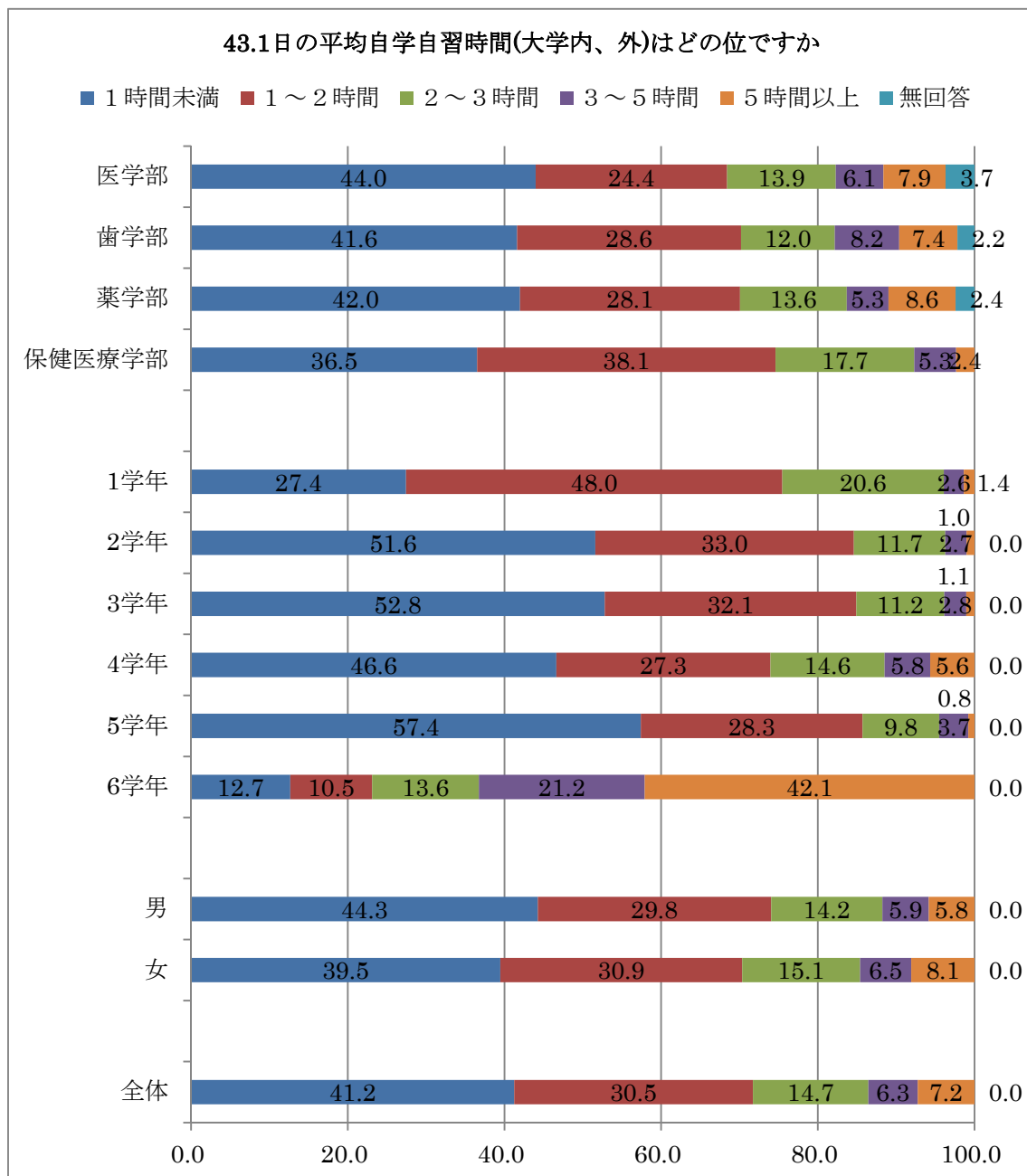


違法薬物による危害について知っていると答えたものは学年を追う毎に増加しているが、5年生、6年生で減少している。

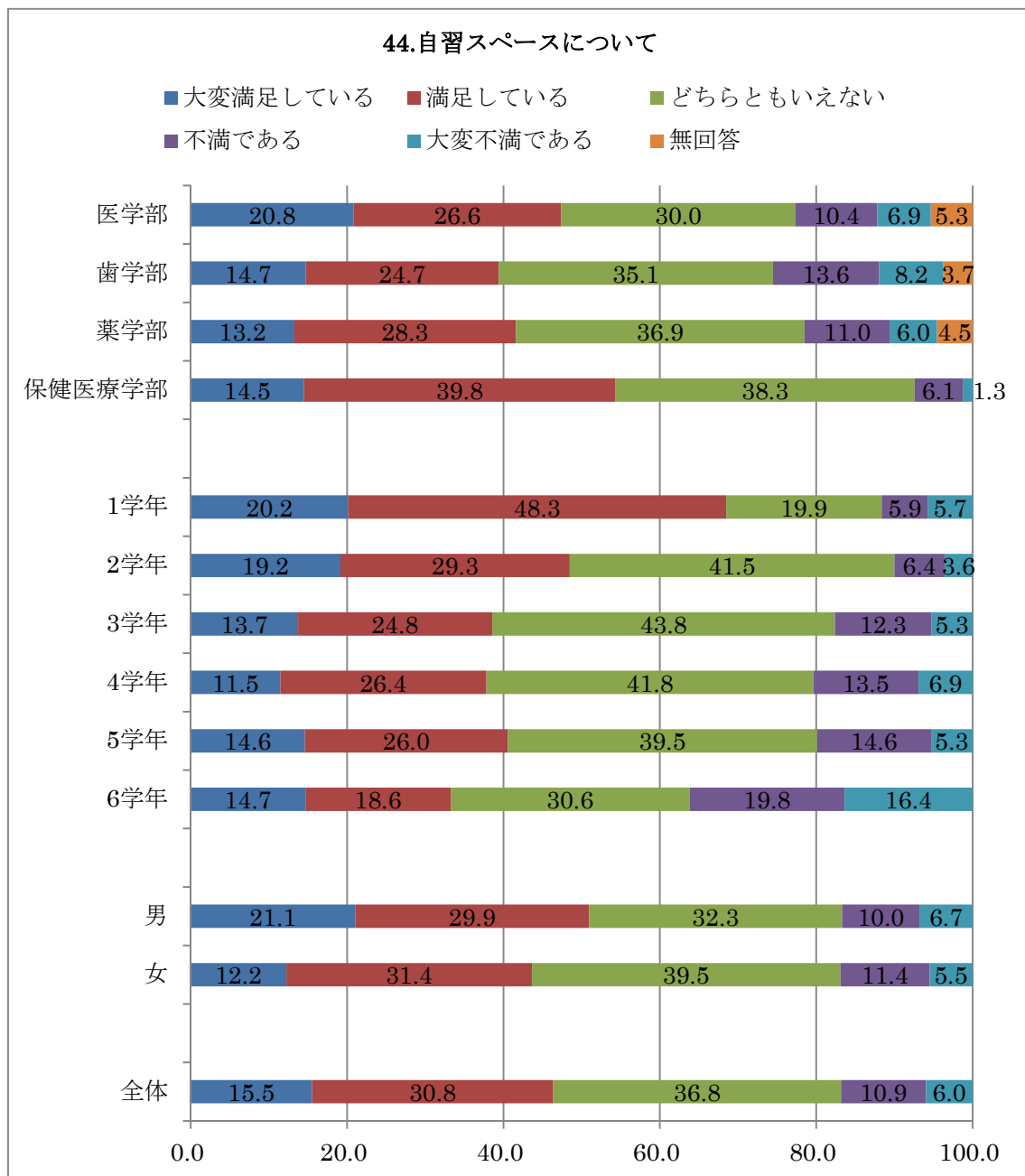
42.最も多く、自習する場所はどこですか



大学の自習スペースは平成27年度調査では25%が49%増えており、改善してきている。

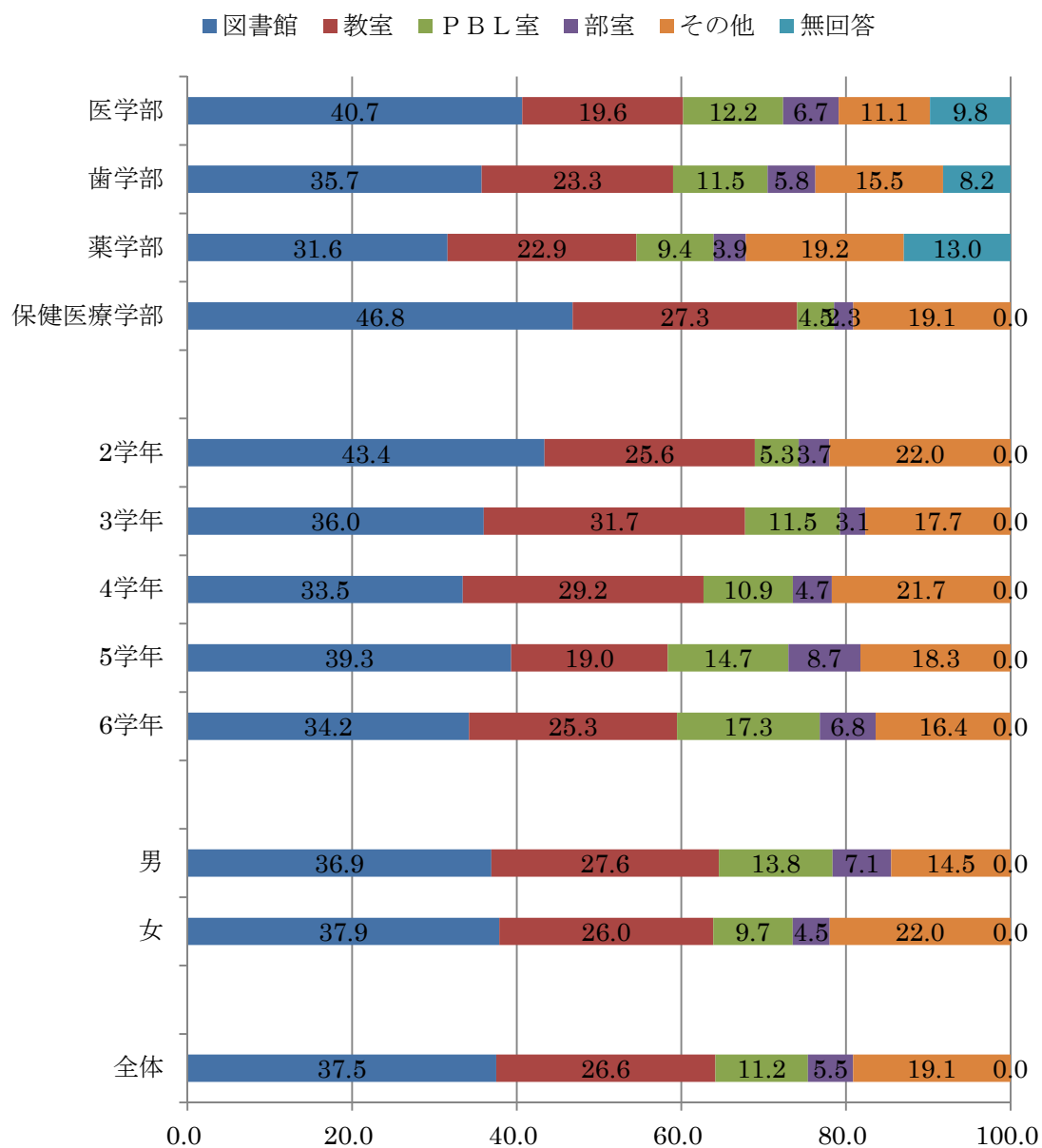


3～5 年生の自習1時間以内が 50%前後であり、6年生になってから 12.7%と自習するようになる。
恐らく国家試験対策に費やしているのであろう。各学年での自習を行う習慣を早くつけるべきである。

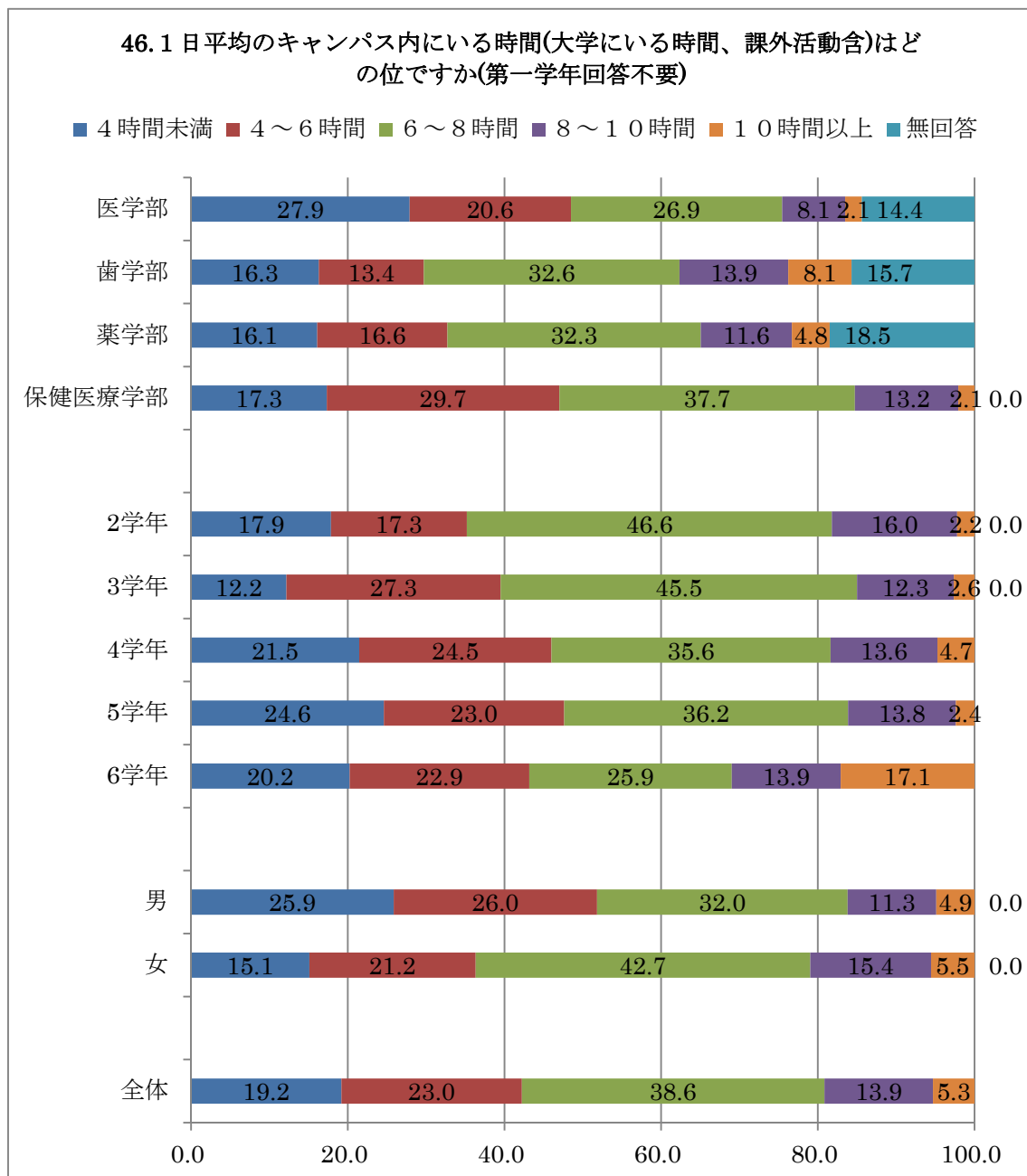


自習スペースの確保は1年生 68%満足しているが、2年生以降は満足度が低下してきている。

45.自習スペースとしてどこを利用していますか(第一学年回答不要)

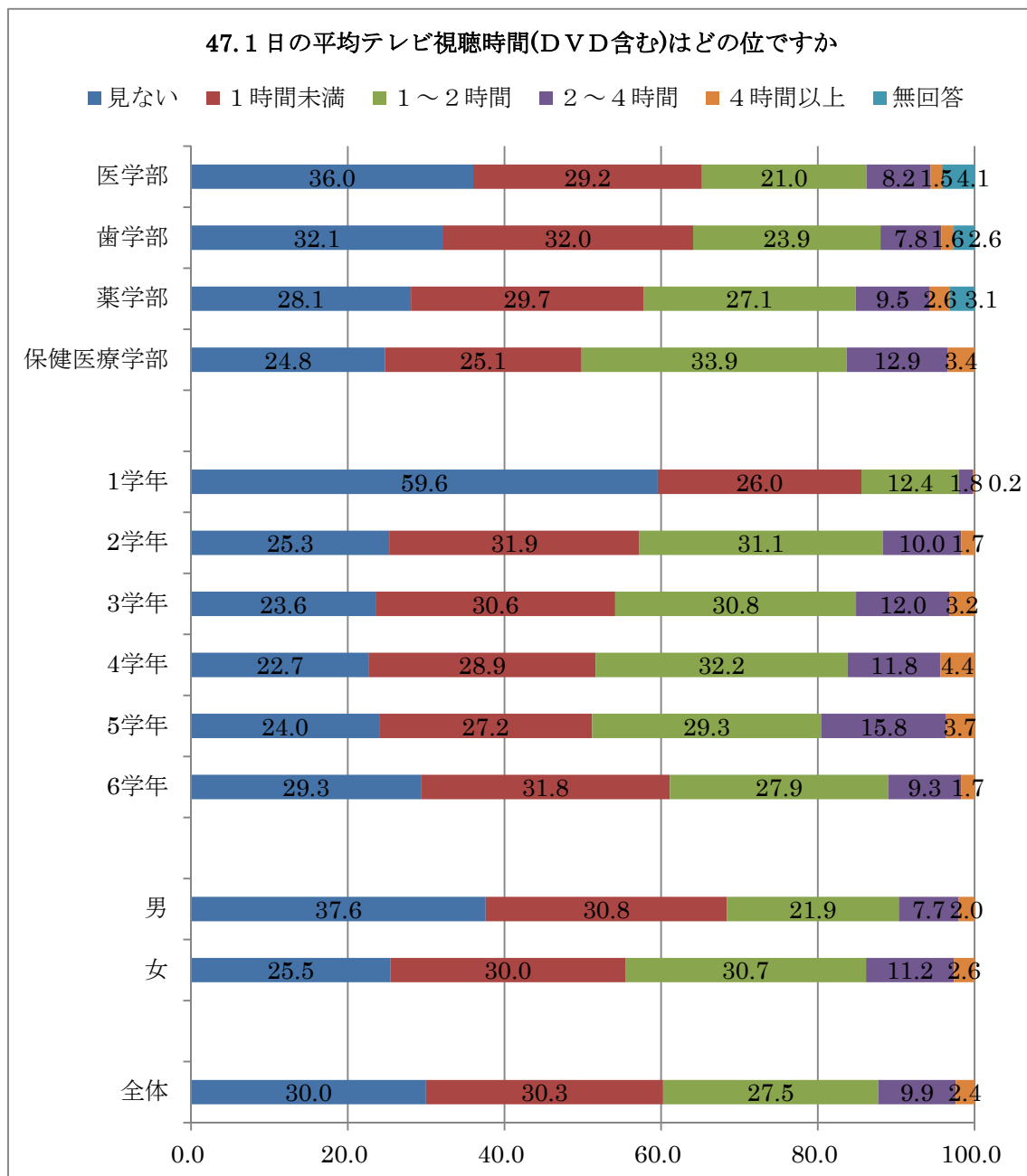


例年通りの回答で、図書館、教室、PBL室の順である。

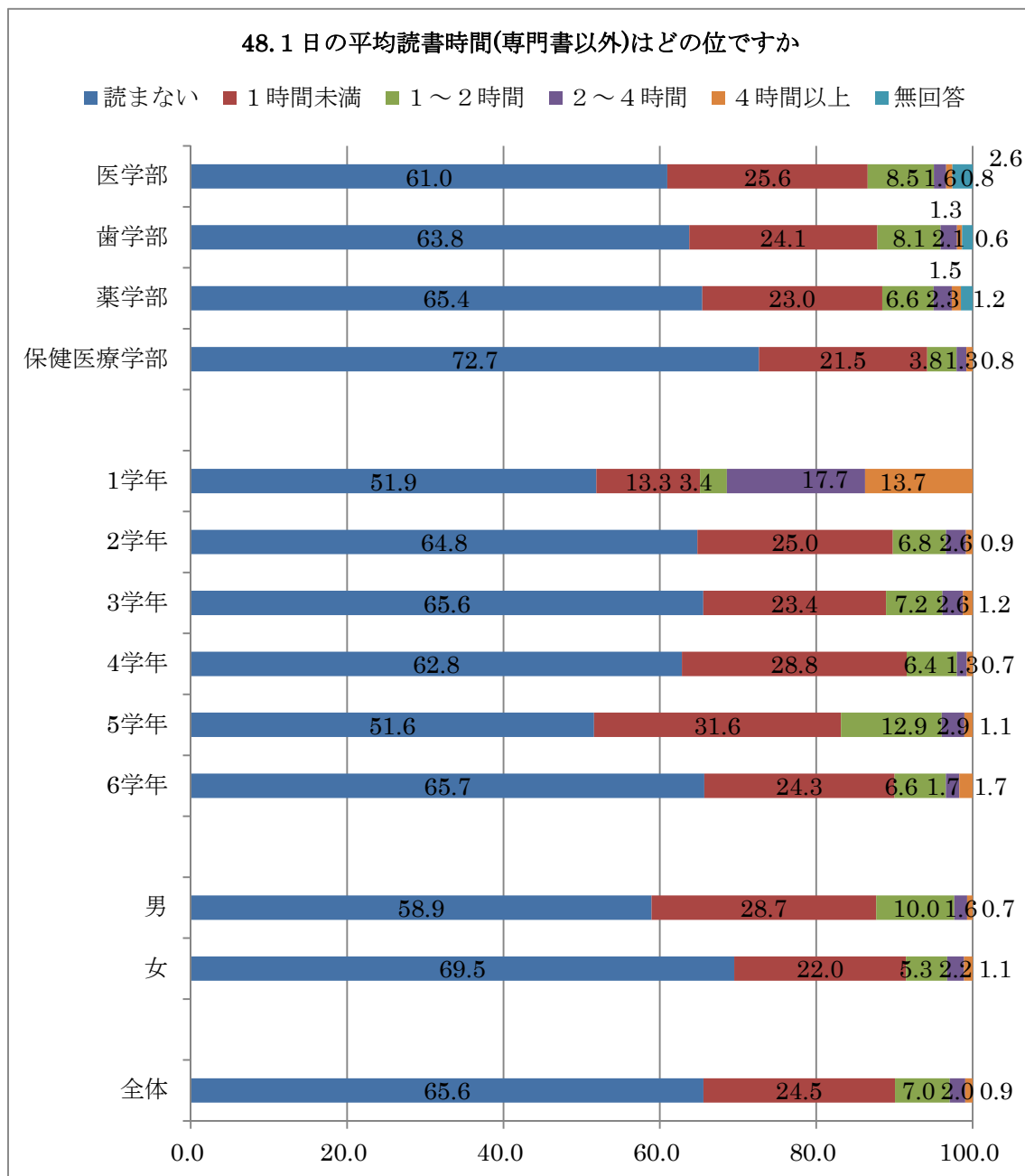


低学年の方が、大学にいる時間が長くなる傾向である。

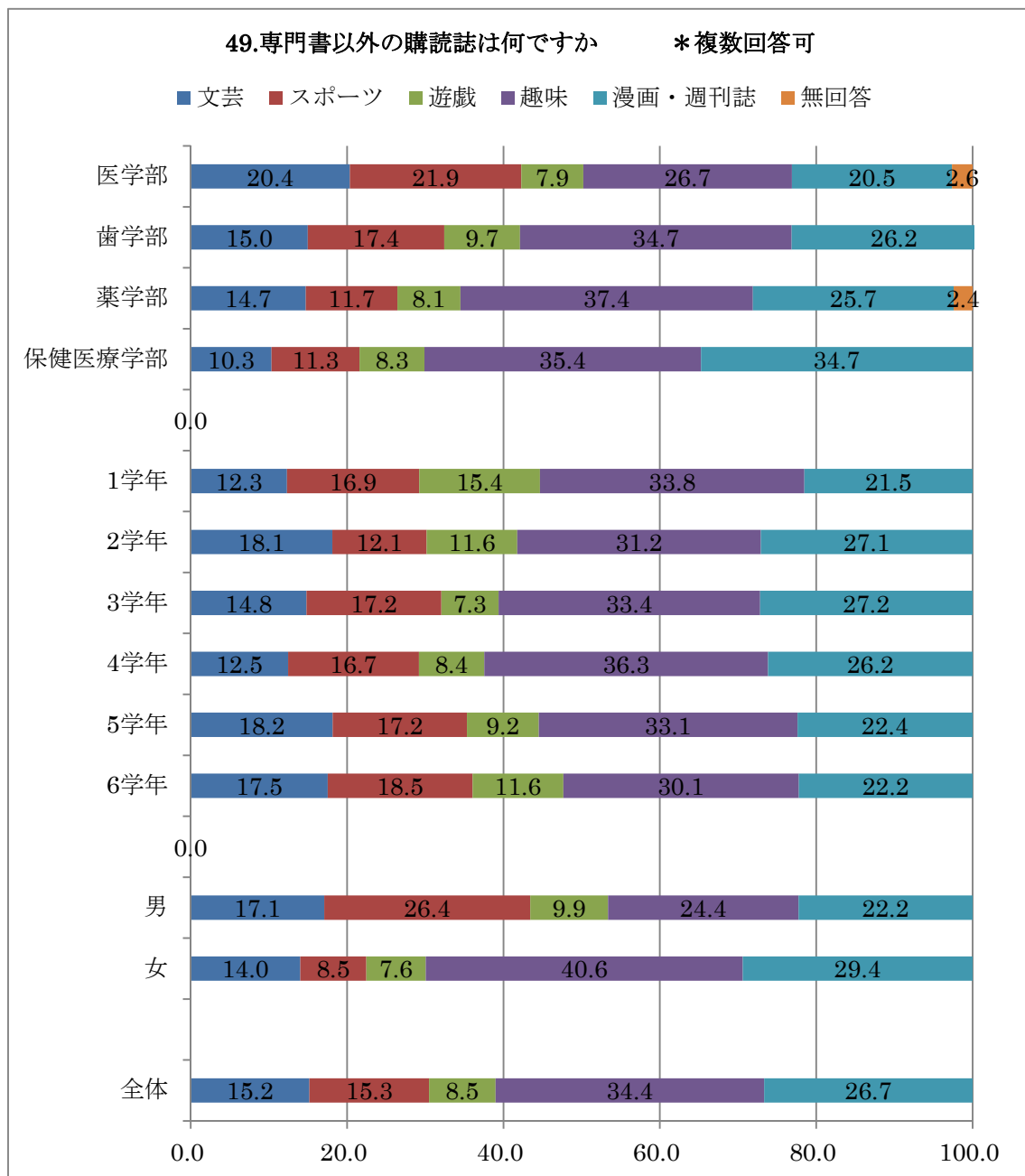
課外活動を行っていることが理由であると思われる。



1年生のテレビの視聴時間は少なく、寮生活や部活を中心に生活しており、2年生以降は自宅や賃貸住宅となるため視聴時間が増えると思われる。長時間見ている学生は少ない。

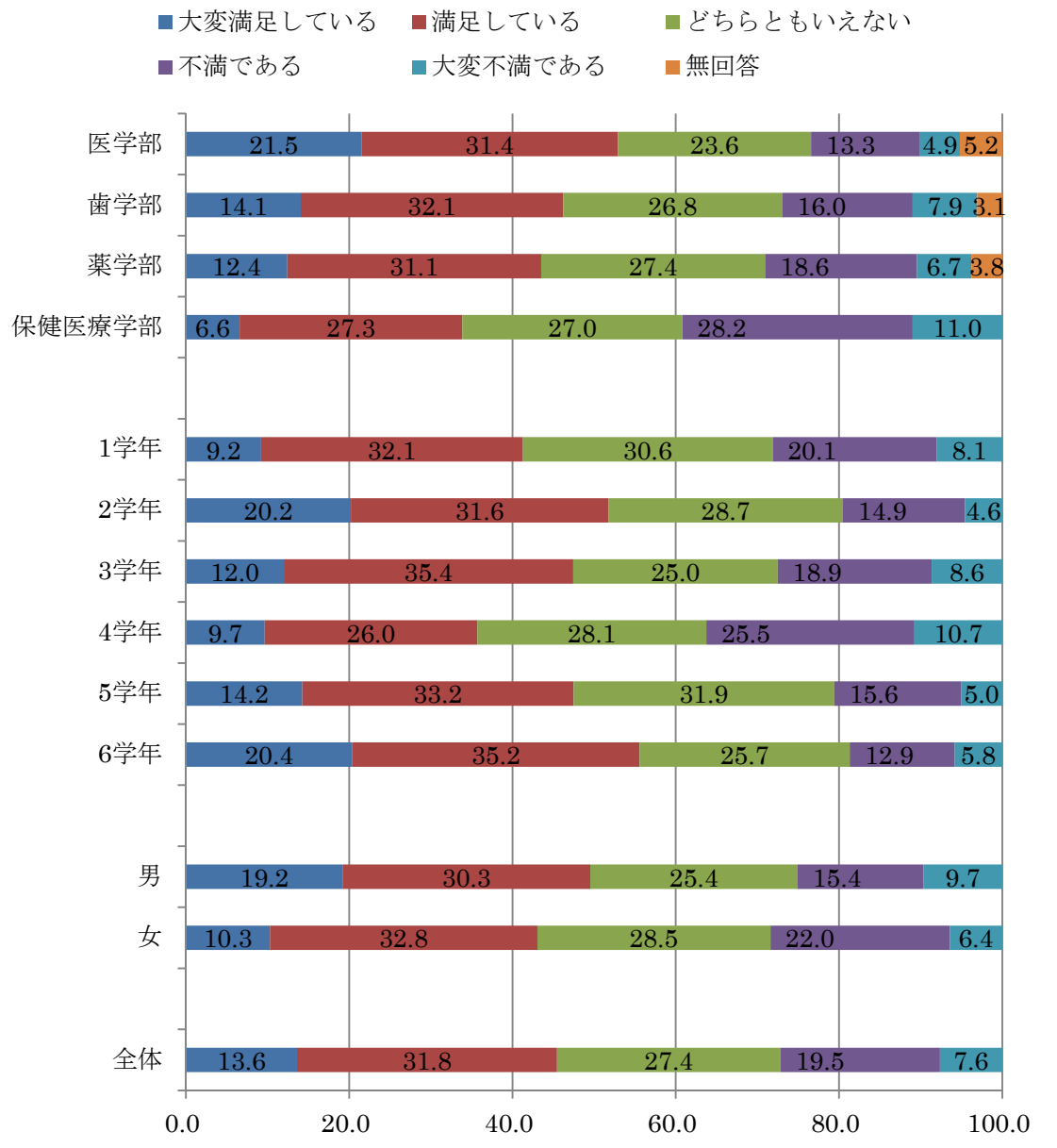


読書はほとんどしていない(69.5%)。1時間以内が24.5%である。

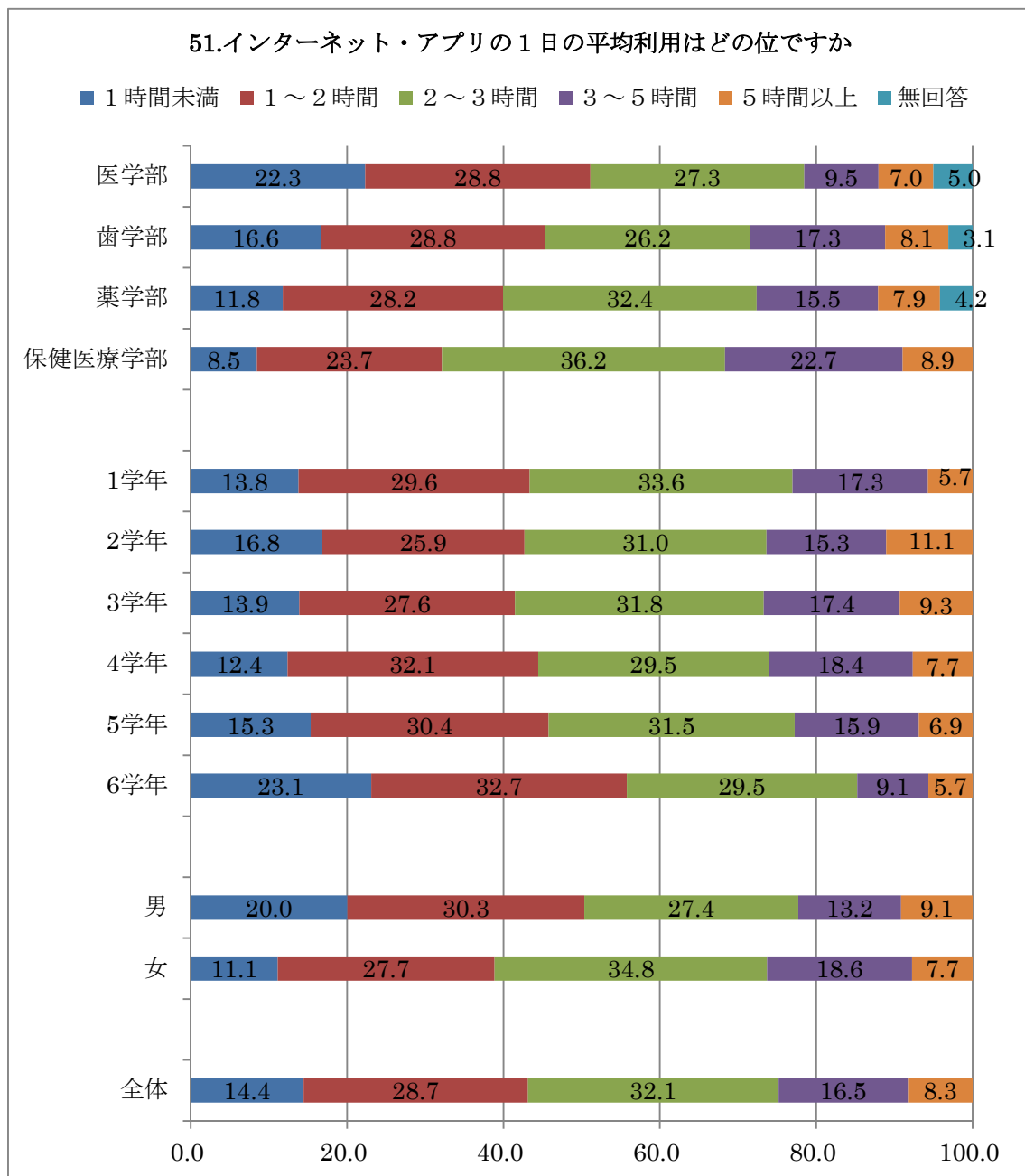


専門書以外の読書では、趣味や漫画・週刊誌が多い。

50.インターネット環境について

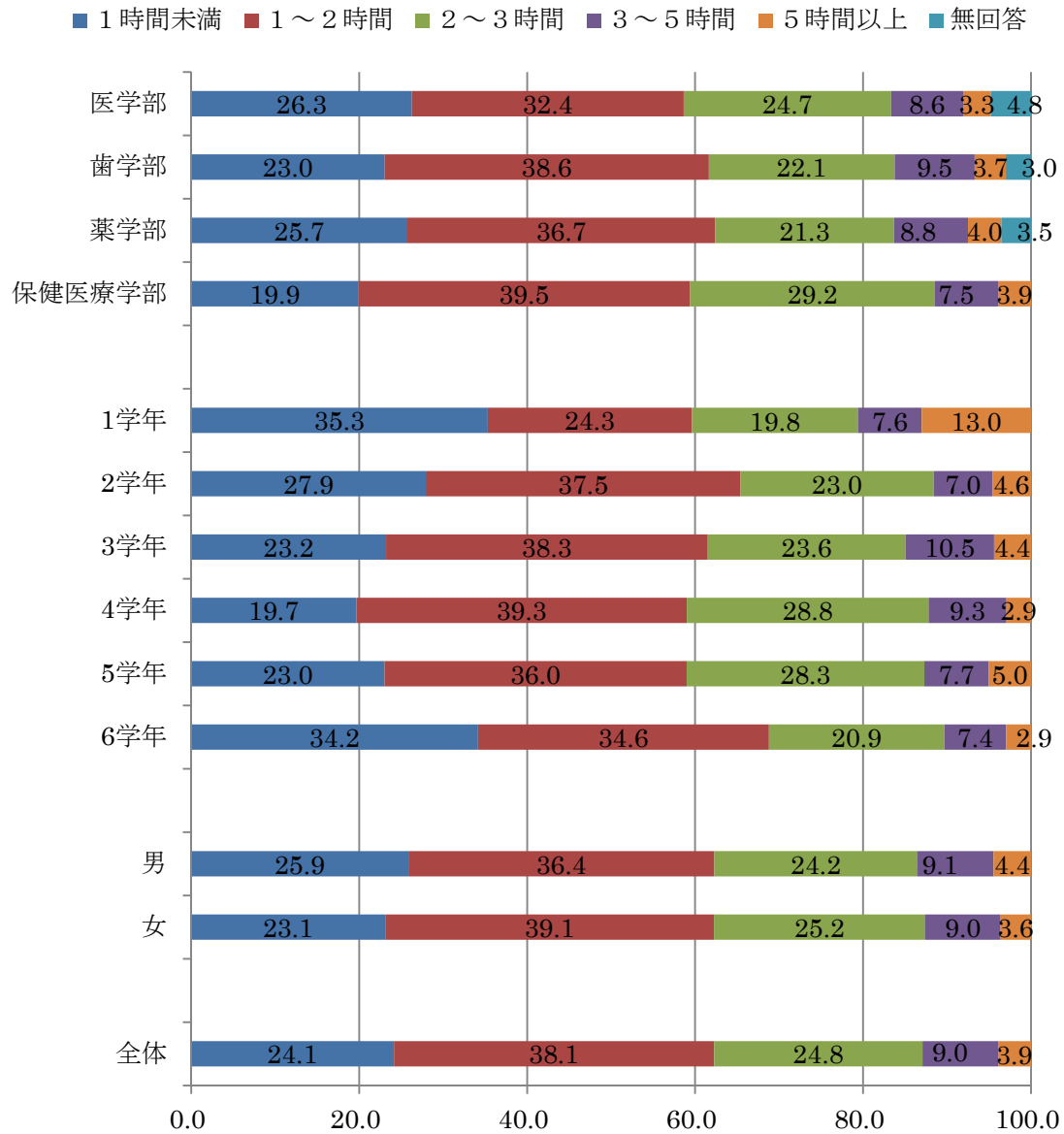


インターネット環境に関しては、保健医療学部の満足度が低い。

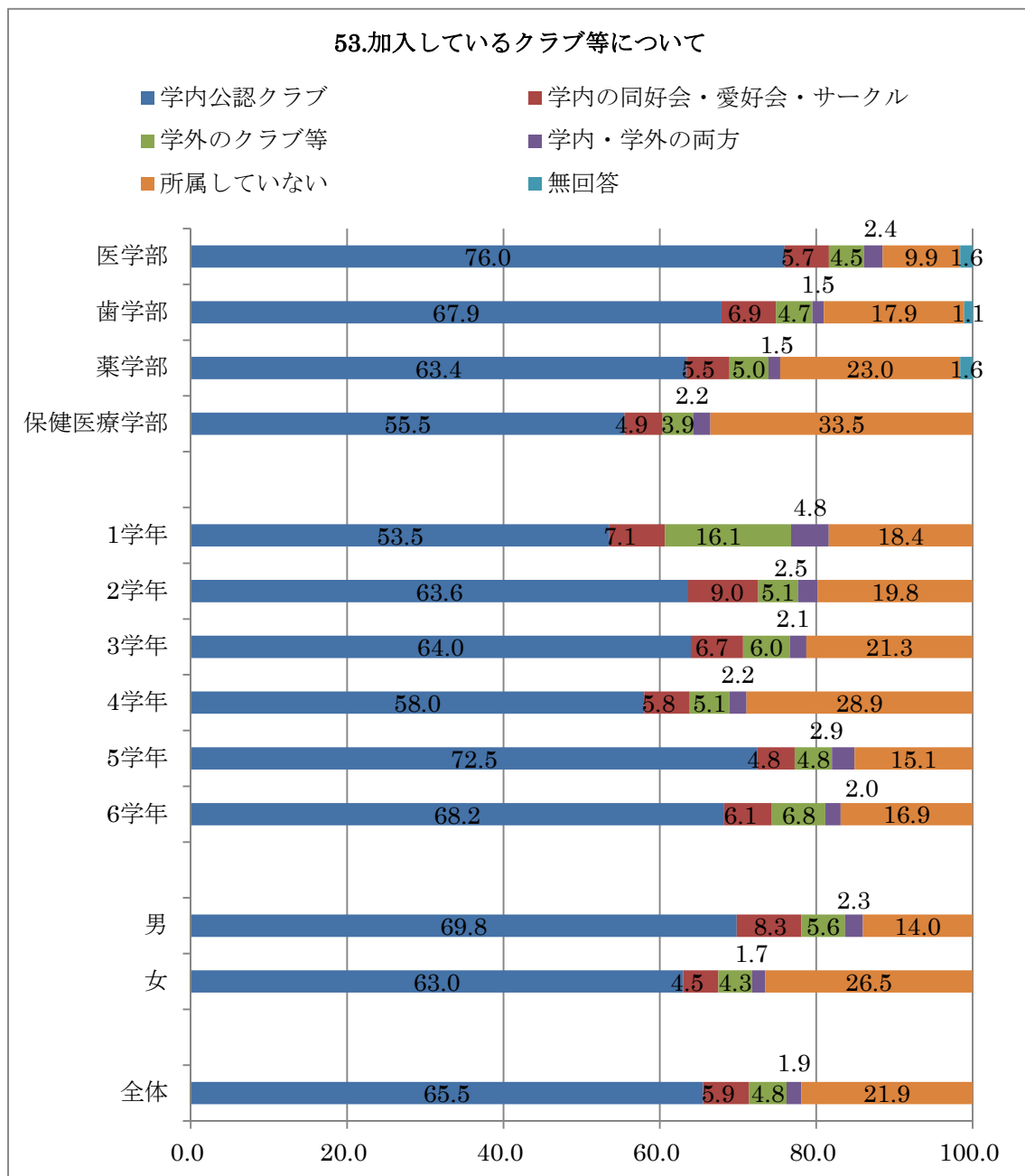


インターネット・アプリの使用が低いのは保健医療学部であるのはネット環境が大きく影響している。

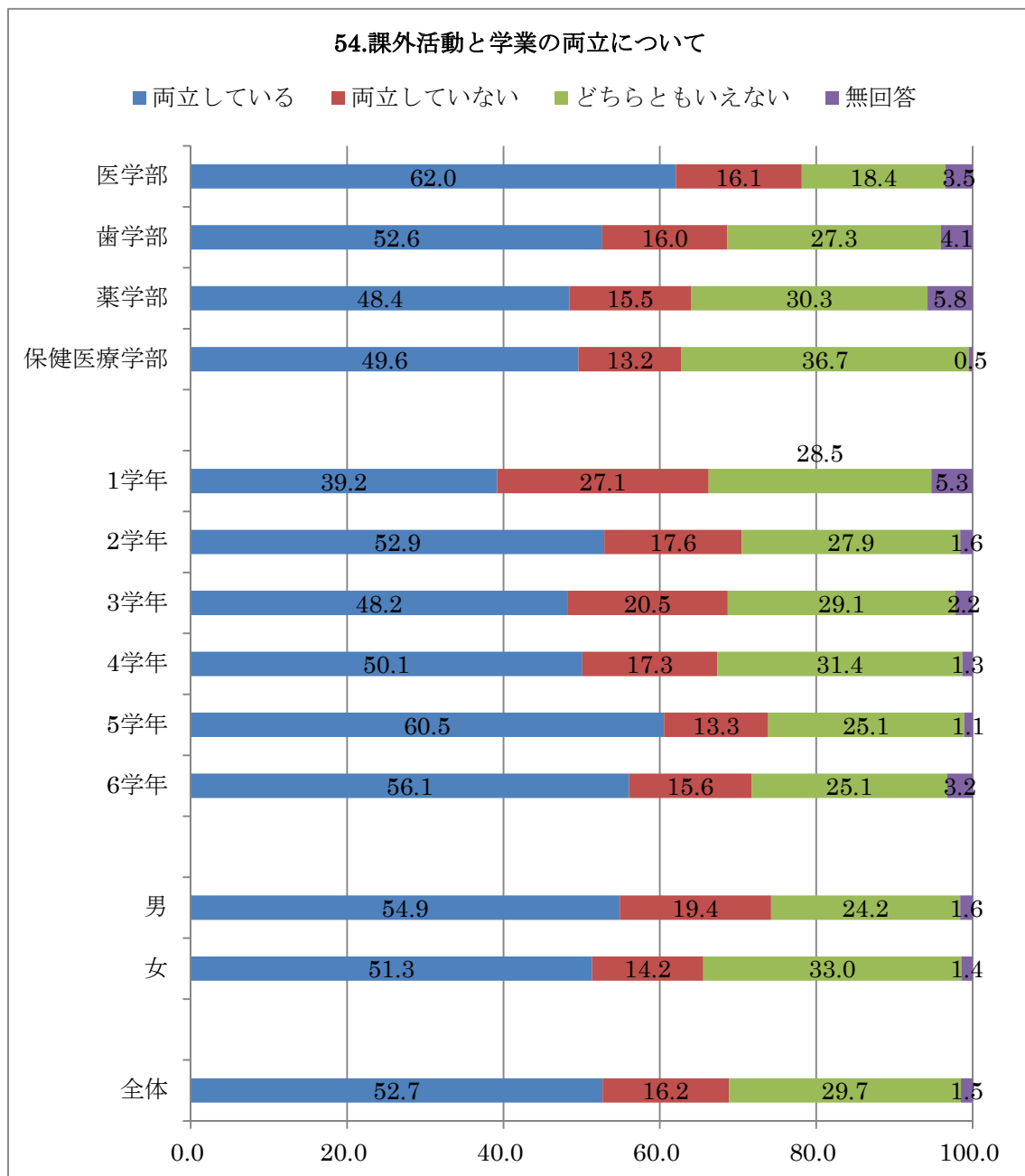
52.1 日の平均レジャー及び遊び時間（交際・趣味・娯楽等）はどの位ですか



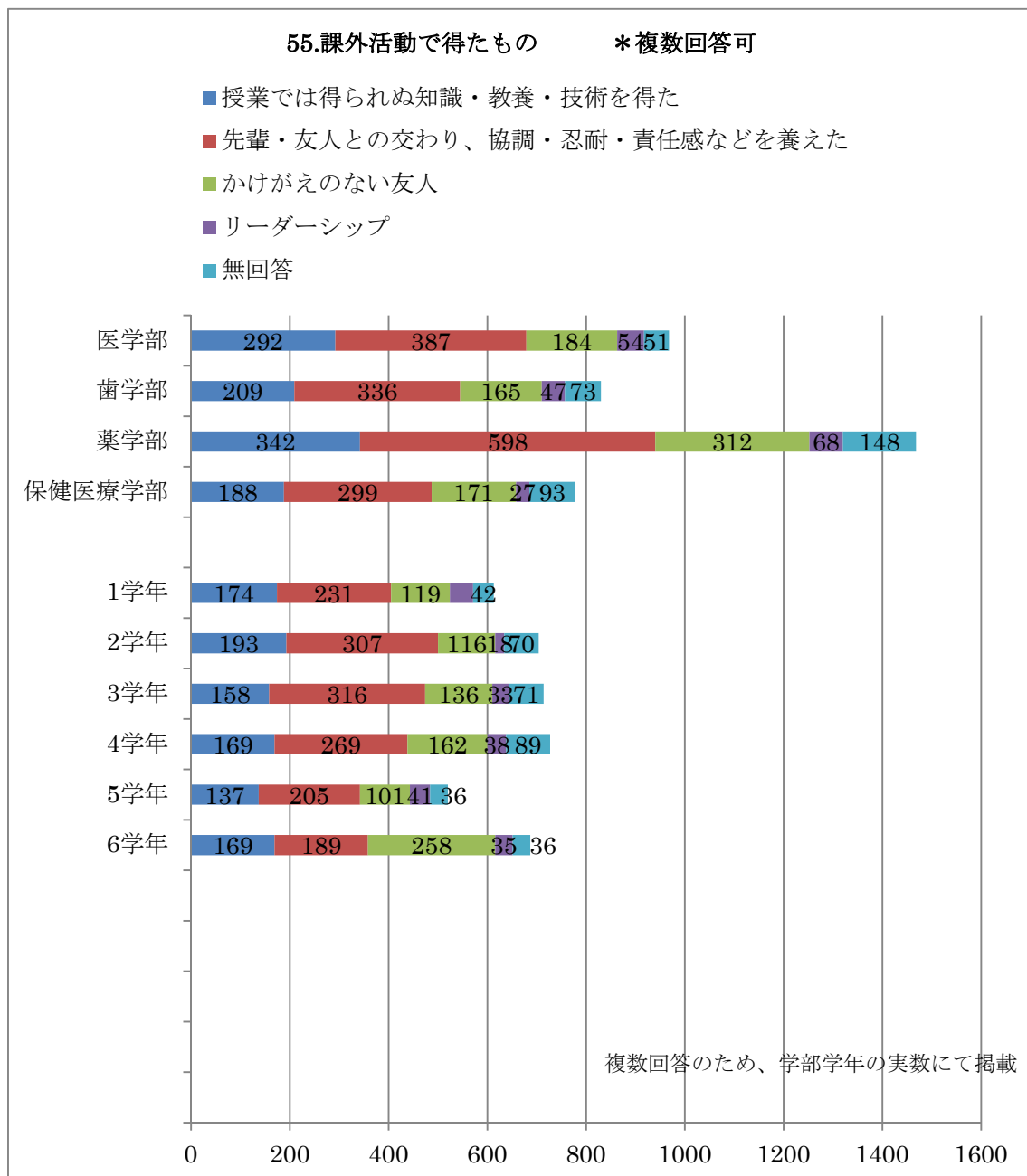
平均レジャー及び遊び時間は27年度調査とほぼ同じ傾向で、2 時間未満が 62%である。



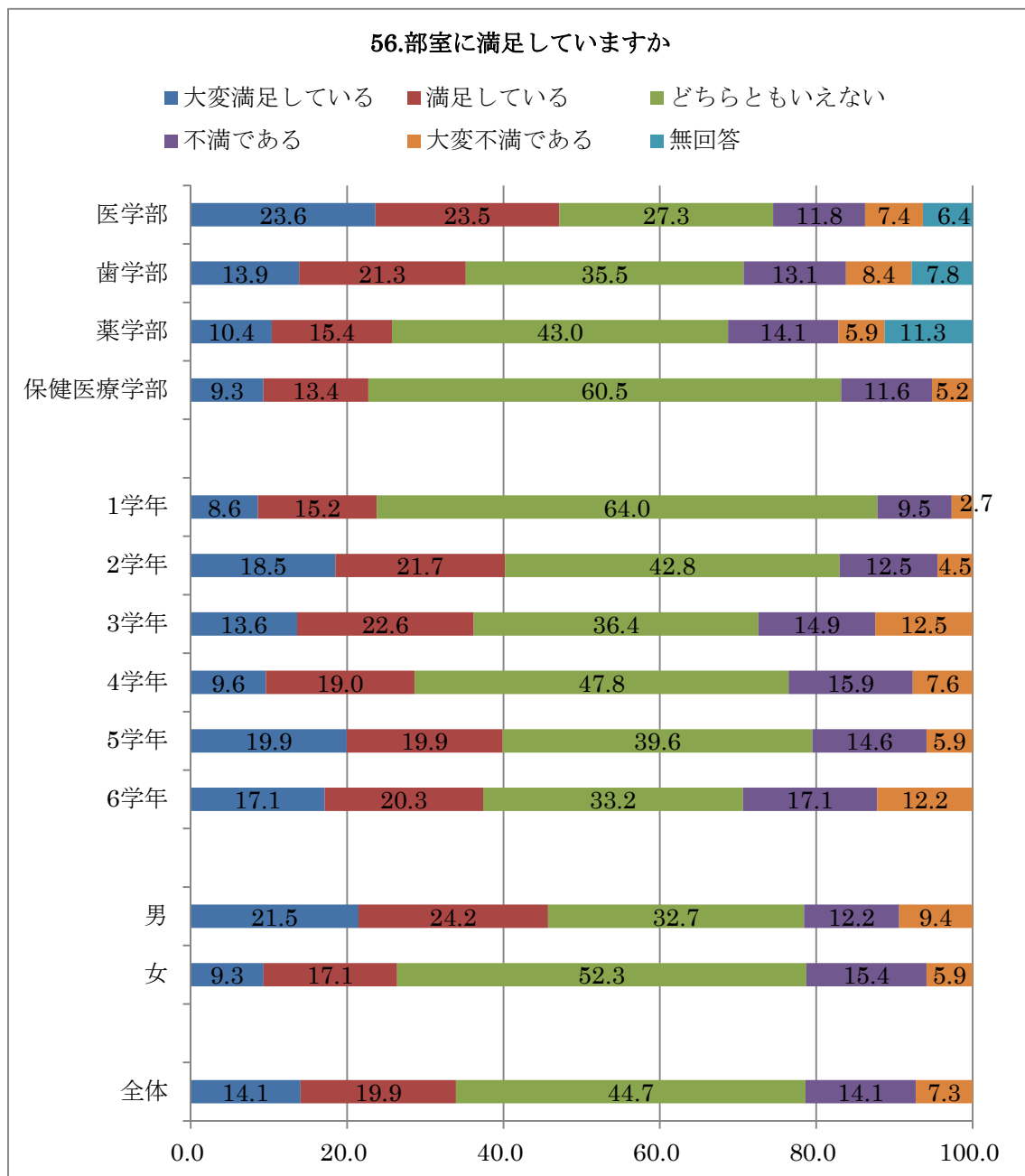
未加入者は男性 14.0%、女性 26.5%である。平成 27 年度の調査で女性の未加入者は 41.1%であり、女性の加入率増加が目立つ。これは女性の学内公認クラブへの加入増加による。前回同様学内公認クラブに加入している学生が多いが、学外クラブ加入者が 1 年生で著増し(前今回 16.1%、回 0.9%)、上級学年でも増加傾向。一方、1 年生での未加入者増加も目立つ(18.4%、前回 12%)。



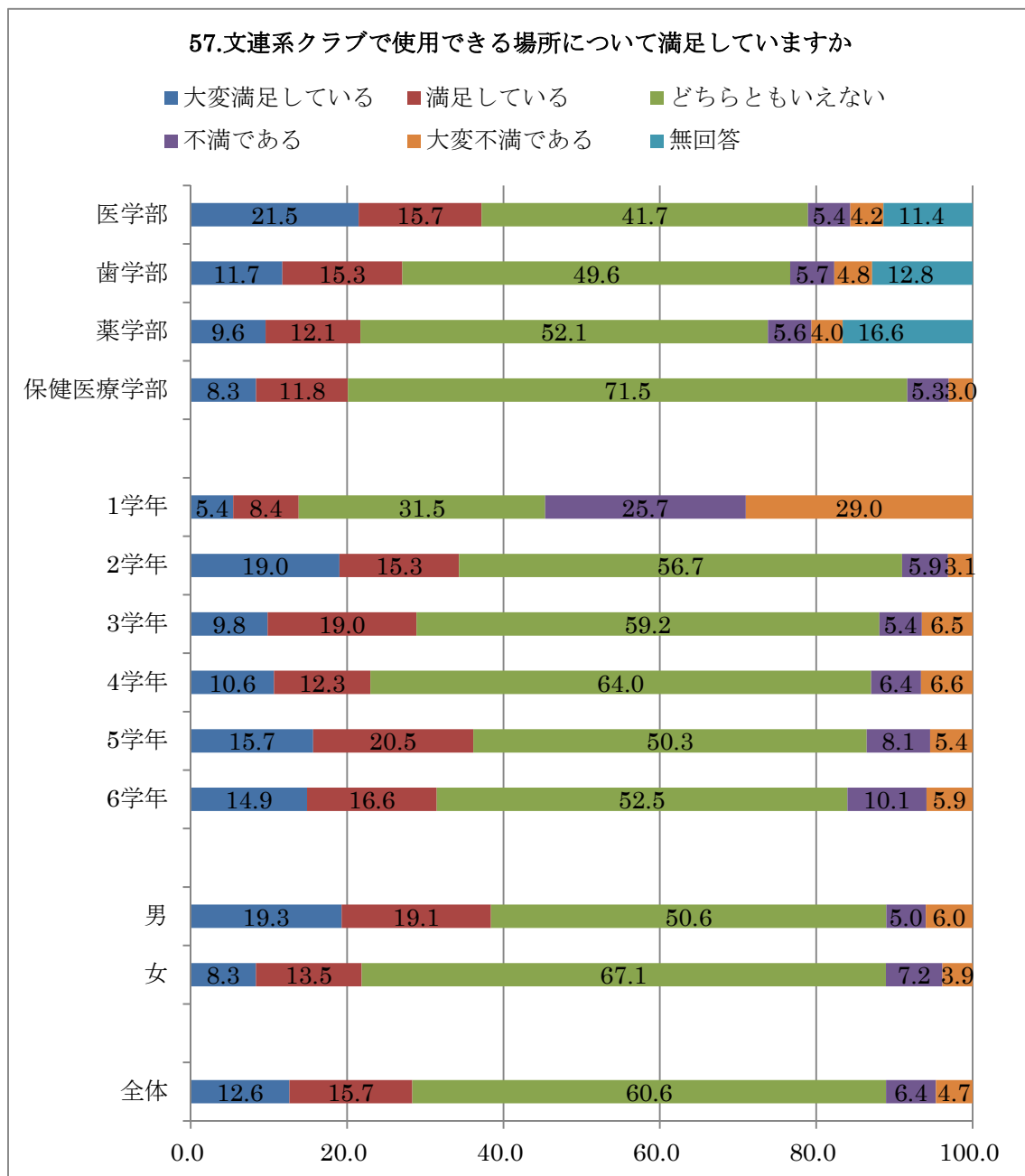
「両立している」と答えた学生は全体の 52.7%で、前回 59.7%よりも減少している。特に薬学部では前回 58.8%から今回の 48.4%へ大きく減少している。学年別で変化が目立つのは 1 年生で、前回 78.3%であったものが、今回は 39.2%と半減している。「両立していない」を選択した 1 年生も 7.5%から 27.1%へ著増している。1 年生での課外活動と学業の両立は、以前よりも難しくなっていることがわかる。



全体としてみると、各要素の割合は前回とほぼ同様である。先輩や友人との交わり、協調・忍耐・責任感などを養えたとしたものが多い。課外活動を通して、人間関係の構築や維持に関する経験やスキルを獲得していると推測される。



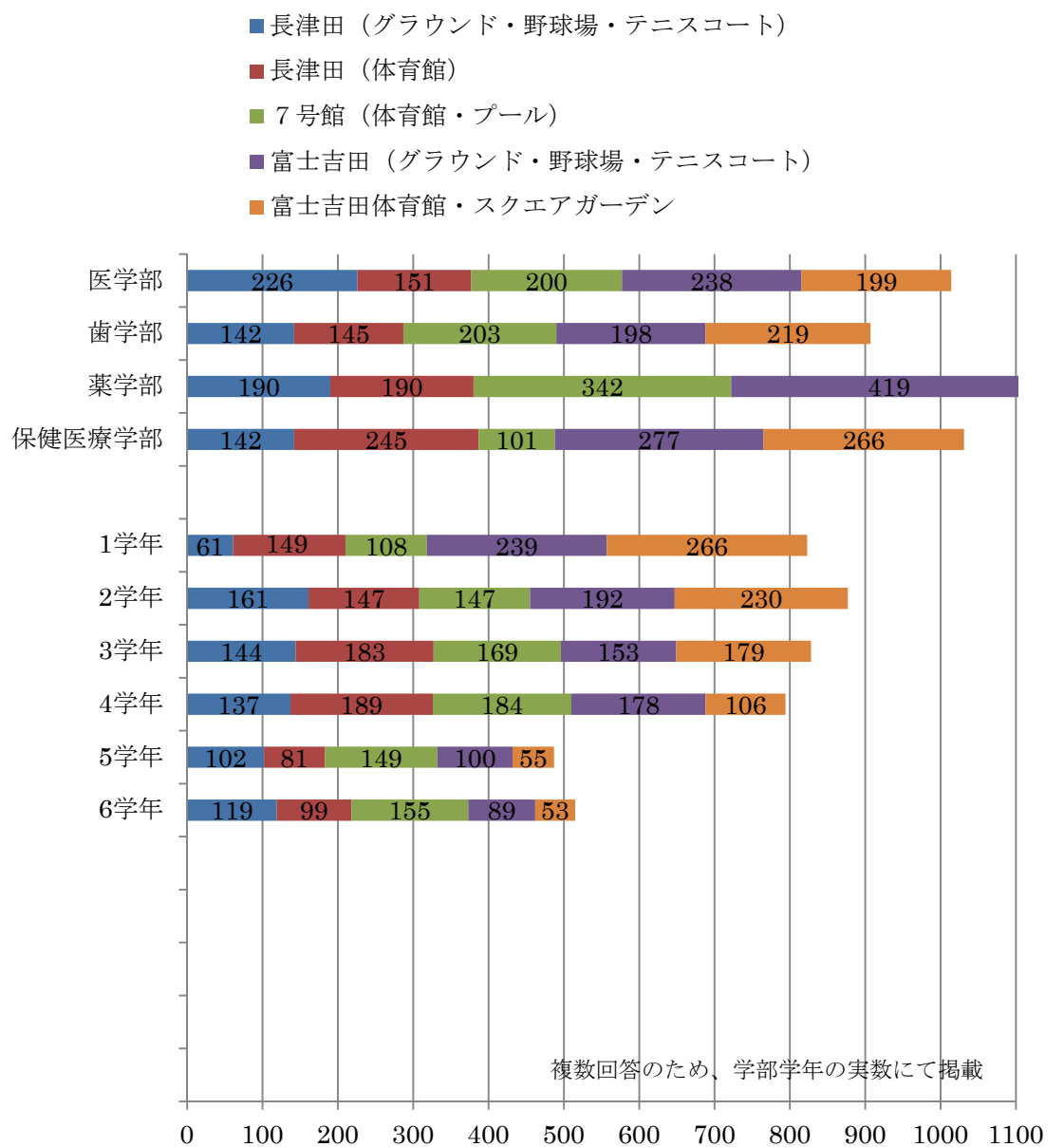
医歯薬学部での割合は前回の調査とほぼ同様である。保健医療学部で前回は不満+大変不満で28.3%であったが、今回は16.3%(11.6+5.2)と不満感は減少している。1年生では大きな変化があり、前回は大変満足+満足で62.2%であったが、今回は23.8%(8.6+15.2)と激減している。富士吉田キャンパスでの部室満足感低下の原因を調べる必要があるだろう。



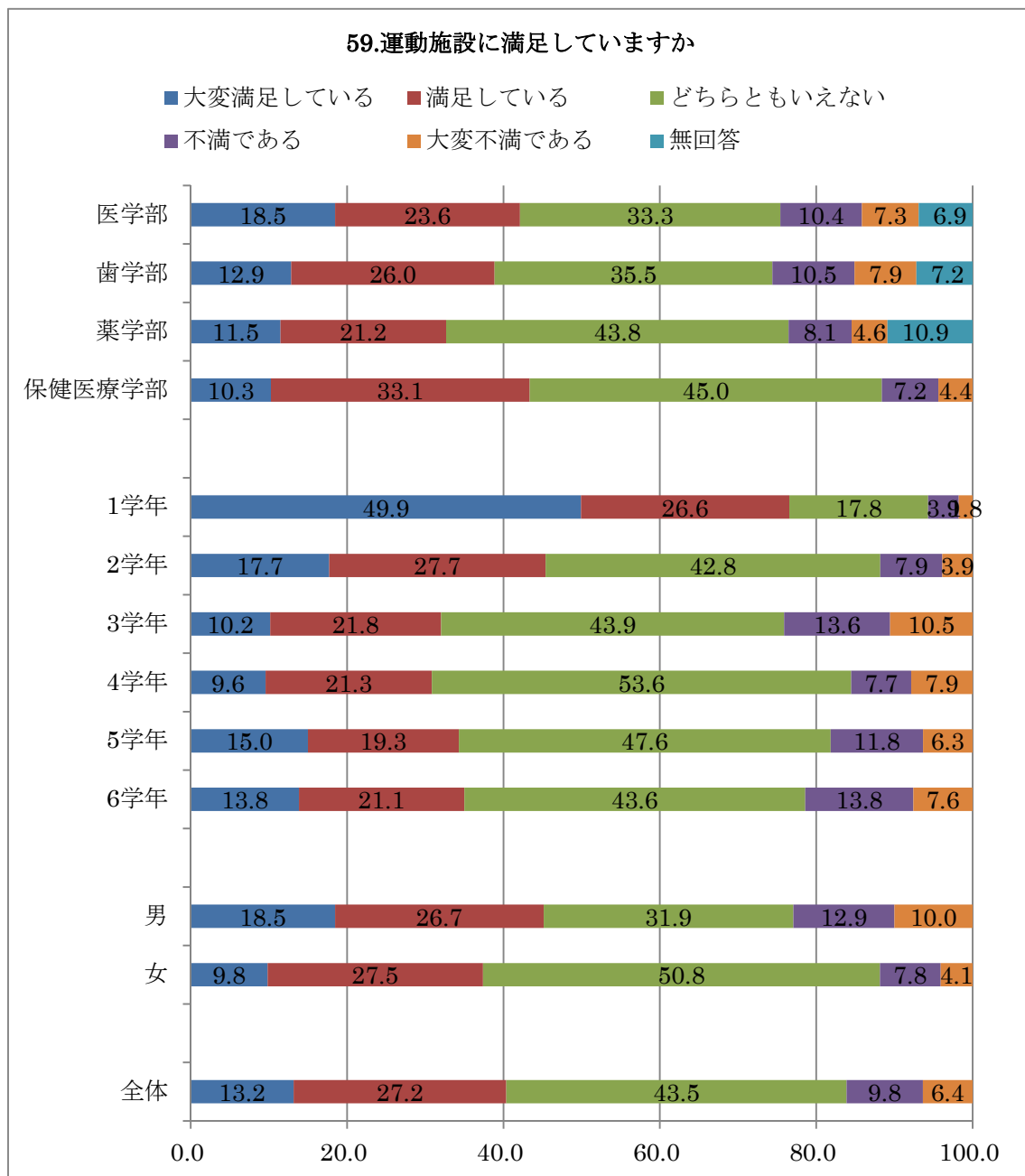
すべての学部で前回との比較で大変満足+満足の割合は増加している。全体で見ても同様であり、文連系クラブの環境は上向きと言える。しかしながら、全体で見た大変満足+満足は 28.3%(12.6+15.7)と決して高いとは言えない。文連系クラブの活動環境の整備は今回も課題の1つと言える。

58.利用したことのある本学の運動施設はどこですか

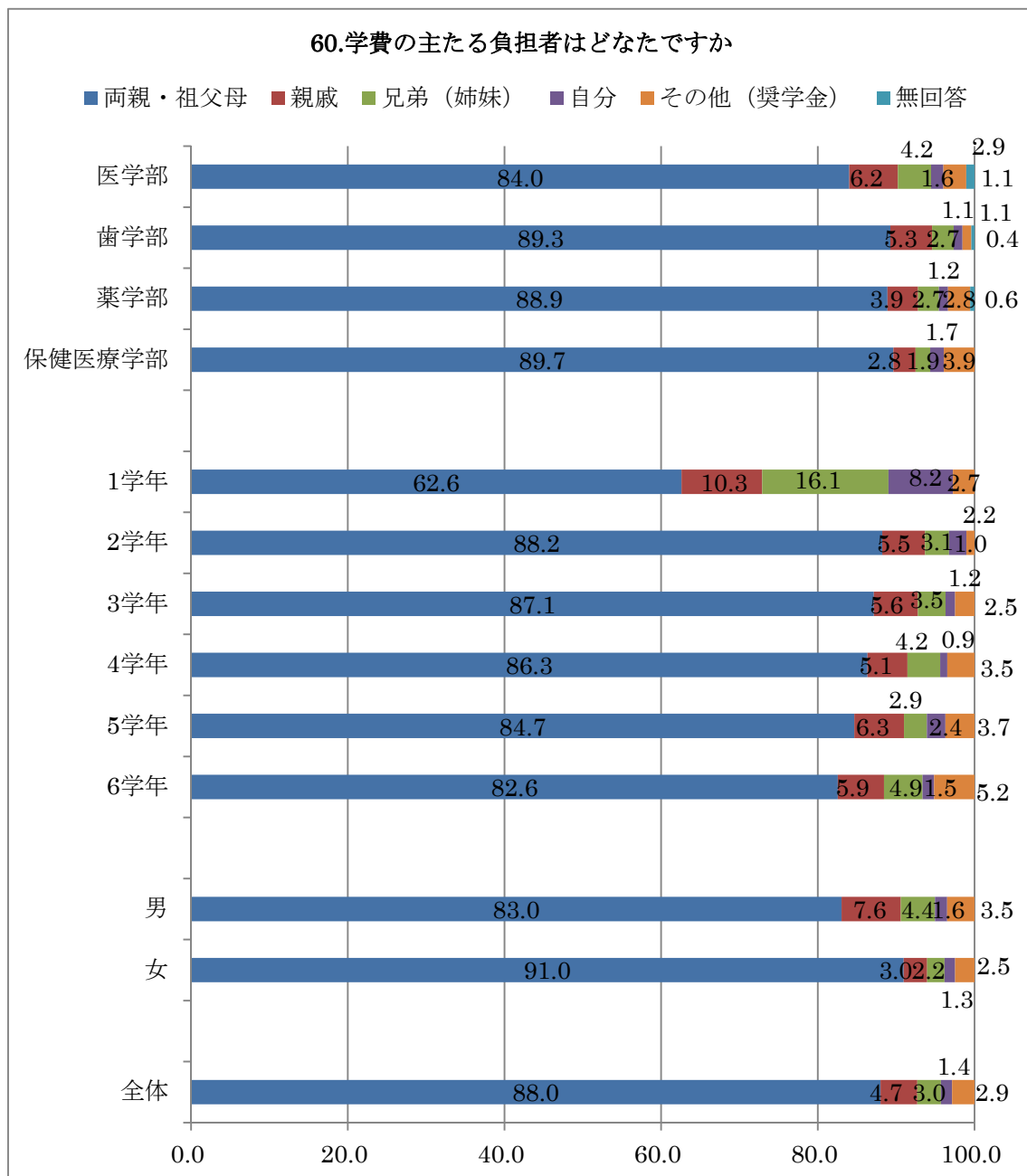
*複数回答可



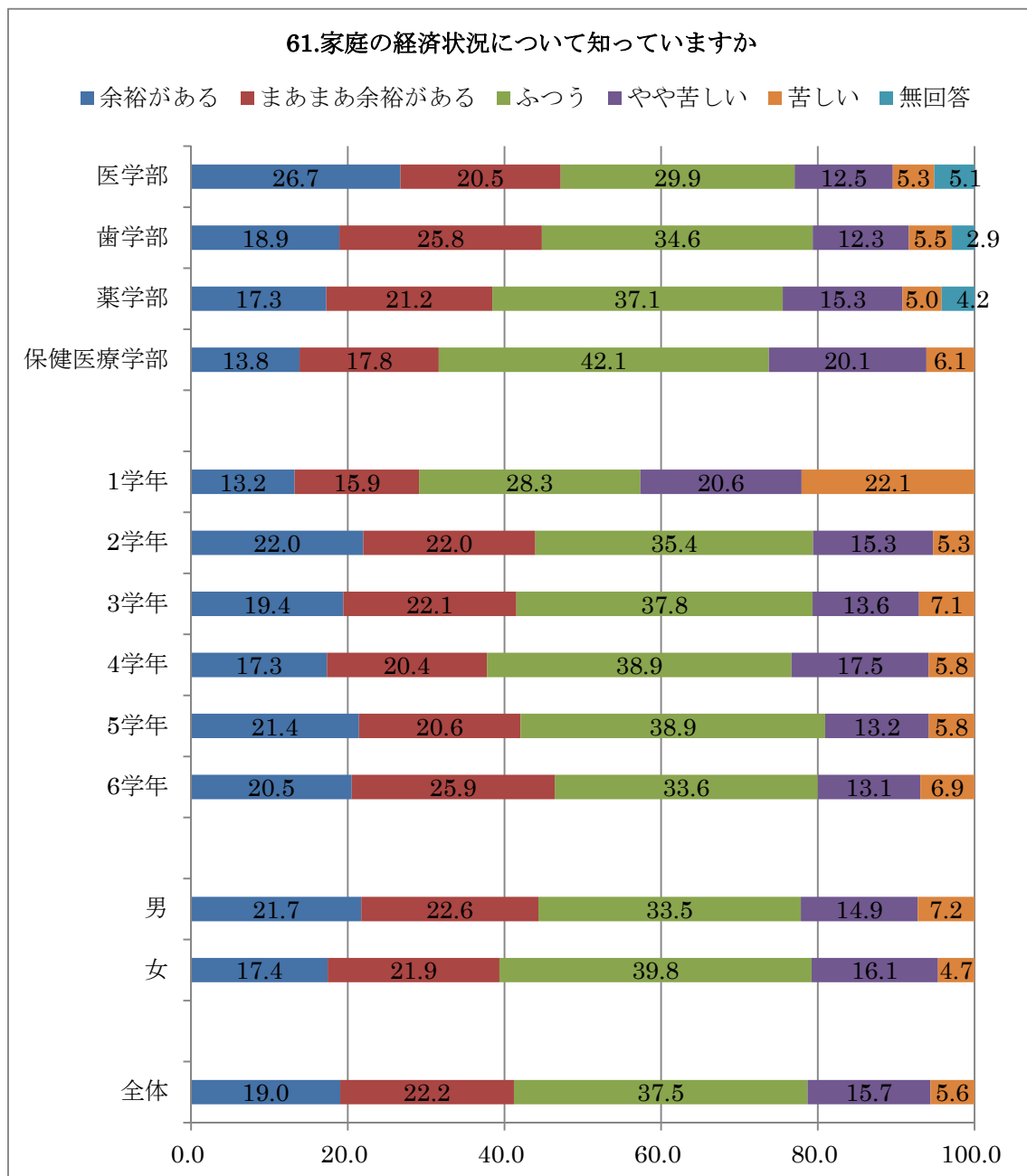
1年生でも長津田や7号館を利用している学生がいる。高学年では富士吉田の施設を利用したことがあるとしたものは少ないが、この設問には過去1年などの限定がないために解釈が難しい。1年時に富士吉田の施設の利用経験があってもそのように回答していないケースが考えられる。



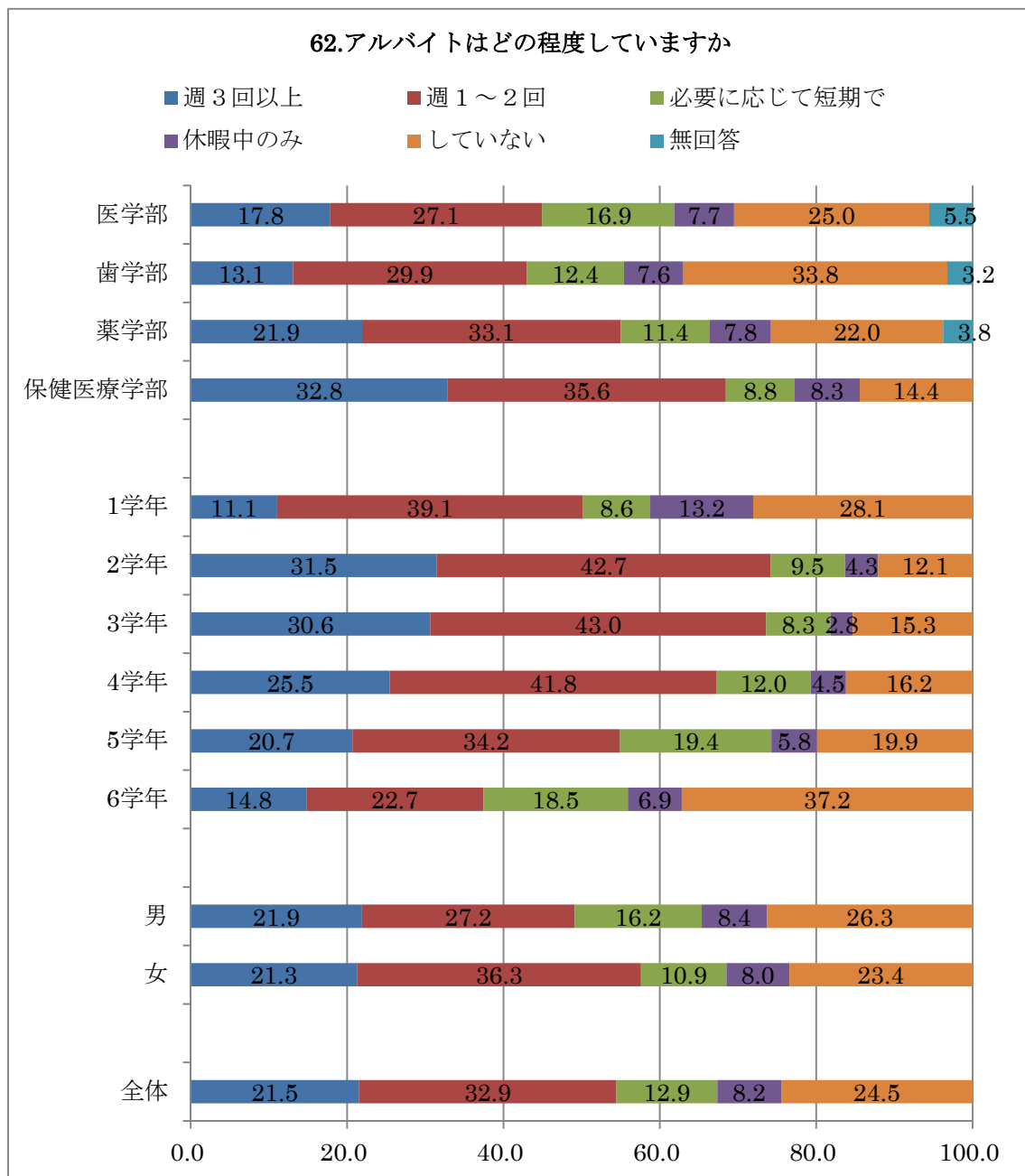
前回と比較すると、1年生の満足感が大きく上昇している。前回の1年生では大変満足+満足は50.9%（13.9+37.0）であったが、今回は76.5%（49.9+26.6）である。今回の1年生の不満+大変不満は5.7%であり、富士吉田の運動環境は概ね良好と判断できる。他はほぼ前回同様の結果である。



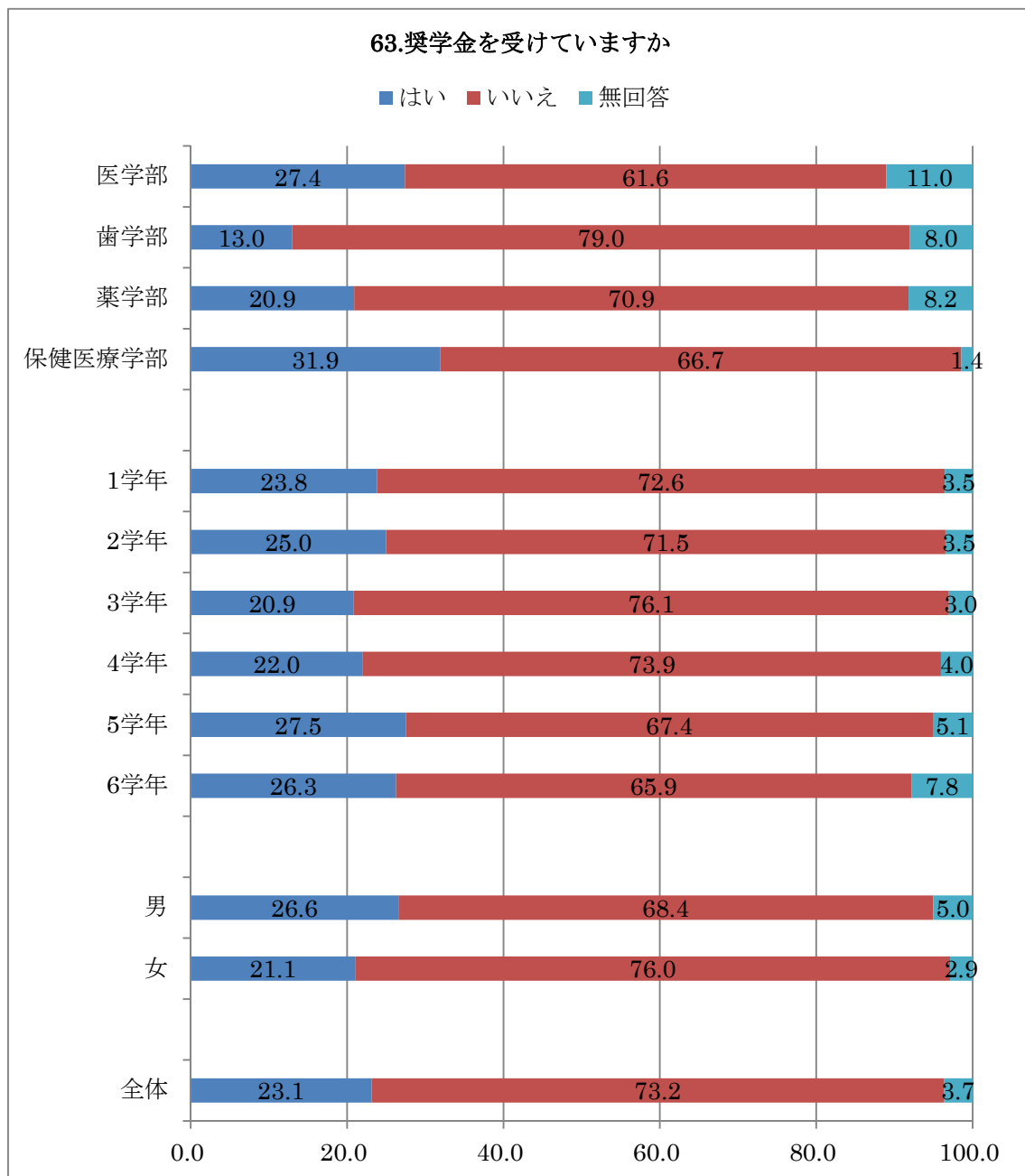
前回と比較すると、医学部において、両親・祖父母という回答が減少し（前回 91.1%、今回 84.0%）、親戚・兄弟・自分が増えている（奨学金は前回とほぼ同じ）。他に前回との比較で違いが目立つのは、1年生で、前回両親・祖父母が 93.5%であったのが、今回は 62.6%と大きく低下し、代わりに親戚・兄弟・自分が増加した。他学年と全く違う傾向なので、この学年の特有な状況かもしれない。



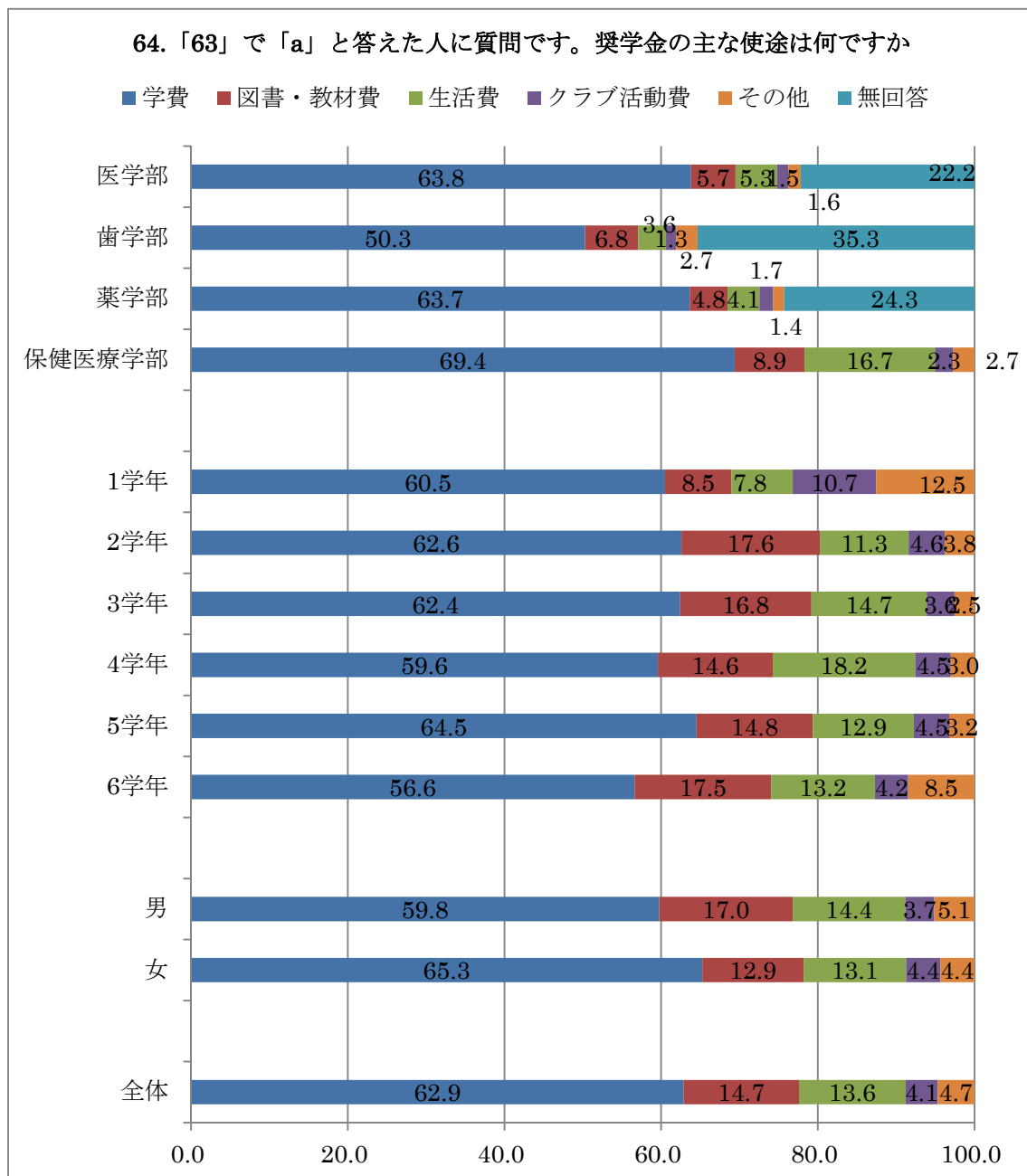
余裕+まあまあ余裕と回答したのは、医学部 47.2%、歯学部 44.7%、薬学部 38.5%、保健医療学部 31.6%の順番である。これは前回の調査と同じであるが、前回と比べると学部間差は縮小している。他に前回との比較で違いが目立つのは1年生で、やや苦しい+苦しいという回答は前回 33.8%であったが、今回は 42.7%で明らかに多い。他学年と全く違う傾向なので、この学年の特有な状況かもしれない。



アルバイトをしていないという割合は明らかに減っている。前回調査でのアルバイトをしていないという回答は、医学部 46.0%、歯学部 46.1%、薬学部 36.9%、保健医療学部 25.9%であったが、今回の調査では 25.0%、33.8%、22.0%、14.4%である。この傾向は1年生で顕著であり、前回 64.4%であったが、今回は 28.1%である。国試前の6年生でもこの傾向が目立ち、前回 56.8%が今回 37.2%である。

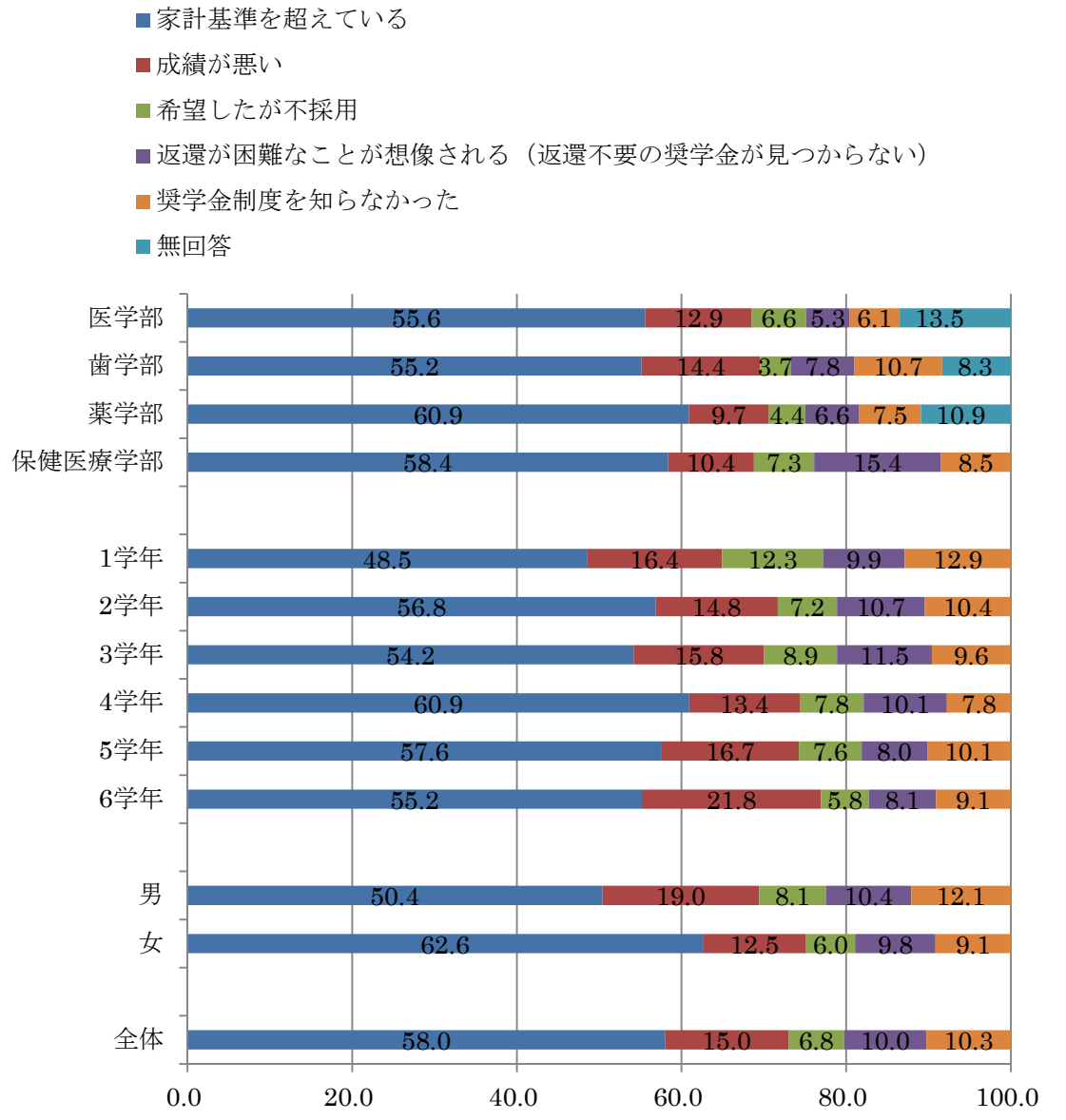


全体として奨学金を受給している学生は、前回 24.6%、今回 23.1%であり、ほぼ同様である。他の結果も前回とほぼ同様である。奨学金受給割合が歯学部で最も少ないのも前回と同じ。

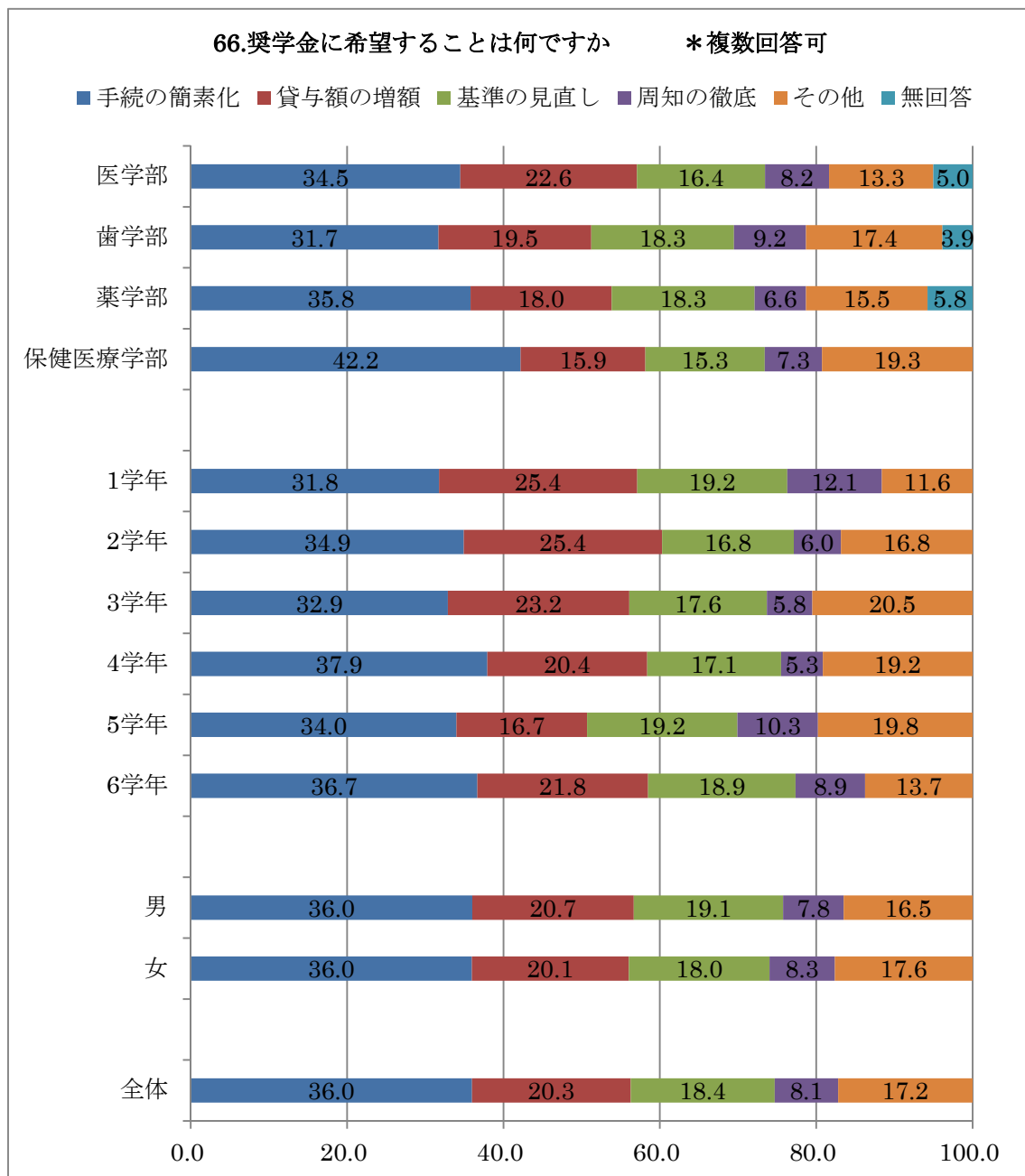


前回と比べて明らかに異なるのは、1年生である。前回の1年生は学費19.2%、図書・教材費79.9%であったが、今回の1年生では学費60.5%、図書・教材費が8.5%となり、学費に充当するという回答が明らかに多い。しかし、この割合は今回の2年生から6年生と同様の結果でもある。前回の1年生(今回の4年生に相当)に当時に何か特別な理由があった可能性もある。

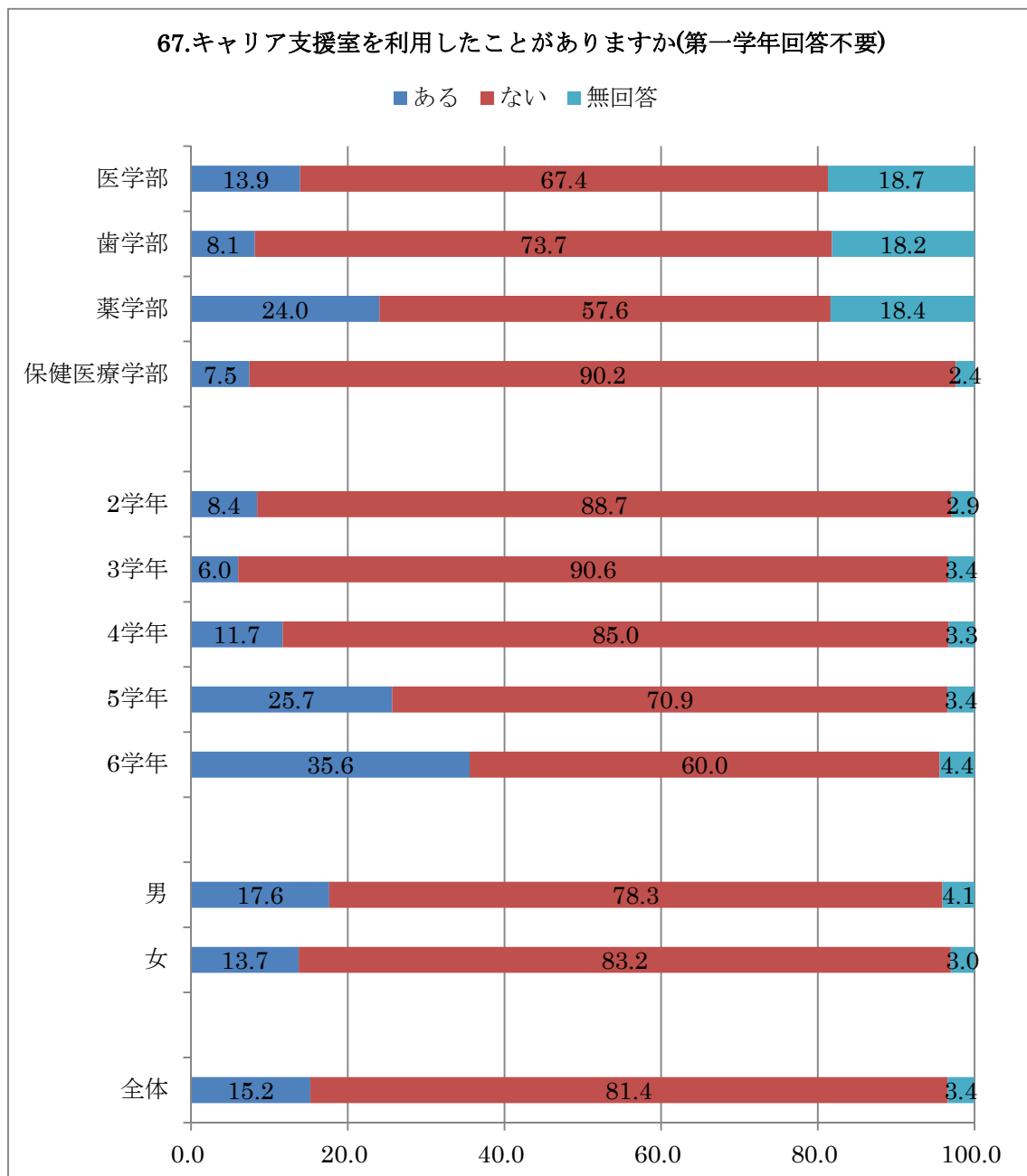
65.「63」で「b」を選んだ人に質問です。奨学金を受けていない人は、その理由は何ですか



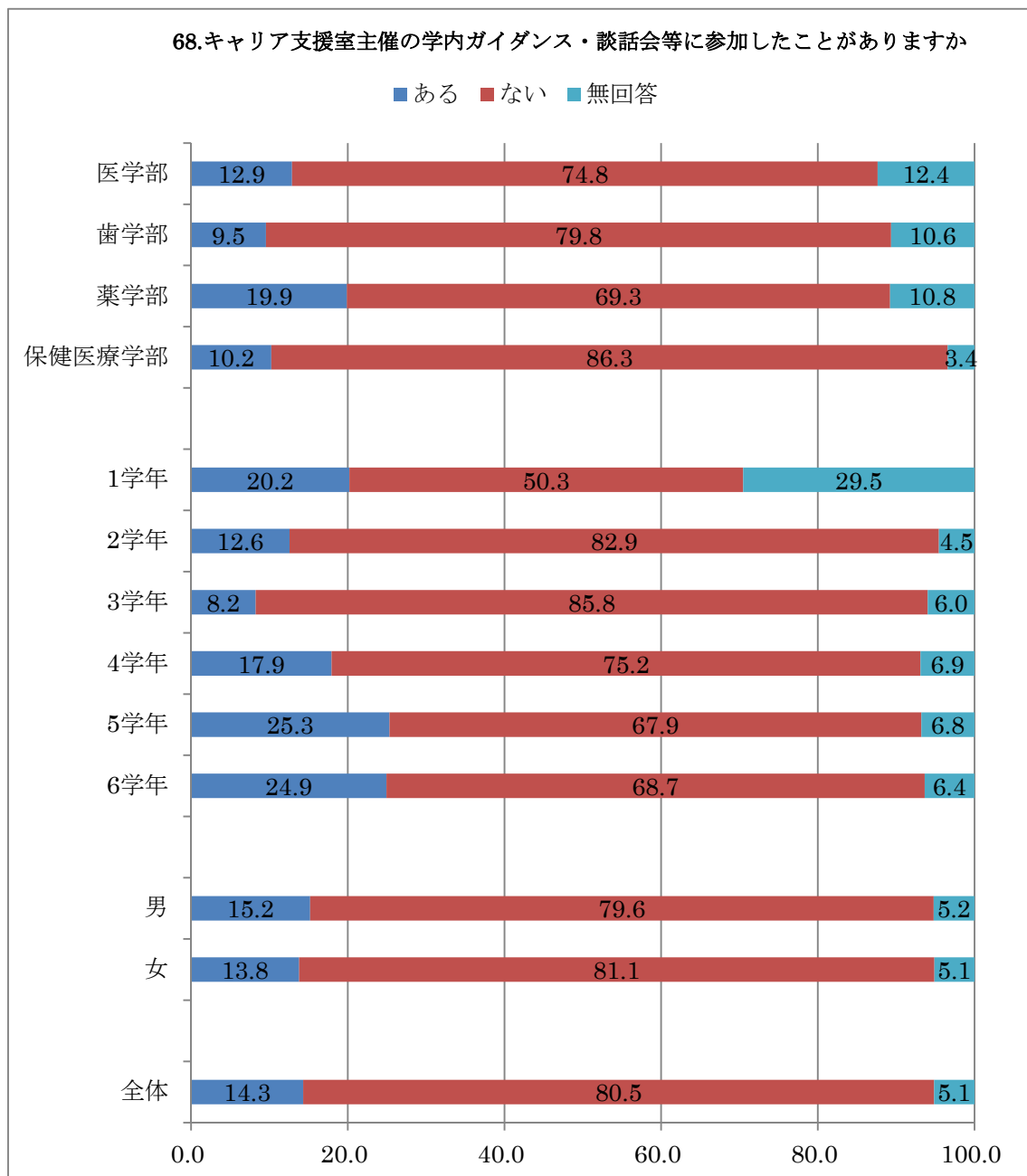
前回調査と比較すると、希望したが不採用という回答は全体としてわずかに増えている（前回 5.0%、今回 6.8%）。しかし、今回調査での 1 年生の 12.3% は明らかに高い数字である。奨学金制度を知らないという割合は減少している（全体で前回 12.8%、今回 10.3%）。



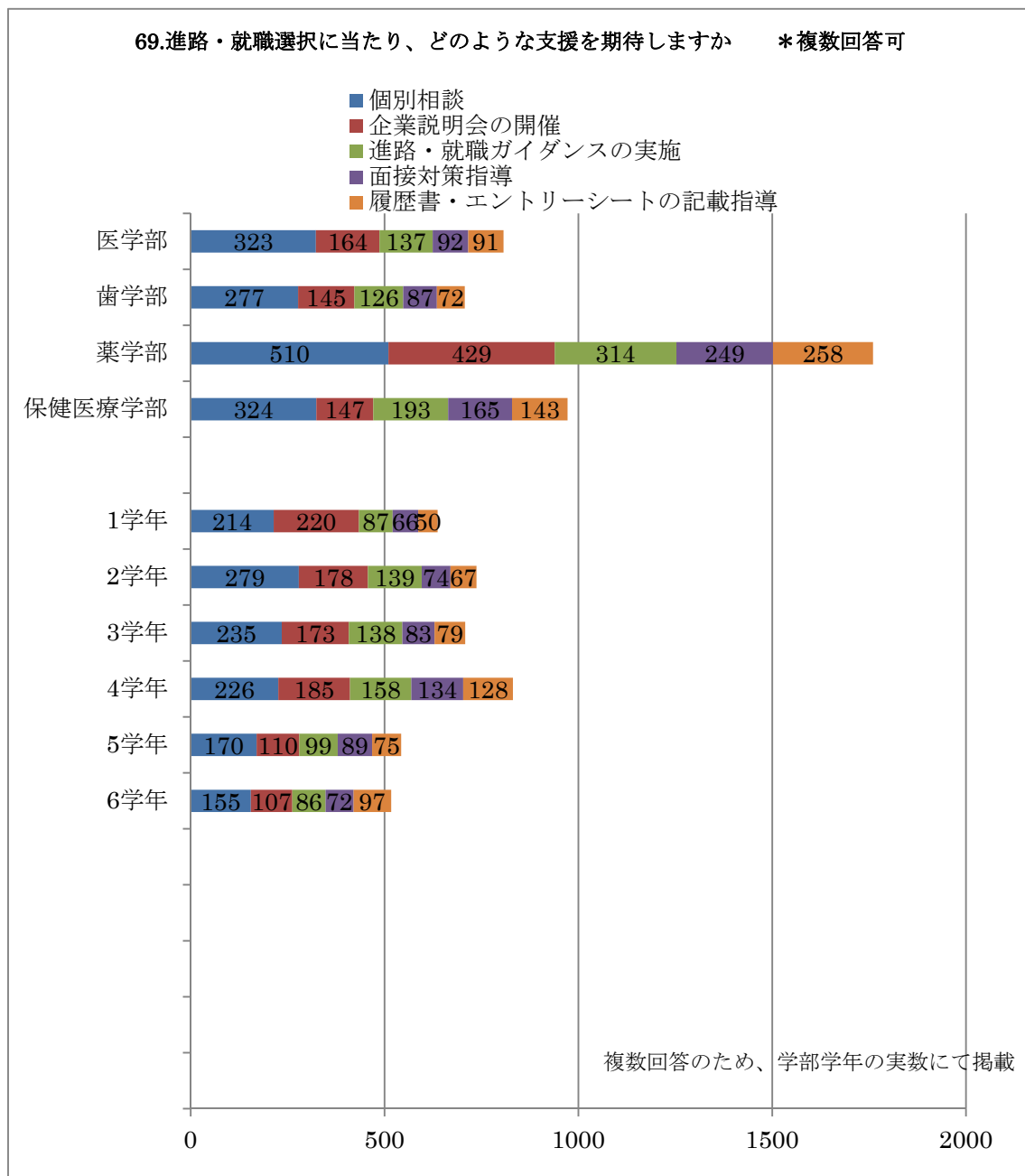
前回調査と比較すると、貸与額の増額を希望するという回答はほぼ同じ(前回 21.7%、今回 20.3%)。手続きの簡素化を望む声は依然として多い(前回 38.7%、今回 36.0%)。



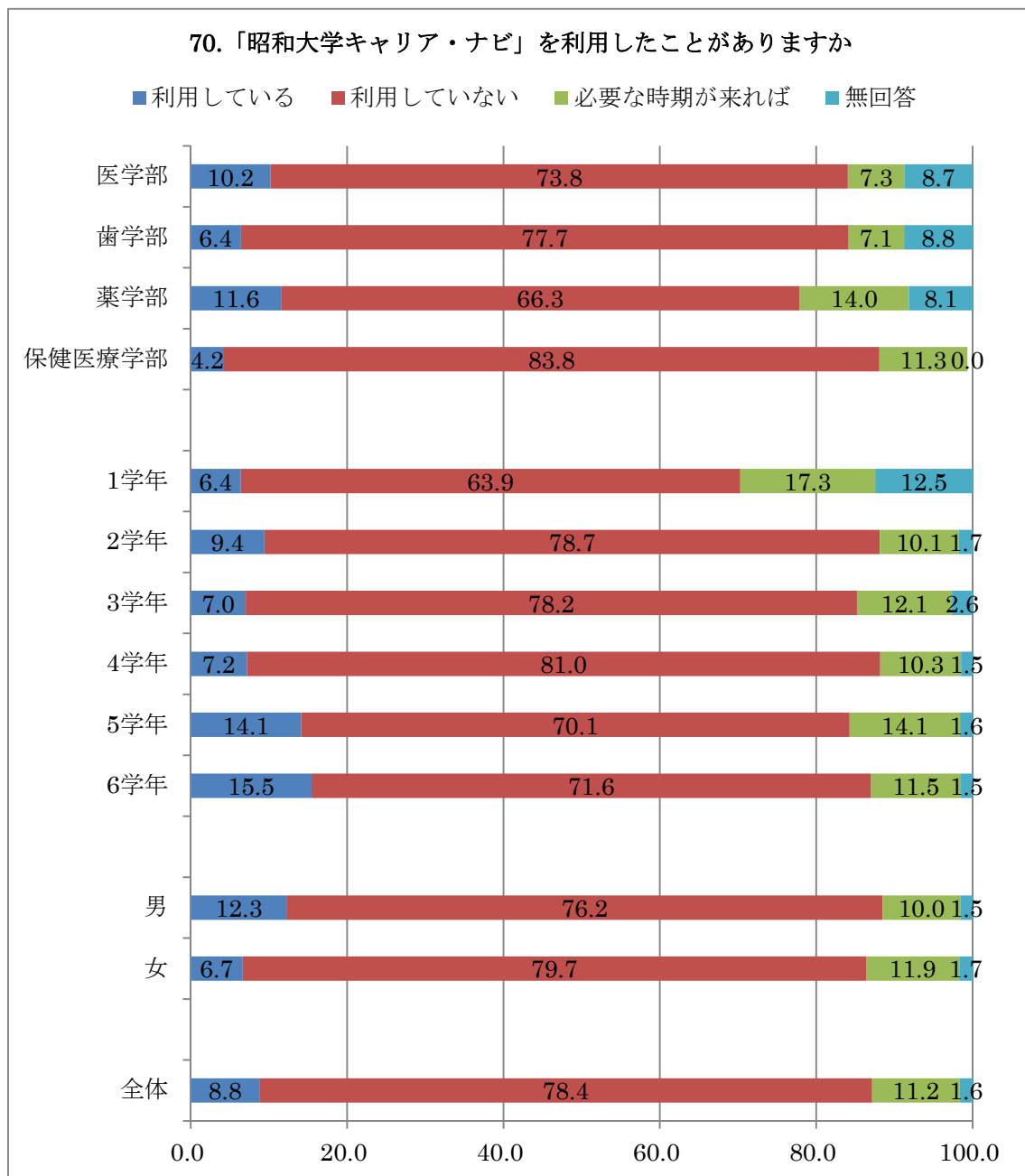
「キャリア支援室を利用したことがありますか」という質問に対して、「ある」が全体で15%、学部別では薬学部が24%で最も高く、学年別では5年次6年次の学生が多かった。実際に就職先の選択や求職活動で一番ニーズの高いのが薬学部なので、薬学部の5-6年次の学生にとっては、その多くが利用させて頂いているのではないだろうか。3年前の調査と比べると、薬学部生の利用%がやや低下し、他の学部の利用者が増加している。



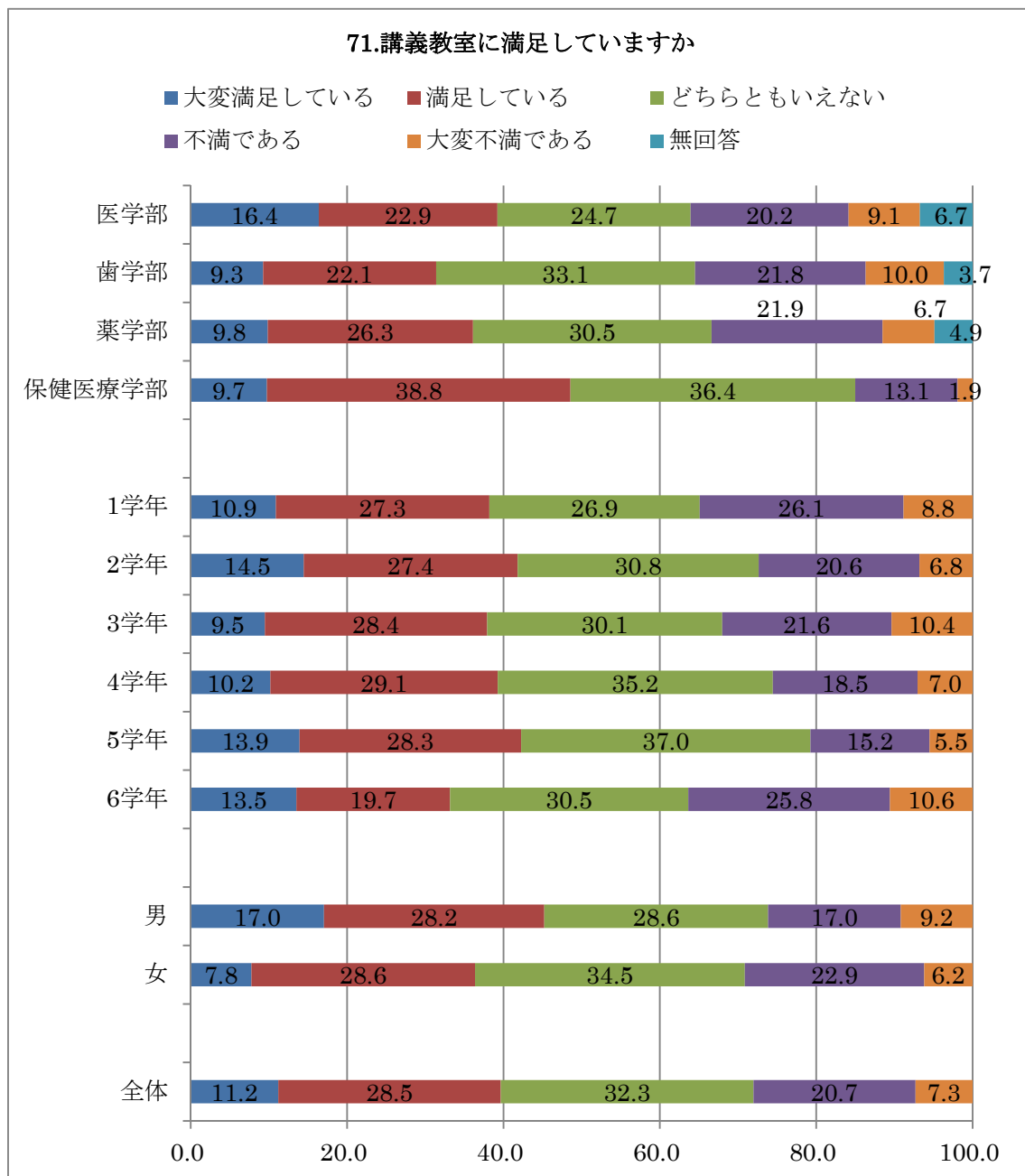
「キャリア支援室主催の学内ガイダンス・談話会等に参加したことがありますか」という質問に対して、全体で「ある」が14.3%にとどまった。薬学部の学生が市場の置かったが、19.9%にとどまっている。一方、1年生で20.2%と、2～4年生よりも高い参加割合であった。最初に、卒業後の将来像についての考えてもらう機会を作っている意味はある。



「進路・就職選択に当たり、どのような支援を期待しますか」という質問に対し、各学部とも、個別相談の希望が多く、次いで企業説明会、が進路ガイダンスの実施、面接対策指導の順であった。

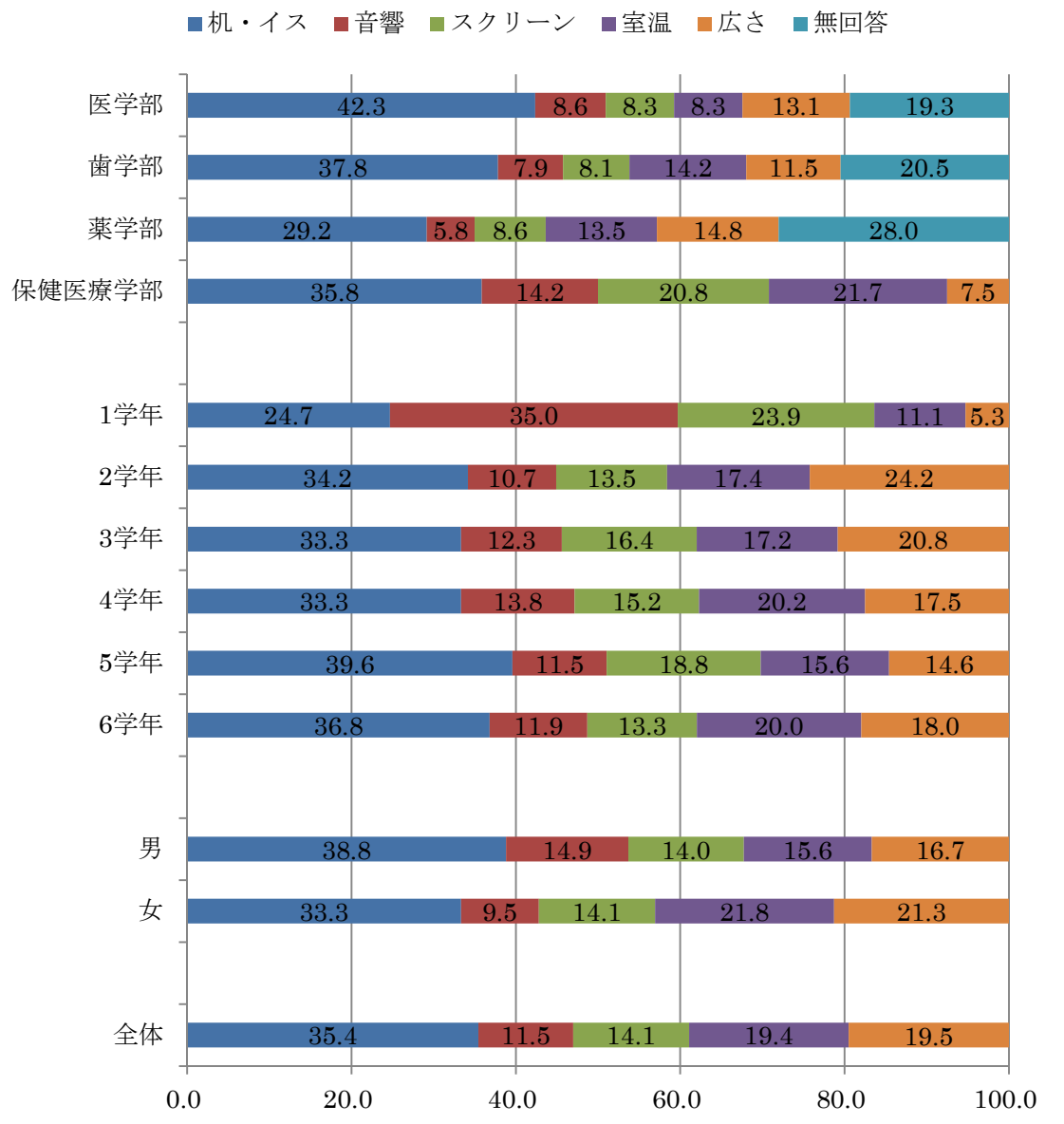


「昭和大学キャリア・ナビ」を利用したことがありますか」という質問に対して、「はい」が全体で 8.8%にとどまった。それでも 3 年前の同様の質問に対しては 5.4%であったので、利用者の割合は増加していると考えられる。

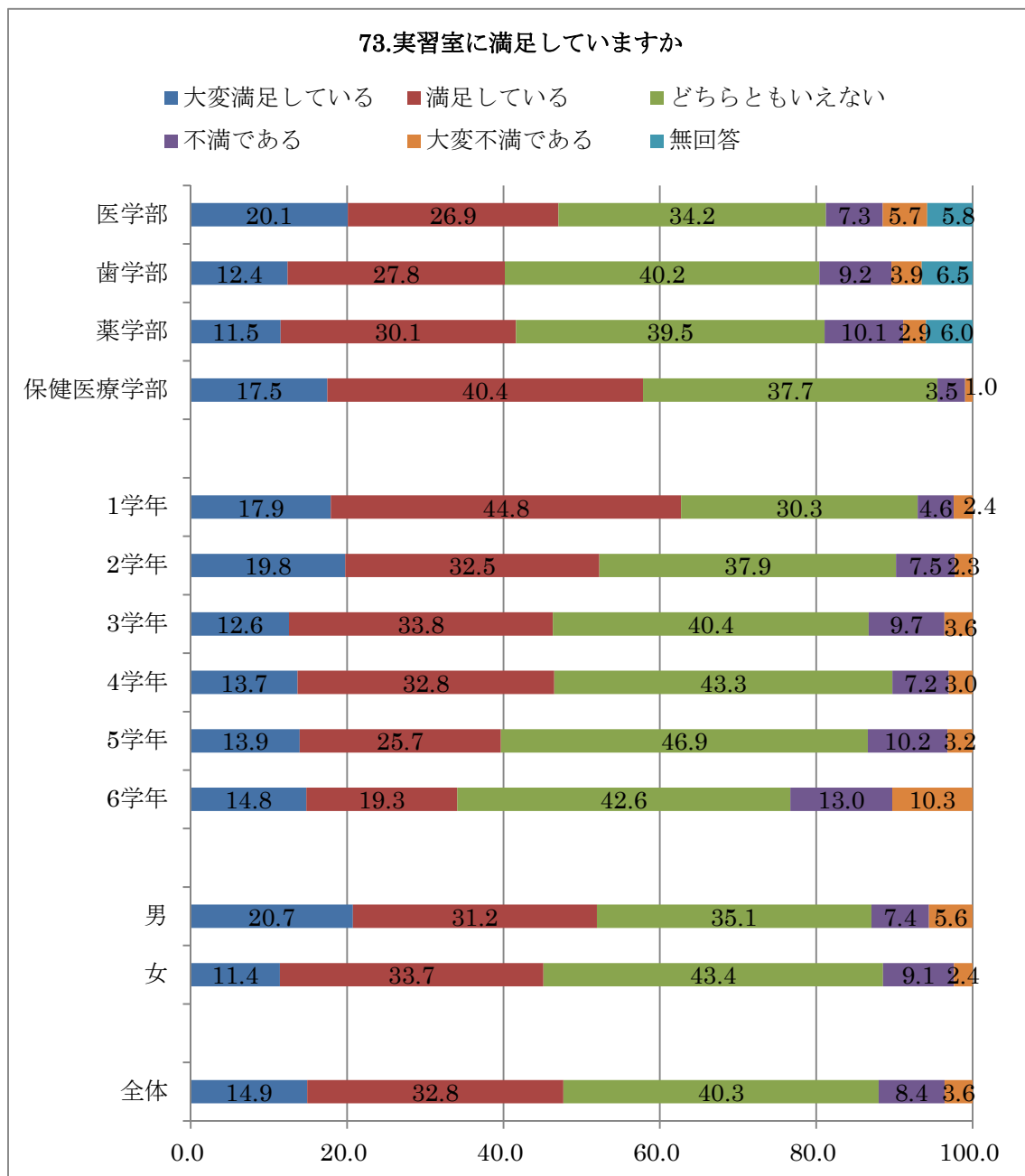


「講義室に満足していますか」という質問に対し、「大変満足している」「満足している」を併せて 33.1～49.5%になった。一方で、「大変不満である」「不満である」を併せると 29～32%あり、賛否相半ばする結果である。保健医療学部は「大変不満である」「不満である」が併せて 15%と最も少なかった。

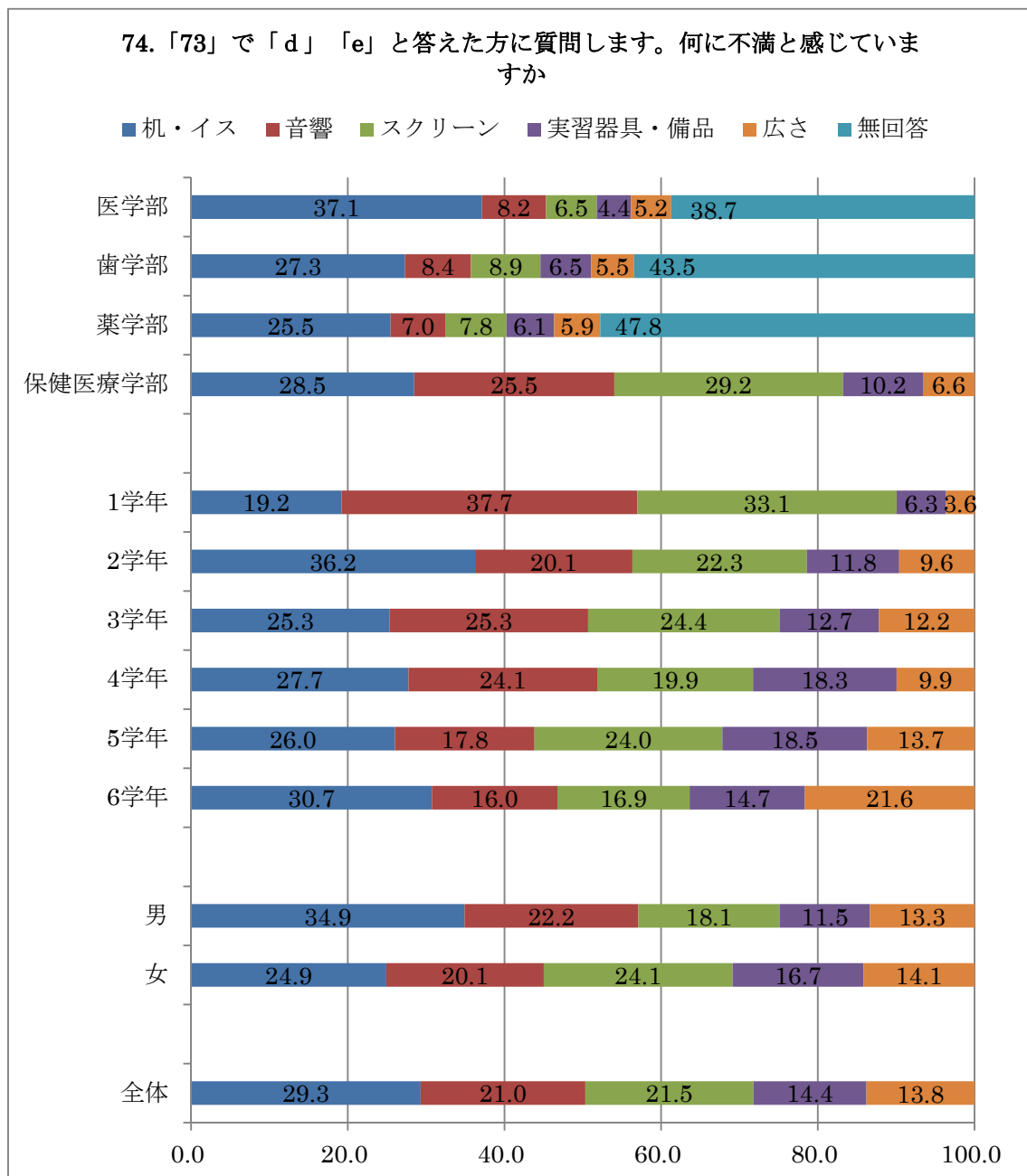
72. 「71」で「d」「e」と答えた方に質問します。何に不満と感じていますか



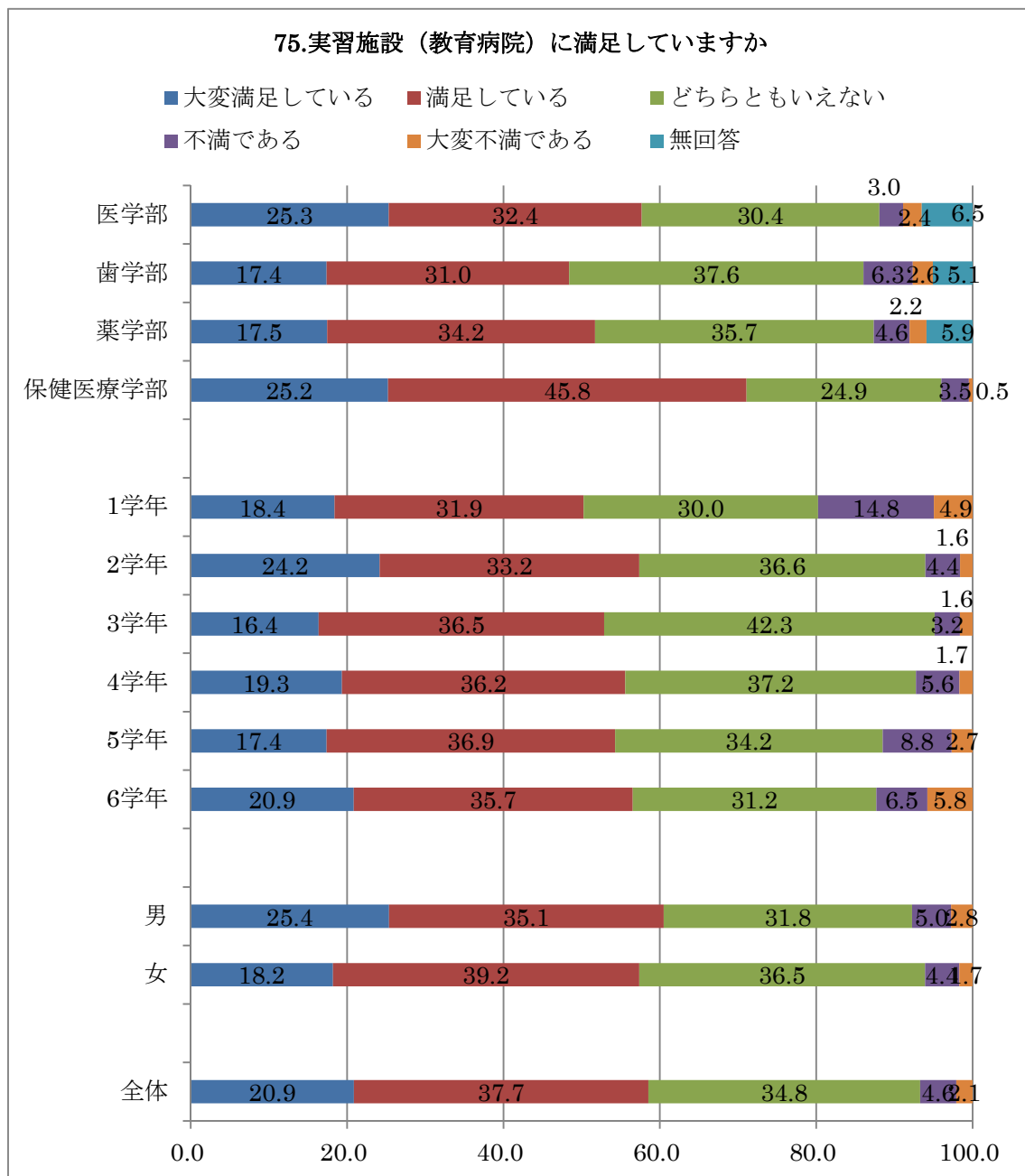
講義室に対する不満の理由が多かったのは、旗の台校舎では「机、イス」「室温」、長津田校舎では「机、イス」「室温」「スクリーン」で 29.2%から 42.3%であったの対し、富士吉田校舎では「音響」「机、イス」であった。



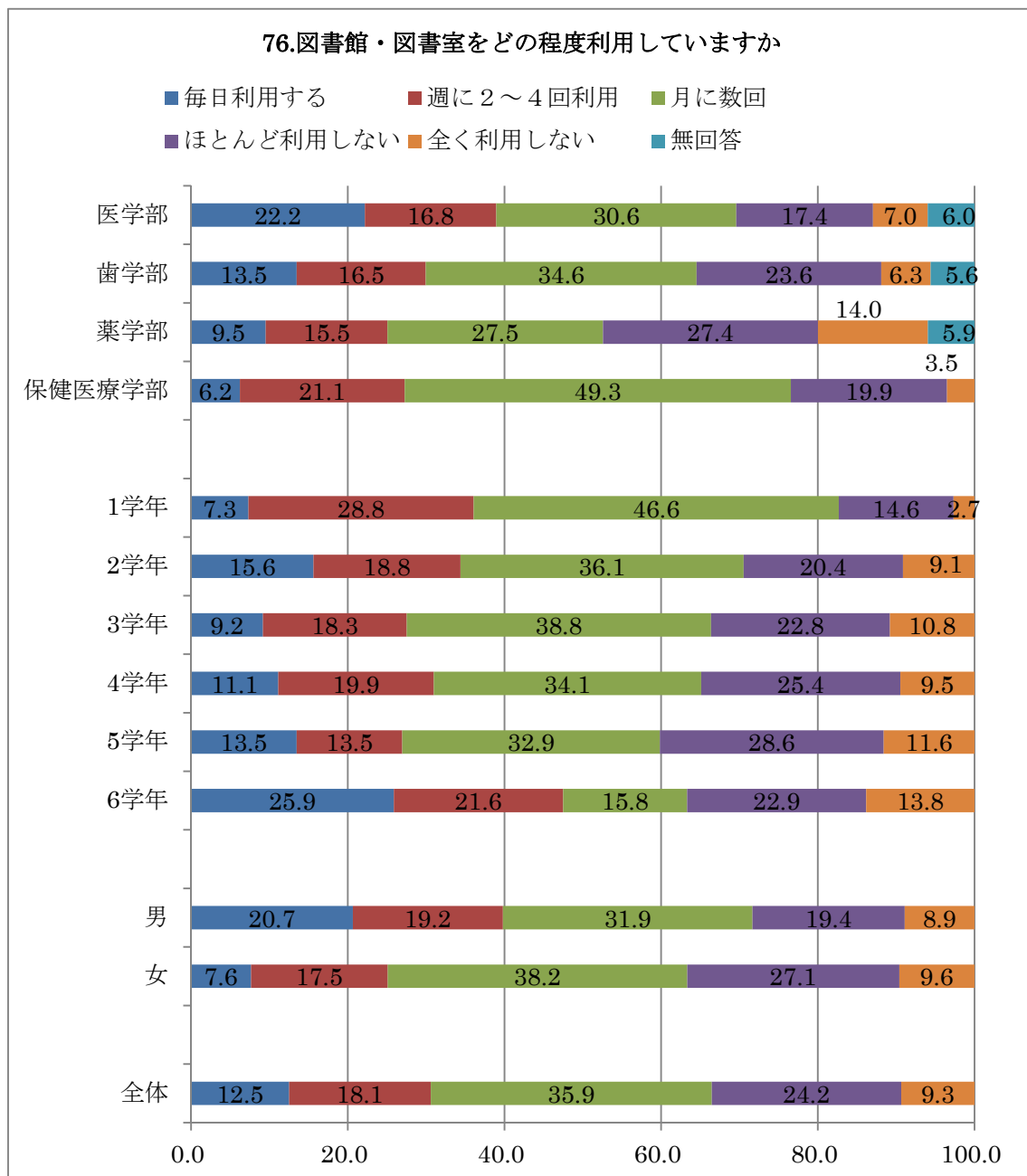
「実習室に満足していますか」という質問に対し、「大変満足している」「満足している」を併せて旗の台校舎で40～47%、長津田校舎で58%、富士吉田校舎で63%になった。一方で、「大変不満である」「不満である」は併せても13%程度であり、実習室の状況は概ね良好と思われた。



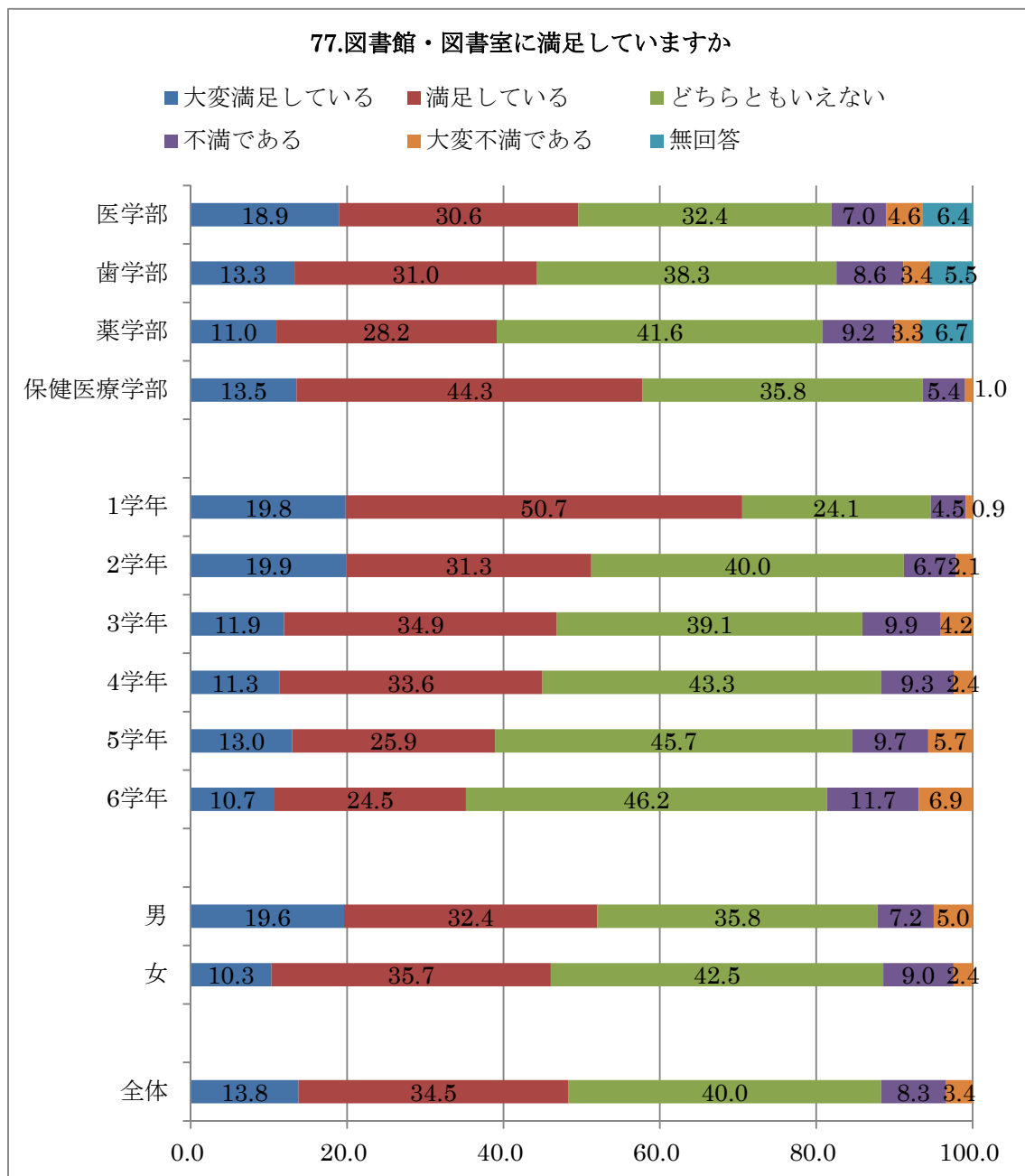
実習室に対する不満の理由で多かったのは、旗の台校舎では「机、イス」、長津田校舎では「スクリーン」「机、イス」「音響」で29.2%から42.3%であったの対し、富士吉田校舎では「音響」「スクリーン」「机、イス」であった。



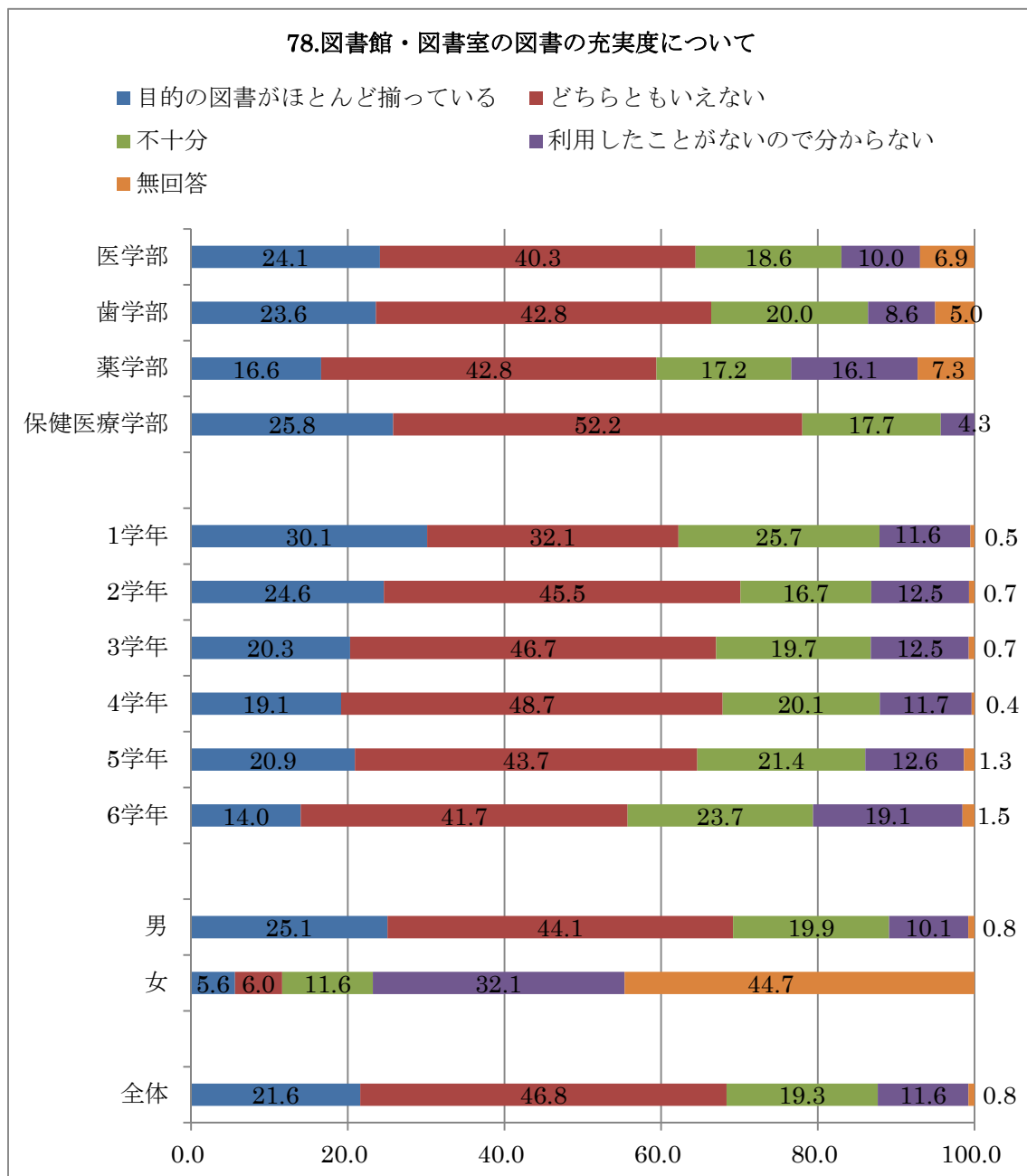
「実習施設(教育病院)に満足していますか」という質問に対し、「大変満足している」「満足している」を併せて 58%になった。一方で、「大変不満である」「不満である」は併せても 7%程度であり、病院での実習の状況は概ね好評と思われた。



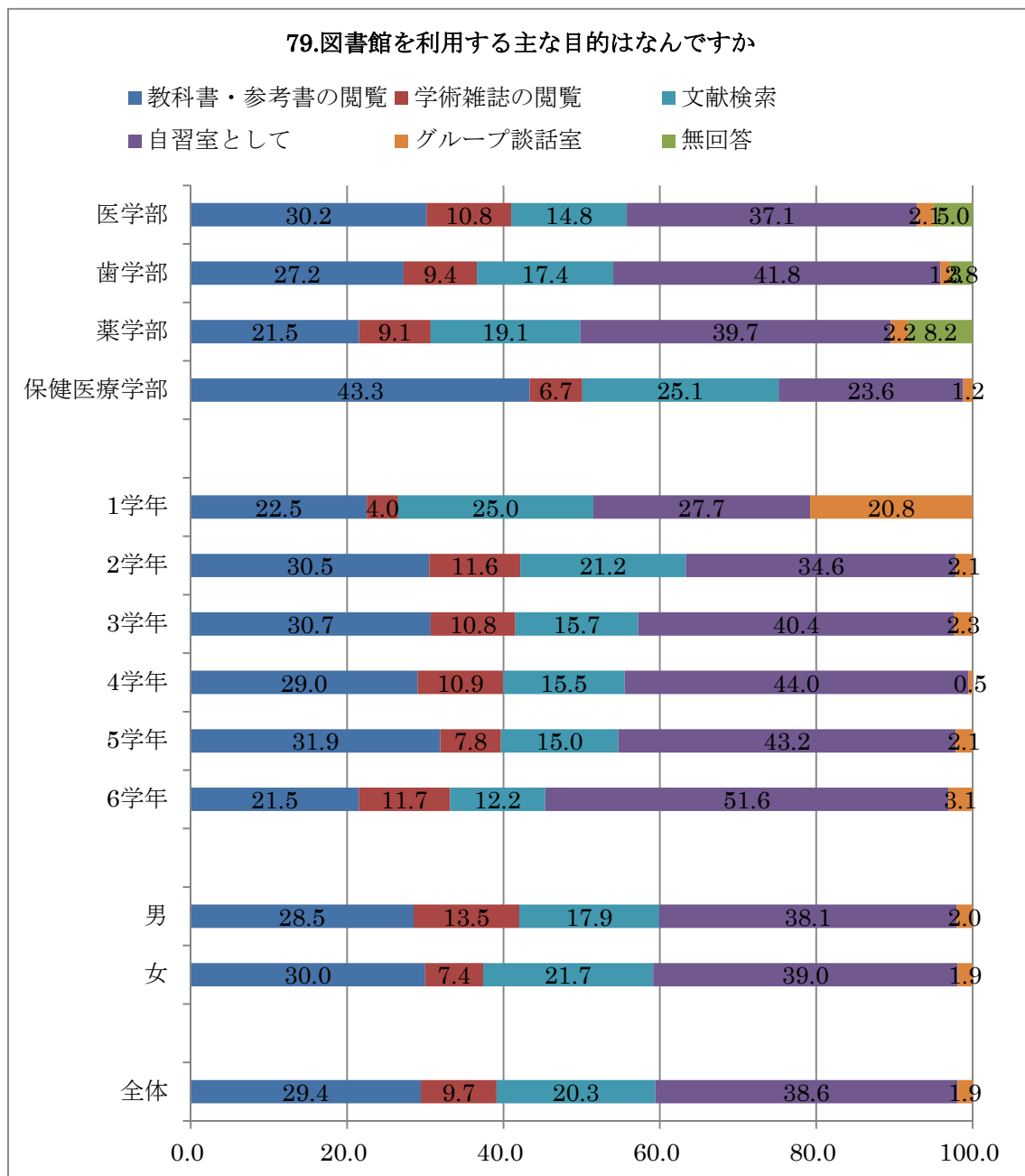
「図書館・図書室をどの程度利用していますか」という質問に対し、「毎日」「週に2～4回」が31%、一方「ほとんど利用しない」「まったく利用しない」が33%と上回った。学部別では、医学部の利用が最も多く、薬学部の利用が最も低調であった。利用率が最も高いのは6年次、最も低いのが5年次で、これは国家試験の勉強の時期と実務実習の時期であるためと考えられた。



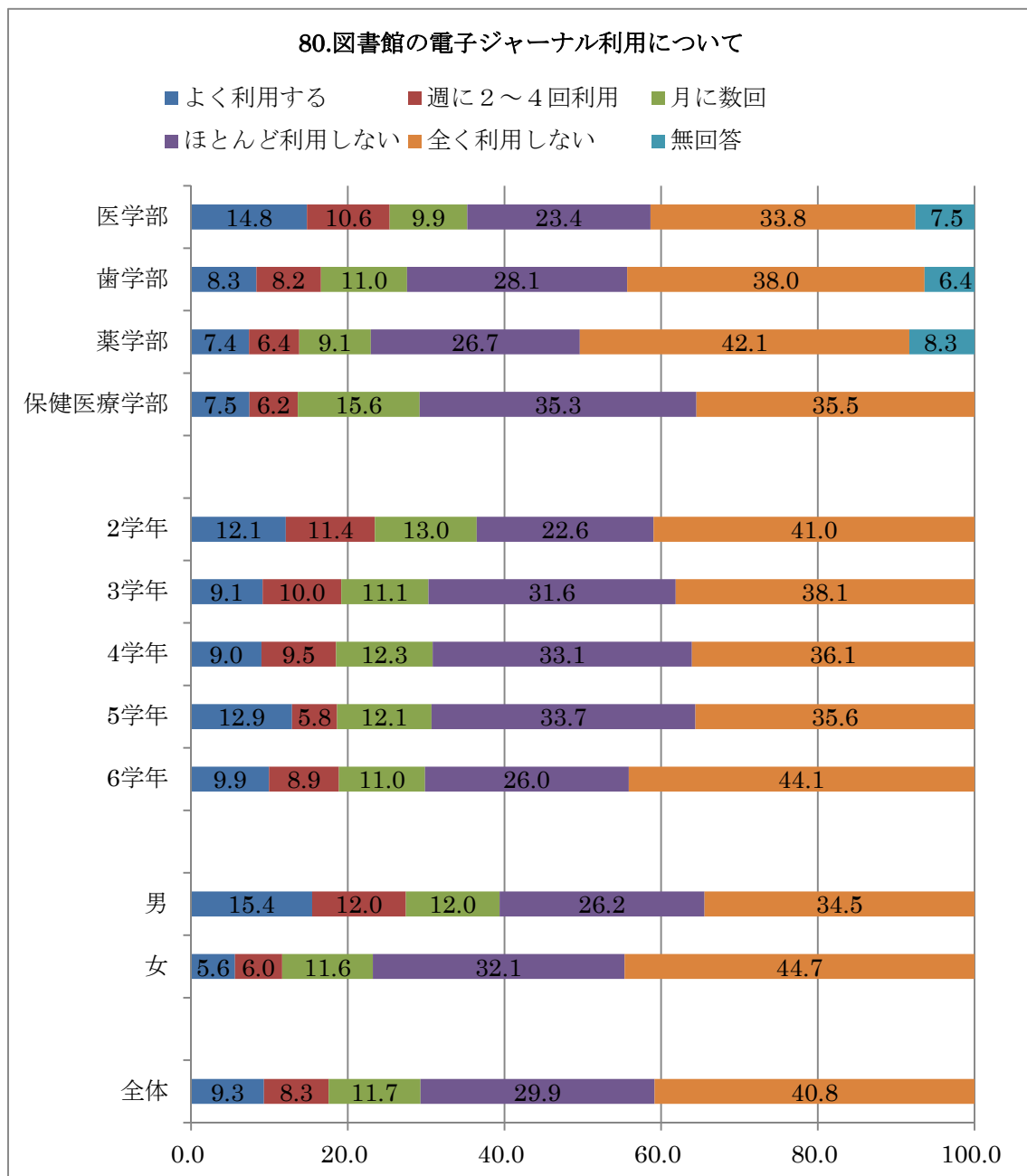
「図書館・図書室に満足していますか」という質問に対し、「大変満足している」「満足している」を併せて全体で48%、一方「大変不満である」「不満である」は併せても12%程度であった特に長津田校舎、富士吉田校舎の図書室の満足度が58%、70%と非常に高く、図書館の状況は良好と思われた。



「図書館・図書室の図書の充実度について」の質問に対し、「目的の図書がほとんど揃っている」が全体で22%、一方「不十分」と答えたのは19%で、相拮抗した評価である。なぜか、女性の45%が無回答、32%が「利用したことがないのでわからない」と解答し、図書館利用の目的が図書を借りることよりも学習スペースとしての利用が多いのかもしれない。



「図書館を利用する目的」は、「自習室として」が 39 で最も覆う、以下、「教科書・参考書の閲覧」29%、「文献検索」20%、「学術雑誌の閲覧」10%。一方、「グループ学習室」の利用はごくわずかであった。



「図書館の電子ジャーナルについて」は、「ほとんど利用しない」「まったく利用しない」が併せて 70%であった。学術雑誌や電子ジャーナルは主に大学院生、教職員、研究生が利用しており、学部学生にはあまり機会がないものと思われる。